分布調查報告書(35)

2009

山形県教育委員会

分布調查報告書(35)

平成 21 年 3 月

山形県教育委員会

本書は、山形県教育委員会が平成19年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果をまとめた ものです。

平成 17 年度から施行された第 5 次山形県教育振興計画は、「いのち」「まなび」「かかわり」を主要なテーマとして実践されておりますが、埋蔵文化財の保存と活用については文化財基礎調査や遺跡詳細分布調査を計画的に実施すること、埋蔵文化財基本台帳等の整備を図り、文化財情報システムの構築や文化財の周知徹底・普及に務めることなどが大きな柱とされております。そのため、本県では毎年実施している分布調査によって得られた成果を年度毎に「分布調査報告書」としてまとめると共に、それらの情報を基として遺跡所在地の更新とその周知を図っているところです。

このように、遺跡詳細分布調査は、既に知られている埋蔵文化財包蔵地及び未発見のままとなっている包蔵地等と、県内各地で計画される各種の開発計画との調整を図るために行っているものですが、調査の結果、新たな遺跡の発見や範囲の変更、あるいは削除など年々新たな情報が追加されて来ています。

本書の刊行は、こうした新しい埋蔵文化財に関するデータを提供し、遺跡の保護や保全 に資することを目的としていますので、関係各位におかれては開発計画の策定にあたって 積極的にこれらの新情報を御活用いただければ幸いと思っております。

平成 21 年 3 月

山形県教育委員会 教育長 山口 常夫

例 言

- 1 本書は平成 19 年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した平成 20 年度以降 の開発に係る農林土木事業関係遺跡他を対象として実施した遺跡詳細分布調査(県内遺跡 発掘調査)の報告書である。
- 2 本書の作成は山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室の石井浩幸(平成19年度)、 及び山形県教育庁文化遺産課の阿部明彦、小嶋康広、丸吉繁一(平成20年度)の3名が担 当した。
- 3 第Ⅰ章に平成19年度の調査遺跡一覧、第Ⅱ章に個々の調査概要を掲載した。また、第 Ⅲ章では記録保存調査の結果を報告し、第Ⅳ章でこれらの調査結果を纏めるとともに、平 成19年度に国等の機関や市町村教育委員会、地権者から通知または届出のあった新規発見 遺跡の一覧を掲載した。なお、平成19年度までの新規発見遺跡、登録抹消遺跡、範囲・位 置の変更については本書の発行をもって周知されたものとする。
- 4 挿図の縮尺は不統一であり、図毎にスケールを示した。断面図類は20分の1を基本と したが、一部40分の1も採用した。遺跡地図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を 使用している。なお、第Ⅱ章-2及び第Ⅲ章では、これを縮小して使用した。使用地図の 図幅一覧は巻末に記した通りである。
- 5 挿図及び文中の記号は以下の通りである。

TないしTTは試掘溝(トレンチ)、TPと□は試掘抗を表している。また、調査概要図 中の赤色部分は遺構・遺物が検出されたことを示し、黒色部分は遺構・遺物が未検出であ ることを示す。また、遺跡位置図の赤色部分は遺跡の範囲や調査の対象地を示している。

本文中、あるいは挿図中の英字記号は、以下に記す遺構の性格と対応している。

ST-竪穴住居跡

SB-建物跡 SK-土壙 SD-溝跡 EB-掘り方

EP-柱穴

SX-性格不明遺構

- 6 図版の遺物縮尺は任意である。
- 7 調査にあたっては、関係機関・市町村教育委員会及び地権者各位、地元関係者の御協 力を得た。ここに記して感謝申し上げる。

目 次

Ι		査の目的、方法と経過	
		調査の目的、方法	1
	2	調査の経過	1
П	調	査の概要	
		遺跡地名表	
		県農林事業関係遺跡	4
	(2)	県土木事業関係遺跡	4
	(3)	県教育庁関係遺跡	6
		住宅公社関係遺跡	8
	(5)	国土交通省関係遺跡	8
	(6)	農林水産省関係遺跡	8
		試掘調査の概要	
		植ノ山2遺跡	26
		植ノ山3遺跡	27
		植ノ山遺跡可能性地	28
		下大曽根遺跡	32
		鷺畑新田遺跡	36
	(6)	新町遺跡	40
	(7)	南台遺跡	41
		下九野本地区遺跡可能性地2	42
	(9)	下九野本地区遺跡可能性地3	43
		小平4遺跡	48
		天童市古関地区遺跡可能性地 2	52
		山元遺跡隣接遺跡可能性地	56
		飛田市飛鳥遺跡可能性地2	60
		白山遺跡可能性地	64
		船止遺跡	66
	(16)	山形城三の丸(春日町)	68
		三沢 b 遺跡	72
		山形城三の丸(旅篭町)	74
	(19)	西原遺跡	78
	(20)		82
	(21)		86
	(22)	米沢南陽道路 IC 予定地······	90
	(23)	水窪遺跡	92

山 記録保存	・立会調査の概要		
(1) 下大	曽根遺跡		96
(2) 葎田	2遺跡		108
(3) 山形	元屋敷遺跡		117
			119
			123
(6)高瀬	山遺跡 ·····		128
Ⅳ まとめ			
1 調査遺	は跡について		
2 新規登	録遺跡及び記載事項	変更遺跡、登録抹消遺跡	
(1) 県教育	育委員会が発見し登録	:した遺跡	131
(2) 国等(の機関、市町村教育委	員会からの通知、地権者からの届出	
によ	り登録した遺跡		131
(3) 範囲等	等の修正を必要とする	遺跡、登録を抹消した遺跡	131
	,		
抄 録			
	遺跡地名	法 挿図・図版目次	
遺跡地名表	位置図・図版 1	県農林事業関係遺跡	10
遺跡地名表	位置図・図版 2	県農林事業関係遺跡	11
遺跡地名表	位置図・図版 3	県農林・県病院局関係遺跡	
遺跡地名表		県農林・県土木事業関係遺跡	
遺跡地名表	位置図・図版 5	県土木事業関係遺跡	14
遺跡地名表	位置図・図版 6	県土木事業関係遺跡	15
遺跡地名表	位置図・図版 7	県土木事業関係遺跡	16
遺跡地名表	位置図・図版 8	用工业市类用区事时	
遺跡地名表	位置図・図版 9	県土木事業関係遺跡	17
害时业女主		県土木・国土交通省事業関係遺跡 ·······	17 18
遺跡地名表	位置図・図版 10	· ·	
遺跡地名表	位置図・図版 10 位置図・図版 11	県土木・国土交通省事業関係遺跡	18
		県土木・国土交通省事業関係遺跡 県土木事業関係遺跡	18 19
遺跡地名表	位置図・図版 11	県土木・国土交通省事業関係遺跡 県土木事業関係遺跡 県土木・県教育委員会事業関係遺跡	18 19 20
遺跡地名表 遺跡地名表	位置図・図版 11 位置図・図版 12	県土木・国土交通省事業関係遺跡 県土木事業関係遺跡 県土木・県教育委員会事業関係遺跡 県企業局他関係遺跡	18 19 20 21
遺跡地名表 遺跡地名表 遺跡地名表	位置図・図版 11 位置図・図版 12 位置図・図版 13	県土木・国土交通省事業関係遺跡 県土木事業関係遺跡 県土木・県教育委員会事業関係遺跡 県企業局他関係遺跡 県土木・国土交通省事業関係遺跡	18 19 20 21 22
遺跡地名表 遺跡地名表 遺跡地名表 遺跡地名表	位置図・図版 11 位置図・図版 12 位置図・図版 13 位置図・図版 14	県土木・国土交通省事業関係遺跡 県土木事業関係遺跡 県土木・県教育委員会事業関係遺跡 県企業局他関係遺跡 県土木・国土交通省事業関係遺跡 国土交通省関係遺跡	18 19 20 21 22 23

挿 図 目 次

第1図	植ノ山2遺跡調査概要図26	第 35 図	西原遺跡調査断面図80
第 2 図	植ノ山3遺跡調査概要図27	第 36 図	家の廻り遺跡調査概要図82
第 3 図	植ノ山遺跡可能性地調査概要図28	第 37 図	家の廻り遺跡調査平面図 断面図83
第 4 図	植ノ山遺跡可能性地調査平面図29	第 38 図	東北中央道遺跡可能性地 12 調査概要図86
第 5 図	植ノ山遺跡可能性地調査断面図30	第 39 図	東北中央道遺跡可能性地 12 調査平面図87
第 6 図	下大曽根遺跡調査概要図32	第 40 図	東北中央道遺跡可能性地 12 調査断面図88
第 7 図	下大曽根遺跡調査断面図33	第 41 図	米沢南陽道路 IC 予定地調査概要図 ·····90
第8図	鷺畑新田遺跡調査概要図 断面図37	第 42 図	米沢南陽道路 IC 予定地調査断面図91
第 9 図	鷺畑新田遺跡調査断面図38	第 43 図	水窪遺跡調査概要図93
第 10 図	新町遺跡調査概要図40	第 44図	水窪遺跡調査平面図 断面図94
第11図	南台遺跡調査概要図41	第 45 図	下大曽根遺跡調査概要図97
第 12 図	下九野本地区遺跡可能性地2調査概要図42	第 46 図	下大曽根遺跡調査平面図(1)99
第13図	下九野本地区遺跡可能性地3調査平面図 断面図 …44	第 47 図	下大曽根遺跡調査平面図 断面図 (1) 100
第 14 図	小平4遺跡調査概要図48	第 48 図	下大曽根遺跡調査平面図 (2) 101
第 15 図	小平4遺跡調査平面図 断面図49	第 49 図	下大曽根遺跡調査平面図 断面図 (2) 102
第16図	小平4遺跡調査断面図50	第 50 図	下大曽根遺跡調査平面図 断面図 (3) 103
第17図	天童市小関地区遺跡可能性地2調査概要図52	第 51 図	下大曽根遺跡調査断面図 (3) 104
第 18 図	天童市小関地区遺跡可能性地2調査平面図 断面図53	第 52 図	下大曽根遺跡出土遺物実測図 105
第 19 図	山元遺跡隣接遺跡可能性地調査概要図56	第 53 図	葎田 2 遺跡調査概要図 109
第 20 図	山元遺跡隣接遺跡可能性地調査平面図 断面図 …57	第 54 図	葎田2遺跡調査平面図 ⋯⋯⋯⋯⋯ 110
第 21 図	酒田市飛鳥遺跡可能性地2調査概要図60	第 55図	葎田 2 遺跡調査平面図 断面図 (1)······ 111
第 22図	酒田市飛鳥遺跡可能性地2調査平面図 断面図 …61	第 56 図	葎田2遺跡調査平面図 断面図 (2)⋯⋯⋯ 112
第 23 図	鶴岡市白山遺跡可能性地調査概要図64	第 57 図	葎田2遺跡調査平面図 断面図 (3)⋯⋯⋯ 113
第 24 図	鶴岡市白山遺跡可能性地調査断面図65	第 58 図	葎田 2 遺跡出土遺物実測図 114
第 25 図	船止遺跡調査概要図66	第 59 図	山形元屋敷遺跡調査概要図 117
第 26 図	船止遺跡調査断面図67	第 60 図	山形元屋敷遺跡調査断面図 118
第27図	山形城三ノ丸調査概要図 平面図 断面図69	第61図	下反田 2 遺跡調査概要図 119
第 28 図	山形城三ノ丸調査断面図70	第 62 図	下反田 2 遺跡調査平面図 断面図 120
第 29 図	三沢 b 遺跡調査概要図72	第 63 図	下反田 2 遺跡出土遺物実測図 122
第 30 図	三沢 b 遺跡調査断面図73	第 64 図	下叶水遺跡調査概要図 … 123
第31図	山形城三ノ丸調査概要図75	第 65 図	下叶水遺跡調査平面図 124
第 32 図	山形城三ノ丸調査平面図 断面図76	第 66図	下叶水遺跡調査平面図 断面図 125
第 33図	西原遺跡調査概要図78	第 67 図	下叶水遺跡出土遺物実測図 126
第 34 図	西原遺跡調査平面図 断面図79	第 68 図	高瀬山遺跡調査概要図 129

図 版 目 次

図版 1	植ノ山遺跡可能性地29	図版 26	西原遺跡81
図版 2	植ノ山3遺跡 植ノ山遺跡可能性地31	図版 27	家の廻り遺跡84
図版 3	下大曽根遺跡32	図版 28	家の廻り遺跡85
図版 4	下大曽根遺跡35	図版 29	東北中央道遺跡可能性地 1289
図版 5	鷺畑新田遺跡36	図版 30	米沢南陽道路 IC 予定地 ·····91
図版 6	鷺畑新田遺跡39	図版 31	水窪遺跡92
図版 7	下九野本地区遺跡可能性地343	図版 32	水窪遺跡93
図版 8	新町遺跡 南台遺跡45	図版 33	水窪遺跡95
図版 9	新橋遺跡 可能性地 2 遠藤屋敷遺跡46	図版 34	下大曽根遺跡97
図版 10	下九野本地区遺跡可能性地2・3 新町遺跡47	図版 35	下大曽根遺跡98
図版 11	小平4遺跡50	図版 36	下大曽根遺跡
図版 12	小平4遺跡51	図版 37	下大曽根遺跡
図版 13	天童市小関地区遺跡可能性地 252	図版 38	下大曽根遺跡 106
図版 14	天童市小関地区遺跡可能性地 255	図版 39	下大曽根遺跡
図版 15	山元遺跡隣接遺跡可能性地58	図版 40	葎田 2 遺跡 114
図版 16	山元遺跡隣接遺跡可能性地59	図版 41	葎田 2 遺跡 115
図版 17	酒田市飛鳥遺跡可能性地 262	図版 42	葎田 2 遺跡 116
図版 18	西田市飛鳥遺跡可能性地 263	図版 43	山形元屋敷遺跡 118
図版 19	鶴岡市白山遺跡可能性地65	図版 44	下反田 2 遺跡
図版 20	船止遺跡	図版 45	下反田 2 遺跡
図版 21	山形城三ノ丸71	図版 46	下反田 2 遺跡 122
図版 22	三沢 b 遺跡73	図版 47	下叶水遺跡 125
図版 23	山形城三ノ丸75	図版 48	下叶水遺跡 126
図版 24	山形城三ノ丸77	図版 49	下叶水遺跡 127
図版 25	西原遺跡79	図版 50	高瀬山遺跡 128
			•

附 表 目 次

表-1	平成 19 年度分布調査遺跡一覧	2
表-2	平成 19 年度県内遺跡分布・試掘調査工程表	3
表-3	掲載遺跡位置図使用図幅一覧 (2万5千分の1) 1	31

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的と方法

本調査は、平成 19 年度以降に予定されている開発計画に先行して、埋蔵文化財包蔵地の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格などの内容を明らかにして開発計画との調整を計りながら、遺跡の保護保全を目的としている。また、件数的には少ないながら、今年度までの調査結果に基づいて記録保存を目的とする小規模な発掘調査ないしは工事立会などの調査も併せて本事業の中で実施している。このように、遺跡詳細調査は、その目的や方法によって以下の四つに区分できる。

(1) A調査 現地確認調査・表面調査

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

(2) B調査 試掘調査

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や遺構確認面までの 深さ等を把握して開発計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

(3) C調査 記録保存のための発掘調査

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や開発事業にかかる面積が狭い場合や接する程度等の場合に必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準じている。

(4)立会調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

2 調査の経過

山形県教育委員会では毎年5~6月に開発関係機関に今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて7月上旬に聴き取りを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について打合せを行っている。そしてこの結果に基づいて必要に応じた分布調査を行い、事業との調整を図っている。その他、開発関係機関から提出された事業計画に基づく分布調査も随時行っている。

平成 19 年度の調査は、表-1・2 に示した各遺跡の調査を平成 19 年4月から平成 20 年3月まで表-3の工程で行うとともに、事業予定区内外における埋蔵文化財包蔵 地の有無を確認するための表面踏査と試掘調査も併せて実施している。

なお平成 19 年度に県教育委員会が新たに発見した遺跡(平成 19 年度登録遺跡)範囲等を訂正した遺跡、登録を抹消した遺跡はIV章のまとめに示した。

表-1 平成19年度分布調査遺跡一覧

	1 /火10十尺分相前重度断	ус	sala m I. Je		X	分		title de
Νο	事業名・調査指導その他	地区名	遺跡名	Α	В		立会	備考
1	担い手育成総合整備事業新庄市昭和地区	新庄市昭和	未確認	0	0			
2	担い手育成総合整備事業金山町漆野地区	金山町漆野	未確認	0	0			
3	ため池等整備事業	天童市下山口	杉の木山遺跡	0				
4	経営体育成基盤整備事業 上野地区	新庄市本合海	本合海上野遺跡	0				
5	経営体育成基盤整備事業 上野地区	新庄市本合海	自姓寺	0				
6	経営体育成基盤整備事業 上野地区	新庄市本合海	可能性地1	0				
7	経営体育成基盤整備事業 上野地区	新庄市本合海	本合海上野2遺跡	0				
8	経営休育成基盤整備事業 西郷北部地区	鶴岡市天王前	道寺山館	0				
9	経営体育成基盤整備事業 西郷北部地区	鶴岡市天王前	長崎館	0				
10	農地環境整備事業区画整理 小倉地区	上山市小倉	植ノ山2遺跡		0			
11	農地環境整備事業区画整理 小倉地区	上山市小倉	植ノ山3遺跡		0			
12	農地環境整備事業区画整理 小倉地区	上山市小倉	可能性地1		0			
13	経営体育成基盤整備事業 鮭川左岸	鮭川村石名坂	下大曽根遺跡		0		0	新規発見
14	経営体育成基盤整備事業 鮭川左岸	鮭川村京塚	葎田 2 遺跡		0		0	
15	経営体育成基盤整備事業 鮭川左岸	鮭川村庭月	未確認	0				
16	灌水防除事業 揚水機場建設	南陽市梨郷	梨郷南館	0				範囲修正
17	経営体育成基盤整備事業 鷺畑地区	鶴岡市添川	鷺畑新田遺跡	0	0			新規発見
18	広域営農団地農道整備事業	酒田市市条	小平4遺跡		0	\Box		
19	広域営農団地農道整備事業	酒田市市条	丑ヶ沢遺跡		0			新規発見
20	経営体育成基盤整備事業 九野本地区	長井市大久保	谷地寺遺跡		0			
21	経営体育成基盤整備事業 九野本地区	長井市大久保	南台遺跡		0			
22	経営体育成基盤整備事業 九野本地区	長井市大久保	新町遺跡		0	\Box		
23	経営体育成基盤整備事業 九野本地区	長井市大久保	可能性地2		0			
24	経営体育成基盤整備事業 九野本地区	長井市大久保	可能性地3		0			
25	山形県薬草園温室解体工事	寒河江市西根	山岸遺跡				0	
26	主要地方道上山七ヶ宿線	上山市藤吾	可能性地	0				
27	主要地方道天童大江線(小関拡幅工事)	天童市小関	可能性地1	0				
28	主要地方道天童大江線(小関拡幅工事)	天童市小関	可能性地2	0	0			
29	主要地方道天童大江線(蔵増バイパス)	天童市蔵増	蔵増宮田遺跡	0				新規発見
30	臨時道路整備事業上五十沢横内線	尾花沢市下五十沢	五十沢公園遺跡	0			0	
31	県道荒谷原崎線新築工事 	天童市貫津	山元遺跡隣接可能性地		0			
32	国道287号改築事業(米沢北バイパス)	米沢市窪田	可能性地1	0				
33	国道287号改築事業 (米沢北バイパス)	米沢市窪田	可能性地2	0				
34	主要地方道高畠川西線改築	川西町上小松	井上舘	0				
35	国道121号公安施設	米沢市口田沢	潜清水 b 他	0				
36	地方道米沢浅川高畠線	米沢市浅川	上新田B	0				
37	地方道米沢浅川高畠線	米沢市浅川	中川原	0				
38	一般国道287号特殊改良事業(森バイパス)	長井市長井	未確認	0				
39	主要地方道酒田松山線飛鳥バイパス	酒田市飛鳥	可能性地2	0	0			
40	一般県道湯田川大山線	鶴岡市白山林	可能性地		0			
41	急傾斜地崩壊対策事業	白鷹町鮎貝	鮎貝城	0				
42	土砂災害対策事業	天童市北目	天童古城	0				
43	丹生川沢通常砂防事業	尾花沢市鶴子	間木の内遺跡	0				
44	入水沢砂防	東根市猪野沢	楯畑楯	0				
45	瀬戸の沢土砂災害対策事業砂防堰堤工事	金山町田茂沢	未確認	0				
46	沼の沢土砂災害対策事業砂防堰堤工事	最上町白川端	未確認	0				
	大脇沢関沢土砂災害対策事業砂防堰堤工事	最上町瀬見	未確認	0				

	T .							
48	大沢中の沢土砂災害対策事業砂防堰堤工事	戸沢村古口	未確認	0				
49	ミズカミ沢土砂災害対策事業砂防堰堤工事	最上町向町	未確認	0				
50	土砂災害対策事業砂防堰堤工事	鶴岡市堅苔沢	堅苔沢館				0	
51	土砂災害対策事業砂急傾斜工事	鶴岡市由良	由良館				0	
52	土砂災害対策事業砂急傾斜工事	鶴岡市堅苔沢	十二館				0	
53	水害対策河川整備事業	酒田市漆曽根	船止遺跡		0			
54	花川水害対策河川整備事業	山形市松原	山形元屋敷				0	
55	最上川ふるさと総合公園	寒河江市寒河江	高瀬山遺跡				0	
56	土地区画整理事業 天童市芳賀	天童市長岡	焼失原遺跡	0				
57	土地区画整理事業 天童市芳賀	天童市長岡	頭無遺跡	0				
58	土地区画整理事業 天童市芳賀	天童市長岡	五反田条里遺構	0				
59	街路事業 県道東原村木沢線	山形市山形	山形城三の丸		0			
60	流域下水道事業 酒田幹線中継ポンプ場	酒田市広野	未確認	0				
61	流域下水道事業 碁点中継ポンプ場	村山市碁点	未確認	0				
62	流域下水道事業 大久保中継ポンプ場	村山市大久保	未確認	0				
63	水道管埋設工事	朝日町宮宿	豊龍館				0	
64	県立酒田東高等学校改築工事	酒田市酒田	亀ヶ崎城				0	
65	米沢警察署関根駐在所新築工事	米沢市関根	三沢b遺跡		0			
66	山形新都市開発整備事業 みはらしの丘	山形市松原	可能性地19		0			
67	一般国道112号霞城改良	山形市山形	山形城三の丸		0			
68	一般国道112号歩道拡幅	西川町間沢	間沢楯				0	
69	国道13号 上山バイパス	上山市中山	中山城				0	
70	東北中央自動車道 東根~尾花沢	大石田町今宿	可能性地12		0			
71	東北中央自動車道 東根~尾花沢	尾花沢市尾花沢	西原遺跡		0			範囲修正
72	東北中央自動車道 東根~尾花沢	大石田町今宿	家の廻り遺跡		0			範囲修正
73	東北中央自動車道 赤湯IC盛土工事	高畠町	未確認		0			
74	日本海沿岸東北自動車道 小岩川地区	鶴岡市小岩川	未確認	0				
75	丑ノ沢砂防えん堤工事	庄内町肝煎	未確認	0				
76	新原沢砂防堰堤工事	小国町小国	未踏査	0				
77	横川ダム建設	小国町叶水	下叶水				0	
78	須川水害対策	山形市替所	下反田 2				0	
79	東北中央自動車道 東根~尾花沢	東根市羽入	可能性地	0				
80	水窪ダム池敷掘削工事	米沢市水窪	水窪遺跡	0	0			
81	窪田送水路設置工事	米沢市窪田	天神前中館	0				
82	窪田送水路設置工事	米沢市窪田	渡北館	0		\Box	0	
83	窪田送水路設置工事	米沢市窪田	東江股堀の内館	0				
84	高畠町遺跡現状確認	高畠町高畠	大在家	0				
85	小国町遺跡現状確認	小国町田沢頭他	田沢頭	0				
86	柏木地区産業廃棄物処分場建設	上山市赤山	未確認	0				

表-2 平成19年度調査工程表

表一名 十戌19 千皮調宜工性表												
事 業 名		平		成 19		年		Ē.	平 成 20		0 年	
事業名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
県農林・土木事業関係					_				_		_	
国土交通省·農林水産省 県住宅供給公社他関係		_			_	_		_				
平成19年度以降の埋蔵文化財包蔵 地に関わる開発事業計画の聴き取り				-								
遺物資料整理												-
報告書原稿作成												_

Ⅱ 調査の概要

1 遺跡地名表

(1) 県農林事業関係遺跡

No.	種 別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	不明	未確認	新庄市昭和	不明	丘陵 (145m)	牧草地
2	散布地	後沢遺跡	金山町大字漆野字春木	縄文	段丘 (155m)	山林 荒地
3	散布地	杉の木山	天童市下山口字杉の木山	縄文	山麓 (135m)	山林 荒蕪地
4	城館跡	道地山館	鶴岡市大字道地	中世	山麓 (24m)	宅地 畑地
5	城館跡	長崎館	鶴岡市大字長崎	中世	平地 (9m)	宅地 畑地
6	集落跡	下大曽根	鮭川村大字石名坂字下大曽根	平安	平地 (58m)	水田
7	集落跡	葎田 2	鮭川村大字石名坂字葎田	平安・中世	平地 (59m)	水田 町道
8	不明	未確認	鮭川村大字庭月	不明	平地 (50m)	水田 畑地
9	城館跡	梨郷南館	南陽市大字梨郷字館の廻り	中世	平地 (20m)	水田
10	集落跡	鷺畑新田	鶴岡市大字添川字鷺畑新田	弥生・奈良 平安	平地 (17m)	水田
11	散布地	小平4	酒田市大字一条字小平他	縄文・奈良 平安	山腹 (71m)	山林
12	散布地	丑ヶ沢	酒田市大字一条字丑ヶ沢	縄文	山腹 (66m)	山林
13	散布地	山岸	寒河江市寒河江長岡山	縄文	山頂 (140m)	宅地 畑地
14	散布地	自姓寺	新庄市本合海字自姓寺	縄文	段丘 (92m)	畑地 宅地
15	散布地	本合海上野	新庄市本合海字上野	旧石器	段丘 (60m)	畑地 宅地
16	散布地	本合海上野 2	新庄市本合海字上野	縄文	段丘 (65m)	畑地 樹園地
17	散布地	本合海地区可能性地1	新庄市本合海字上野	縄文	段丘 (63m)	畑地

(2) 県土木事業関係

No.	種別	遺 跡 名	所在地	時期	立地	地目
18	不明	可能性地	上山市藤吾	不明	平地 (185m)	宅地 畑地
19	散布地	県道天童大江線 可能性地 1	天童市大字小関	平安・中世	平地 (95m)	水田 道路
20	散布地	県道天童大江線 可能性地·2	天童市大字小関	不明	平地 (94m)	水田 道路
21	散布地	蔵増宮田	天童市大字蔵増字宮田	古墳	平地 (92m)	水田 農道

遺 跡 概 要	出土遺物	備考
調査地は絵馬河川右岸の標高221mの丘陵に位置する。一帯は山林・牧草地となっている。広い範囲で造成されるため分布調査を 実施したが遺構遺物は検出されなかった。	なし	
牧草地造成にあたり、事業予定地やその周辺を踏査した。中田春 木川と後沢川による河岸段丘縁辺で遺物散布を確認した。縄文時 代の集落跡が存在する可能性がある。 原崎沼の西側山麓斜面に位置する。踏査したが遺物は採集されな	なし	
かった。用水路の改修工事のため、遺跡への影響は少ないと判断された。 茨新田の西側に連なる砂丘上に位置する。標高18m。『館』地名		
が残され、伝承も伝わる。 圃場整備の事業区域外であることがわかった。 長崎地区集落の南に隣接する部分が館跡として登録されている。	なし	
江戸時代の記録に「館越」という地名が残されている。伝承はな く、現況からも確認できない。 鮭川左岸の低位段丘の縁辺、標高58mを測る。圃場整備に伴なう		平成19年度新規登録
確認調査によって新規発見された。遺跡は東西100m南北200mの広がりを持つ。農道部分の立会調査を実施。 鮭川左岸の低位段丘の縁辺、標高59mを測る。用水路部分の立会	須恵器 土師器 須恵器 土師器 珠洲系	平成19年度立会調査実施 平成18年度登録
調査を実施。多数の柱穴とともに赤焼土器や須恵器、珠洲系陶器などが出土した。 鮭川左岸の低位段丘上の平地一帯について、表面調査を実施し	陶器	平成19年度立会調査実施 範囲変更
た。一帯は庭月観音の正面に広がる水田地帯で広い範囲を踏査したが遺跡は確認されなかった。 最上川右岸、標高20mの平地に位置する。以前の圃場整備により		
土塁や堀跡は残されていない。地籍図や航空写真より位置と範囲がずれている。 遺跡は羽黒丘陵の西麓の平地、標高17mに位置する。圃場整備に	なし 弥生土器 須恵器 土師	範囲修正
伴なう試掘調査を実施した。弥生土器や須恵器・土師器が出土。 遺構は確認されなかった。 出羽丘陵の南麓、標高71mの山腹に位置する。農道工事路線に	器	平成19年度新規登録 平成15年山形県埋蔵文化財セン
沿って試掘調査を実施した。遺構遺物は確認されなかった。遺跡は南西側には広がらないことがわかった。 出羽丘陵の南麓、標高66mの山腹に位置する。農道工事路線に		ター発掘調査実施
沿って試掘調査を実施し、小平4遺跡と沢を挟んだ所から縄文時代の土器片が出土した。 長岡山の南側先端部位位置する。薬用植物園温室ハウスの解体工	7 0 7 1 1 1 1	平成19年度新規登録
事での立会調査を実施した。盛土され、コンクリート基礎の引き 抜きのため影響はないと判断された。 本合海上野段丘の東端、標高92mに位置する。縄文時代の遺跡と して登録されており、表面調査では土器片や石器片が採集され		
た。事業区域外である。 本合海上野段丘の東端、標高95mに位置する。旧石器時代の遺跡		
段丘西側縁辺に広範囲に遺物が散布する。縄文時代の集落跡が存	縄文土器 石器片	平成19年度新規登録
在するとみられる。事業区域に一部架かっている。 段丘北西側縁辺の狭い範囲に遺物が散布する。縄文時代の土器・	縄文土器 石器片	一 _{// 1.7} 十
石器が採集された。事業区域に一部架かっている。	/PE人工位 14位/1	

遺跡概要	出土遺物	備考
須川と思川に挟まれた河間低地にあたり、標高185mを測る。一帯は旧七ヶ宿街道に面した市街地で、周知の遺跡はない。可能性地はやや微高地で畑地・宅地となっている。		
天童市街地の西方2km、標高95mの平地に位置する。道路拡幅 工事に伴い表面調査を実施。須恵器、土師器、陶器などを採集し た。	赤焼土器 陶磁器	
天童市街地の西方2km、標高94mの平地に位置する。水田入口部分から石箆を採集した。盛土の可能性もある。試掘調査を実施している。		
天童市街地の西方2km、標高97mの平地に位置する。耕転した水田面から土師器片を採集した。古墳時代の集落が存在する可能性がある。		平成19年度新規登録

22	散布地	五十沢公園	尾花沢市下五十沢	縄文	段丘 (110m)	畑地 宅地
23	集落跡	山元	天童市大字山元字寄際	平安	平地 (115m)	畑地 樹園地
24	散布地	国道287号米沢北バイパス 可能性地1	米沢市大宇窪田町	中世	平地 (230m)	水田
25	散布地	国道287号米沢北バイパス 可能性地2	米沢市大字窪田町	不明	平地 (227m)	水田
26	城館跡	井上館	川西町大字中小松	中世	平地 (222m)	宅地
27	散布地	潜清水 b 他	米沢市大字口田沢字物見峠	縄文	段丘 (290m)	道路 山林 畑地
28	集落跡	上新田B	米沢市大字上新田字上馬橋	平安	段丘 (230m)	水田 畑地
29	集落跡	中川原	米沢市大字上新田字中川原	奈良・平安	段丘 (225m)	水田 畑地
30	不明	県道酒田松山線 可能性地 2	酒田市大字飛鳥字泉興野	平安	平地 (8m)	水田
31	不明	県道湯田川大山線 可能性地	鶴岡市大字白山	不明	平地 (15m)	水田
32	城館跡	鮎貝城	白鷹町大字鮎貝	中世	段丘 (195m)	寺社地
33	城館跡	天童古城	天童市北目	中世	山頂 (160m)	山林
34	集落跡	間木の内遺跡	尾花沢市大字鶴子字間木の内	縄文	段丘 (280m)	畑地
35	城館跡	楯畑楯	東根市大字猪野沢字楯畑	中世	段丘 (219m)	畑地 宅地
36	城館跡	堅苔沢館	鶴岡市堅苔沢字渕の上	中世	山頂 (108m)	山林
37	城館跡	由良館	鶴岡市由良字道田	中世	山頂 (48m)	山林
38	城館跡	十二館	鶴岡市堅苦沢宇平畑	中世	山頂 (55m)	山林
39	集落跡	船止	酒田市大字漆曽根字船止	平安	平地 (3m)	水田 道路
40	集落跡	山形元屋敷	山形市片谷地字元屋敷	古墳・奈良 平安	平地 (120m)	水田
41	集落跡	高瀬山	寒河江市寒河江高瀬山	旧石器~ 中世	段丘 (113m)	荒蕪地 樹園地
42	城館跡	山形城三ノ丸	山形市春日町	近世	扇状地 (123m)	宅地
	•					

(3) 県教育庁関係遺跡

No.	種別	遺 跡 名	所在地	時期	立地	地目
43	城館跡	亀ヶ崎城	酒田市亀ヶ崎	中世・近世	平地 (3m)	宅地

(4) 県企業局関係遺跡

No	種別	遺 跡 名	所在地	時期	立地	地目
44	城館跡	豊龍館	朝日町大字宮宿字経ヶ崎	中世	山頂 (89m)	公園

遺跡は朧気川左岸の段丘上に立地する。道路拡幅工事に伴い、立		
会調査を実施した。遺構遺物の検出はなく、遺跡の範囲外と考えられる。	なし こ	
県道新築工事に伴い山元遺跡隣接地の試掘調査を実施した。平成		
18年度の試掘地点の南側の隣接地を調査したが遺構遺物は確認	† † à 1	
されなかった。		
米沢南陽道路米沢ICの北西300mの平地に位置する。水田面か		
ら陶磁器片や土師器片を採集した。古代・中世の遺跡が存在する	青磁 磁器	
可能性がある。試掘調査が必要である。		
米沢南陽道路米沢ICの北1kmの平地に位置する。大西遺跡が		
近くに位置し、遺跡が広がっている可能性がある。試掘調査が必	なし	大西遺跡隣接
要である。		71727777
主要地方道高畠川西線の道路改良工事に伴い、遺跡との位置関係		
を調査した。路線が井上館の隣接地を通るため、試掘調査が必要	なし	
である。		
国道121号の歩道設置工事に伴い、現地確認を行なった。現道の		
東側に歩道を設置するもので盛土した法面を利用しての工事であ	なし	
り、遺跡への影響はないと考えられる		
県道米沢浅川高畠線歩道設置工事に伴い、現地確認を行なった。 法面部分、宅地部分への設置であるため慎重工事での対応とな	3.1	
広山市方、七地市方への放直であるため慎里工事での対応となる。 る。	1/4 C	
県道米沢浅川高畠線歩道設置工事に伴い、現地確認を行なった。		
狭い範囲ながら畑地があり遺構の存在が予想されるため、立会調	721.	
査が必要となる。	° C	
平成18年度に試掘調査を実施した泉興野1遺跡の西側に位置す		
る。遺物が採集された地点を中心に試掘調査を実施した。遺構は	なし	
確認されなかった。		
県道湯田川大山線整備事業に伴い踏査で土器片が採集された地点		
について試掘調査を実施した。泥炭地帯になっており遺構遺物は	なし	
検出されなかった。		
最上川左岸の標高195mの段丘上に築かれ、土塁や水堀、虎口な		
どが残されている。段丘崖が急傾斜のため、崩壊対策工事が計画	なし	中世城館一覧402-004
されている。景観を保持した工法が求められる。		
天童の市街地の中央に位置する。崖面の崩落防止工事に伴い、南側斜面の工事予定箇所を調査した。表面で確認できる曲輪や平場	+> 1	中世体於 藍 2 1 2 2 4 2
一の影響はないと判断した。	1 L	中世城館一覧210-040
遺跡は丹生川左岸の張り出した段丘上に立地する。突端部分の畑		
地から縄文土器や石器片が採集された。低い面の水田部分は破壊	縄文土器 石器片	
されているとみられる。		
猪野沢川左岸の段丘縁辺、標高219mのところに位置する。砂防		
事業により踏査した。現在、畑地や宅地となっており、楯の構造	なし	中世城館一覧211-003
ははっきりとはわかっていない。		
小堅小学校南東の山嶺に立地。砂防事業に伴い立会調査した。堰		中世城館一覧203-064
堤予定地から館跡に関連する遺構・遺物は確認できなかった。	なし	立会調査
		立云嗣且.
由良小学校の南側丘陵に位置する。急傾斜地崩落防止工事に伴	4.)	中世城館一覧203-040
い、北西側曲輪付近の工事の立会調査を実施した。遺構・遺物、	なし	立会調査
整地層などは認められなかった。 取芸児の東		
堅苔沢の東、標高75mの十二林の山頂に位置する。砂防工事に伴 い立会調査を実施した。館跡の曲輪には影響はないと判断され	ta 1	中世城館一覧203-039
v. 五云呵息を天旭した。周聊の田輔には影響はないと刊断され を	なし	立会調査
新井田川の堤防脇、標高8mを測る。新井田川河川改修に伴い、		
道路拡幅部分について試掘調査を実施した。遺構遺物は確認され	陶磁器	
なかった。	I. A Long, HH	
須川に架かる橋脚工事に伴い、基礎部分の立会調査を実施した。		
2ヶ所の調査区からは遺構は確認されなかった。土師器片が採集	なし	立会調査
されたが、流れ込みの可能性が高い。		
総合公園整備に伴い、立会調査を数回にわたり実施した。広範囲	縄文土器 須恵器 土師	
にわたる調査により縄文時代から古代にかけての遺構遺物が多数	器他 次总统 上明	立会調査
検出された。	4011111	
県道東原村木沢線街路整備に伴い、試掘調査を実施した。三ノ丸	Men vite BIT NOC	
の堀跡と思われるラインが確認された。部分的に家屋の基礎コン	岡	中世城館一覧201-002
クリートにより撹乱を受けている。		

旧校舎の解体工事の立会調査を実施した。以前の工事により150 cmほど掘削されており、基礎コンクリートなどにより遺構は確認なし できなかった。 中世城館一覧204-008 立会調査	遺跡概要	出土遺物	備考
	cmほど掘削されており、基礎コンクリートなどにより遺構は確認	721	

遺跡概要	出土遺物	備考
宮宿の豊龍神社に隣接する公園の水道管埋設工事に伴い立会調査 を実施した。以前高校敷地だったこともあり、ゴミ捨て場や建物 基礎が検出された。遺構遺物は確認されなかった。	te1	中世城館一覧323-015 立会調査

(5) 住宅公社関係遺跡

No.	種別	遺 跡 名	所在地	時期	立地	地目
45	不明	山形ニュータウン可能性地19	山形市松原	不明	山頂 (215m)	山林 荒蕪地

(6) 山形警察関係

No.	種別	遺 跡 名	所在地	時期	立地	地目
46	集落跡	三沢 b	米沢市三沢字白旗	縄文	段丘 (292m)	畑地 宅地

(7) 国土交通省関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
47	城館跡	山形城三ノ丸	山形市旅籠町	近世	扇状地 (137m)	宅地
48	城館跡	間沢館	西川町間沢字東 他	中世	段丘 (209m)	宅地 道路
49	城館跡	中山城	上山市中山	中世	山頂 山麓 (290m)	山林 荒蕪 地 宅地
50	不明	未確認	高畠町大字深沼	不明	平地 (210m)	荒蕪地
51	不明	東北中央道 可能性地 1 2	大石田町大字今宿字小山	縄文 平安	台地 (90m)	荒蕪地
52	散布地	西原	尾花沢市大字尾花沢字西原	縄文	段丘 (80m)	畑地 山林
53	散布地	家の廻り	大石田町大字今宿字家廻	縄文	段丘 (85m)	畑地 山林
54	集落跡	下反田 2	山形市反田	古墳	段丘 (99m)	荒蕪地
55	不明	未確認	鶴岡市小岩川	不明	山間 (3~50m)	山林 畑地
56	不明	未確認	庄内町肝煎字丑の沢	不明	山間 (124m)	山林 畑地
57	不明	未確認	小国町 新原	不明	山間 (172m)	山林 畑地
58	集落跡	下叶水	小国町大字叶水字下叶水	縄文	段丘 (260m)	荒蕪地

(8)農林水産省関係

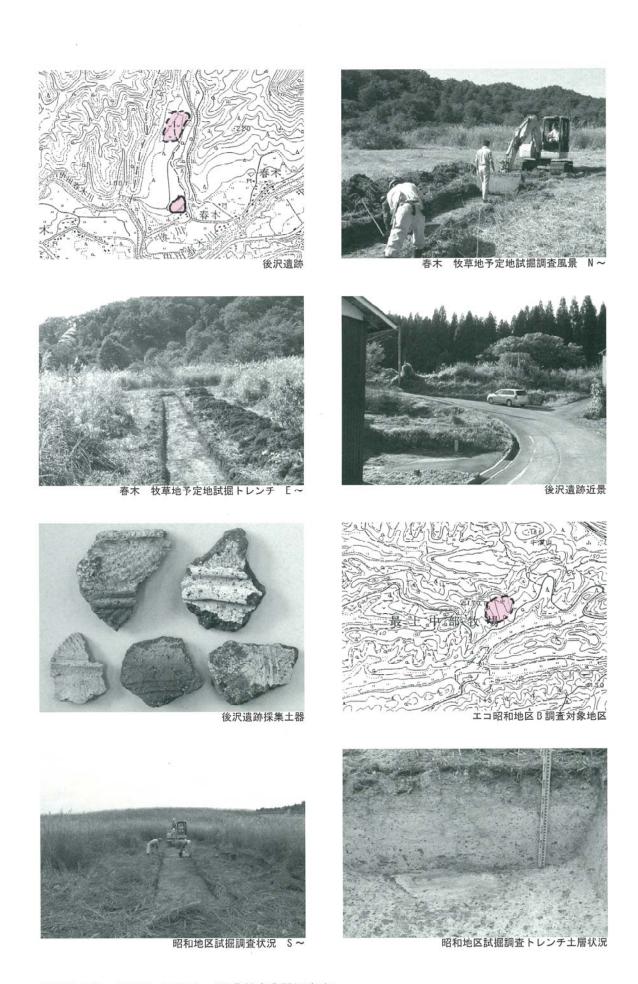
No.	種別	遺 跡 名	所在地	時期	立地	地目
59	集落跡	水窪	米沢市三沢字臼ヶ窪	縄文	段丘 (382m)	荒蕪地
47	城館跡	天神前中館	米沢市大字藤泉字天神前	中世	平地 (233m)	水田
48	城館跡	渡北館	米沢市大字藤泉字渡北	中世	平地 (232m)	水田
49	城館跡	東江股堀の内館	米沢市大字東江股字堀の内	中世	平地 (233m)	水田

遺跡概要	出土遺物	備考
山形みはらしの丘ニュータウン計画地のほぼ中央に位置する小丘 陵上に4ヶ所の試掘トレンチを設定し、調査したが遺構遺物は確 認されなかった。	なし	

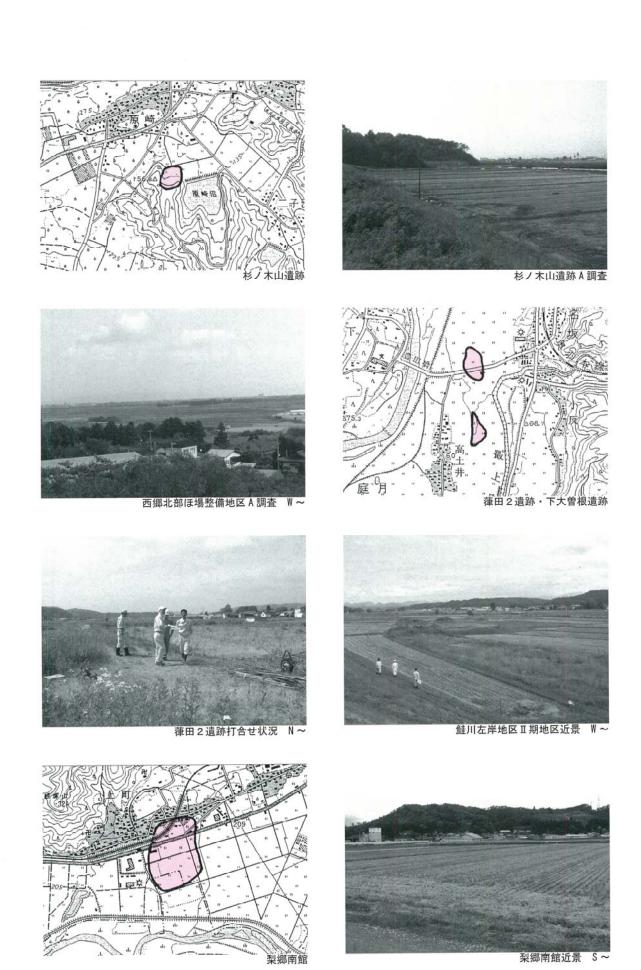
遺跡概要	出土遺物	備考
関根駐在所新築工事に伴い、建設予定地の試掘調査を実施した。 8ヶ所の試掘坑により調査したが遺構遺物は確認されなかった。	土器片	

遺跡概要	出土遺物	備考
国道112号霞城改良による道路拡幅工事に伴い、三ノ丸の堀跡ラインの内側部分の試掘調査を実施した。基礎コンクリートにより 撹乱を受けているが、古代から中世の遺構遺物が検出された。	須恵器 土師器 陶磁器	中世城館一覧201-002
国道112号間沢地区の歩道拡幅工事に係り工事予定地の現状確認 と立会調査を実施した。大半が宅地となっており、地表面下は撹 乱された状況を示した。	なし	中世城館一覧 3 2 2 - 0 1 0
中世からの山城である中山城の北東麓に設置した排水施設設置部分について立会調査を行った。施工予定地の表土を掘下げ、遺構・遺物の確認を行ったが、何ら確認できなかった。		平成17・18年山形県埋蔵文化財 センター発掘調査実施
米沢南陽道路高畠IC予定地への盛土工事に伴い、予定箇所内に て試掘調査を実施した。3ヶ所のトレンチからはいずれも遺構遺 物は検出されず、遺跡は確認されなかった。		立会調査
東北中央道建設に伴い試掘調査を実施した。朧気川左岸の丘陵部 に位置する。風倒木痕が確認されたが、遺構遺物は検出されな かった。		
東北中央道建設に伴い試掘調査を実施した。時期不明な土壙が数基検出されたが遺物は表土で採集された石器片のみであった。	石器片	平成11年度登録
東北中央道建設に伴い試掘調査を実施した。五十沢川右岸の段丘上に位置する。以前の耕地整備により大半が削平されていた。段 丘突端部からおとし穴が検出された。	縄文土器 石器片	平成11年度登録
須川護岸工事に伴い掘削される部分について立会調査を実施した。護岸工事箇所の地点から不明瞭ながら古墳時代の竪穴住居跡が検出された。	土師器	立会調査
日本海沿岸東北自動車道建設に伴う小岩川地区表面調査を実施した。国道7号までの接続部分を踏査したが遺跡は確認されなかった。	なし	
田ノ沢砂防ダムに伴う遺跡所在有無の現地確認を行なった。ダムと工事道路予定地は河川の氾濫原であり、遺跡が存在する可能性は無いと判断された。	なし	
荒川支流の沢に新原砂防堰堤工事の予定区域を踏査した。沢の氾濫原にあたり遺跡が存在する可能性はほとんどないと判断された。	なし	
道路脇のコンクリート壁の撤去に伴い立会調査を実施した。壁に沿った調査区から縄文時代晩期の住居跡や土壙とともに土器や石器が検出された。	縄文土器 石器類	立会調査

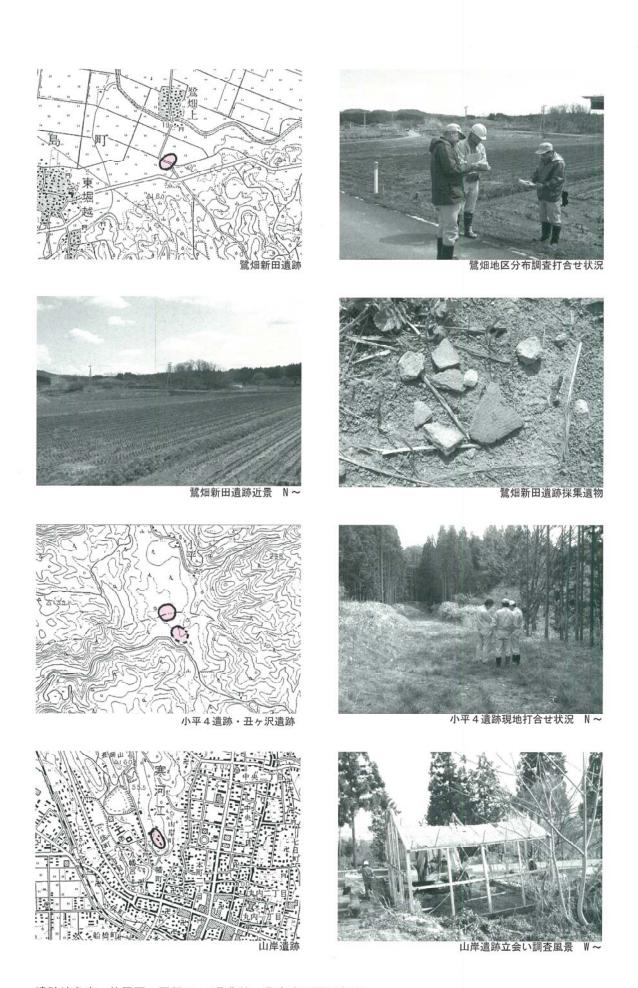
遺跡概要	出土遺物	備考
水窪ダムの東側縁に位置する。土取り工事に伴い遺跡縁辺部の試 掘を実施した。遺物の散布が認められたが、遺構遺物は検出され なかった。より東側に遺跡が位置すると見られる。	縄文土器 石器片	
送水路工事に伴い現地確認を行なった。現在、水田となっており、館跡遺構は確認できない。館跡に近接するところもあるため、慎重工事を指示した。	なし	米沢市遺跡地図 (I-463)
米沢市街地の北方約3km、標高230mの平地に立地する。送水路部分の立会調査を実施した。館跡の主体は調査区域の南側にあり、遺跡のエリア外と考えられる。	なし	米沢市遺跡地図(I-461) 立会調査
送水路工事に伴い現地確認を行なった。館跡に近接するところも あるため、慎重工事を指示した。	なし	米沢市遺跡地図 (I-453)



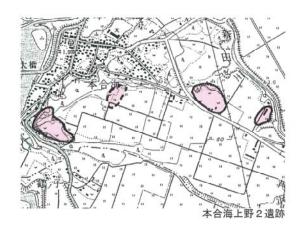
遺跡地名表 位置図・図版1 (県農林事業関係遺跡)



遺跡地名表 位置図・図版2 (県農林事業関係遺跡)



遺跡地名表 位置図・図版3 (県農林・県病院局関係遺跡)







本合海上野2遺跡採集遺物







本合海地区遺跡可能性地採集遺物



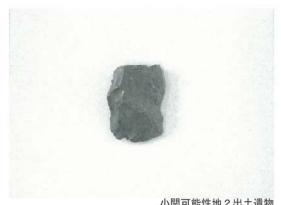






小関可能性地 1 採集遺物

遺跡地名表 位置図・図版4 (県農林・県土木事業関係遺跡)

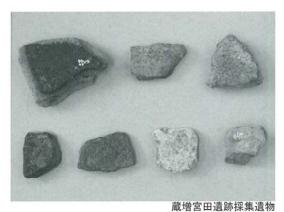


小関可能性地2出土遺物



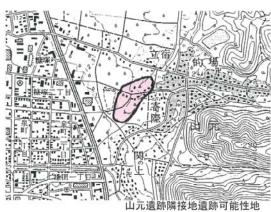


蔵増宮田遺跡近景 NW ~





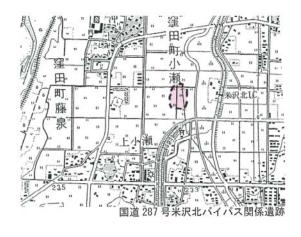






山元遺跡隣接地遺跡可能性地 N~

遺跡地名表 位置図·図版5 (県土木事業関係遺跡)





国道 287 号米沢北バイパス関係遺跡近景



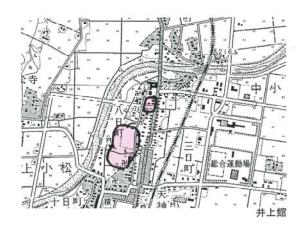
国道 287 号米沢北バイパス関係遺跡採集遺物



同左内面



国道 287 号森バイパス関係遺跡近景



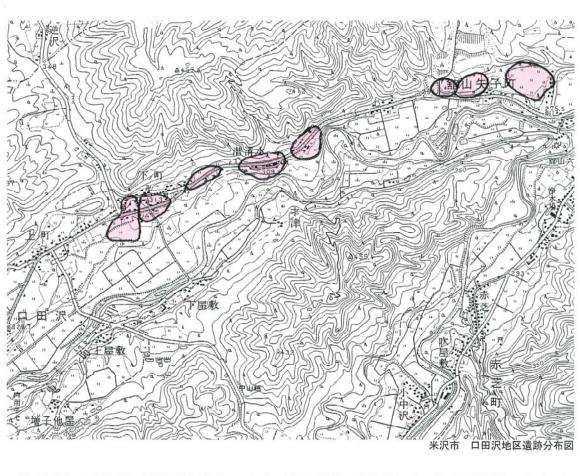


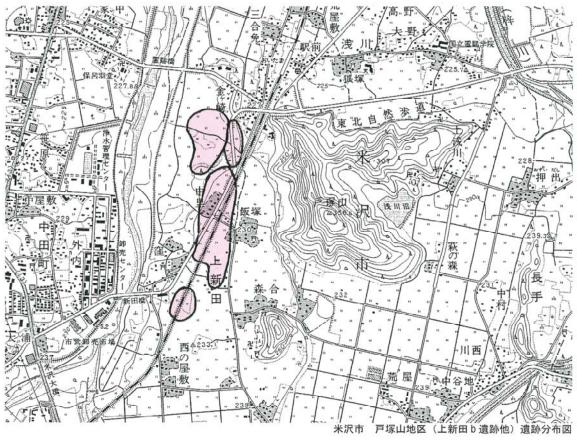
井上館近景 E~



口田沢遺跡近景

遺跡地名表 位置図・図版6 (県土木事業関係遺跡)





遺跡地名表 位置図・図版7 (県土木事業関係遺跡)



上新田 b 遺跡近景 W~





飛鳥バイバス関係遺跡打合せ状況





飛鳥神内遺跡近景 SW ~



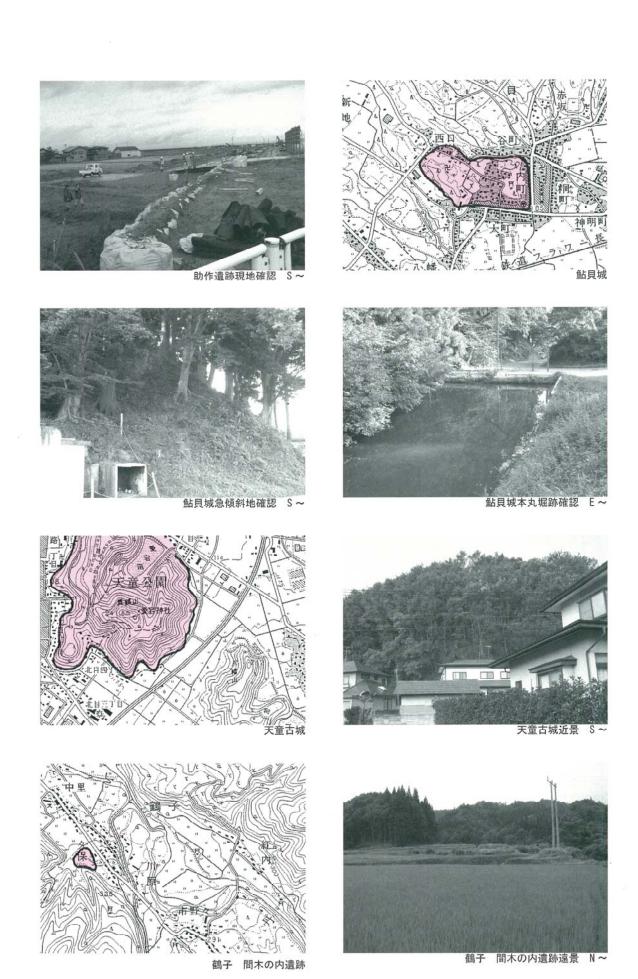
飛鳥神内遺跡採集遺物



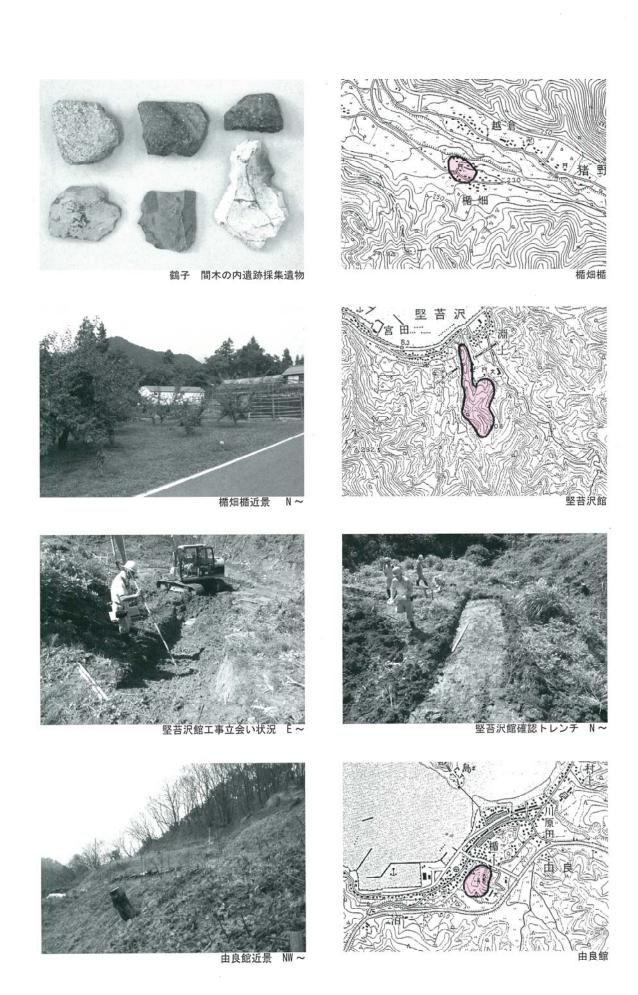


湯田川大山線関係白山林可能性地近景 F~

遺跡地名表 位置図·図版8 (県土木事業関係遺跡)



遺跡地名表 位置図・図版9 (県土木・国土交通省事業関係遺跡)



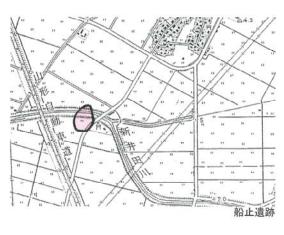
遺跡地名表 位置図·図版10 (県土木事業関係遺跡)



由良館確認状況 NW~



広野ポンプ場予定地踏査状況 EN ~



船止遺跡試掘確認地点





最上地区砂防関係遺跡踏査状況 SW~

最上地区砂防関係遺跡踏査状況 S~



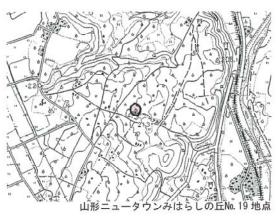


亀ヶ崎城跡工事立会い状況 E~

遺跡地名表 位置図・図版 1 1 (県土木・県教育委員会事業関係遺跡)













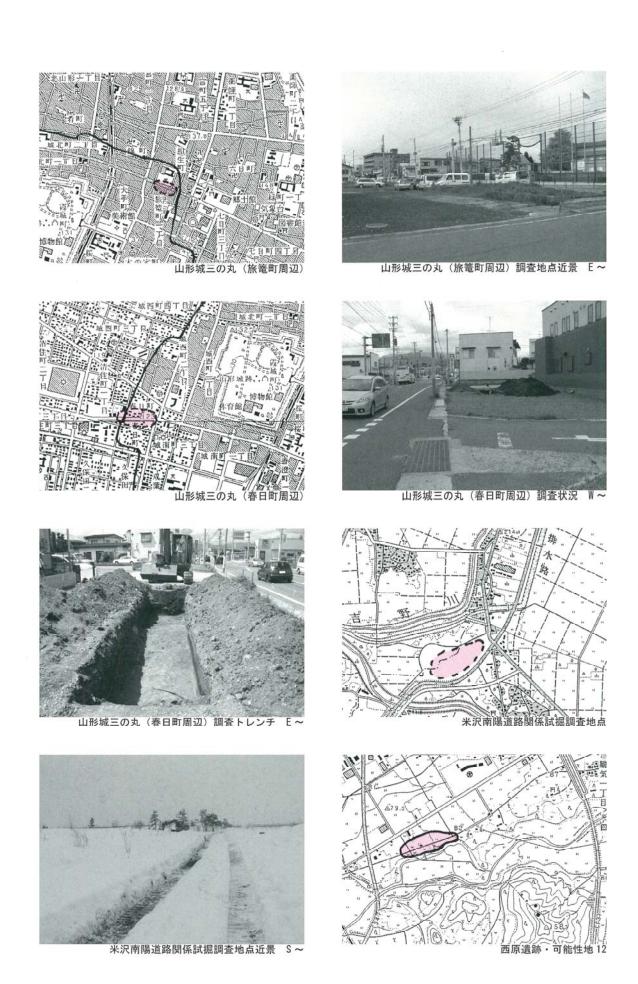




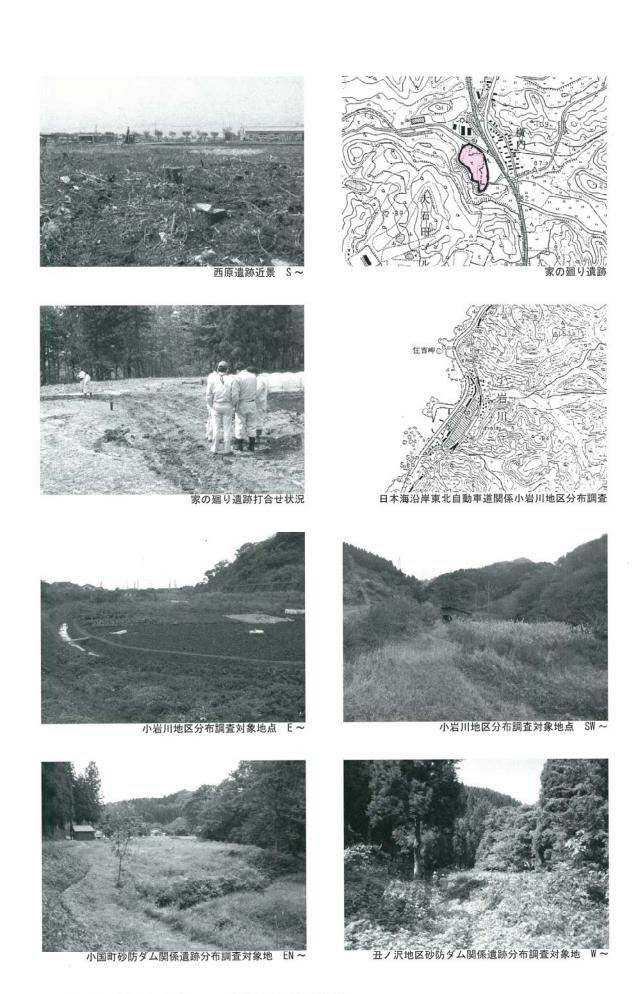


米沢市 三沢b遺跡近景 ES~

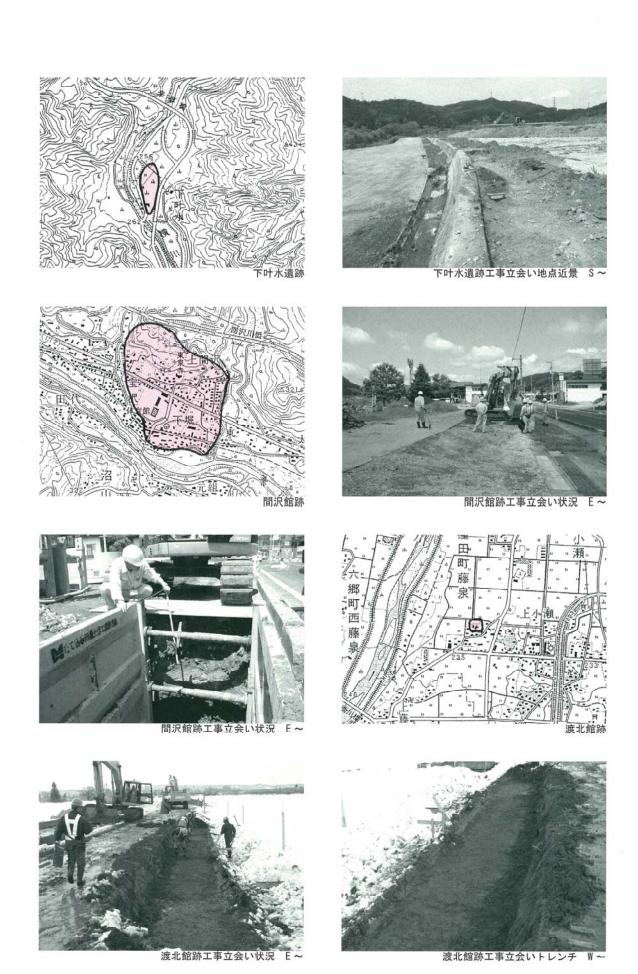
遺跡地名表 位置図・図版12(県企業局他県警遺跡)



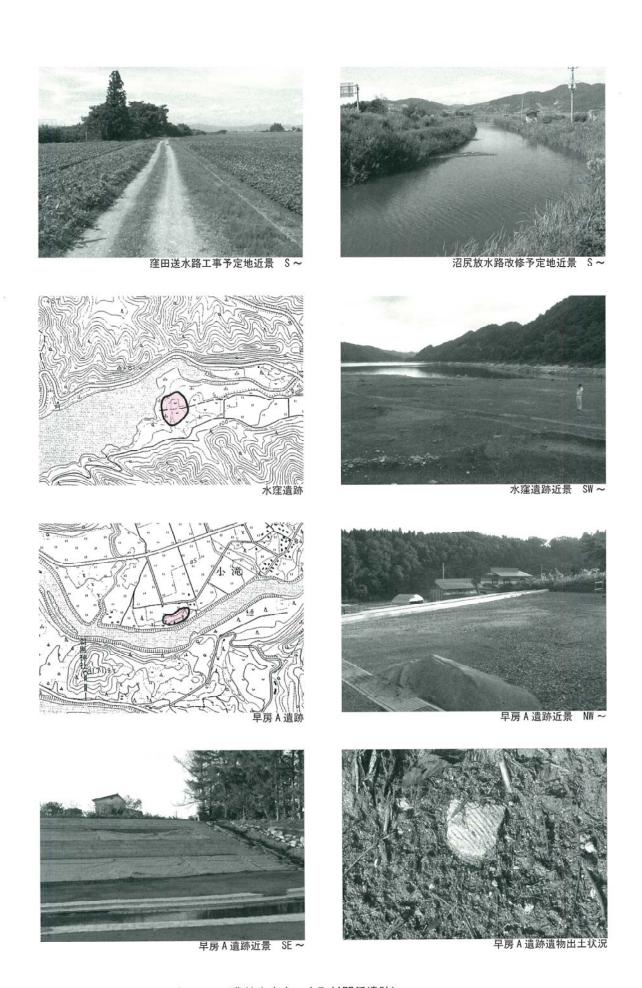
遺跡地名表 位置図・図版13 (県土木・国土交通省事業関係遺跡)



遺跡地名表 位置図・図版14 (国土交通省関係遺跡)



遺跡地名表 位置図・図版 1 5 (国土交通省・農林水産省関係遺跡)



遺跡地名表 位置図·図版 1 6 (農林水産省·市町村関係遺跡)

2 試掘調査の概要

(1) 植ノ山2遺跡(平成15年登録)

所 在 地 上山市小倉

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調査期日 平成19年 10月23日 24日

起 因 事 業 農地環境整備事業 (小倉地区)

遺跡環境 標高 415mの蔵王山西腹に位置し、緩やかな傾斜平坦地となっており、水

田・畑地が広がる。火山性の転石が多数存在している。

試掘区 事業予定地内に試掘トレンチ5ヶ所を設定。

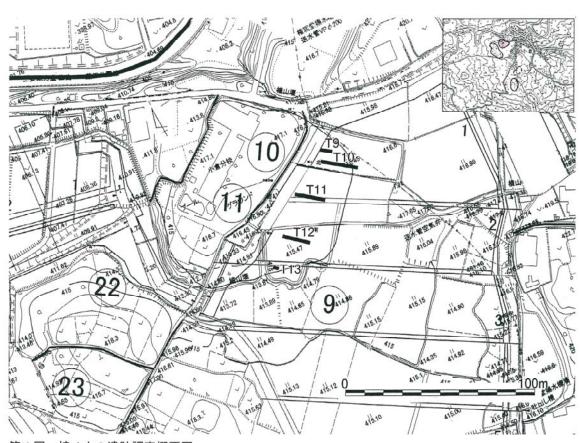
試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

試掘面積 85.5 ㎡

検出遺構 時期不明のピット

出土遺物 なし

所 見 旧小倉分校の南側水田を調査対象とした。T9とT10の北側から土色の変化とピット状の落ち込みを確認したが、稲杭や礫痕跡と見られた。いずれのトレンチからも遺物の出土はない。しかし、分校西の斜面畑地からは縄文時代の遺物が採集されており、今回は除外地となった丘陵の高まり部分が遺跡の主体と考えられる。



第1図 植ノ山2遺跡調査概要図

(2) 植ノ山3遺跡(平成15年登録)

所 在 地 上山市小倉

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調査期日 平成19年10月23日 24日

起 因 事 業 農地環境整備事業(小倉地区)

遺跡環境 標高 415mの蔵王山西腹に位置し、緩やかな傾斜平坦地となっており、水

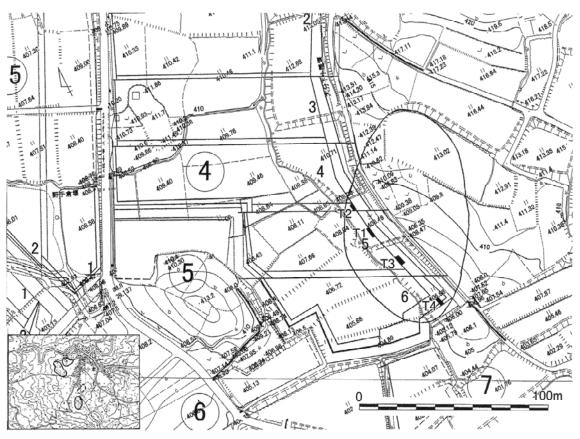
田・畑地が広がる。火山性の転石が多数存在している。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ4ヶ所を設定。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を実施。

試掘面積 27 m²

所 見 遺跡範囲と推定した中でも、東側の畑地や樹園地から遺物が採集されていた。今回は西側の水田を対象として調査を実施している。 T1~T4のいずれのトレンチでも以前の造成工事による切土・盛土の状況が窺え、大規模に削平された部分が見受けられた。遺構・遺物の発見はない。また、現地表面下30cm前後から巨礫が多数出土し、さらにその下には灰色粘質シルト層が続く。従って、この部分は、以前の造成で破壊されたか、遺跡の範囲外と考えられる。



第2図 植ノ山3遺跡調査概要図

(3) 植ノ山遺跡可能性地

所 在 地 上山市小倉

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調査期日 平成19年10月23日・24日

起 因 事 業 農地環境整備事業(小倉地区)

遺 跡 環 境 標高 415mの蔵王山西腹に位置し、緩やかな傾斜平坦地に水田・畑地が広がっている。所々に火山性の転石が見られる。

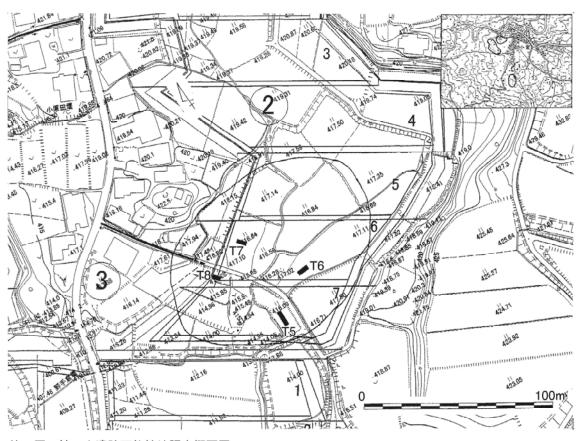
試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ4ヶ所を設定した。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

試掘面積 33 ㎡

遺構遺物 なし。

所 見 可能性地範囲の中央で遺物を採集しているため、周辺に4箇所の試掘トレンチを入れて遺構・遺物の確認を行った。調査区域は大きな沢の鞍部に当っていることから、埋積する土層が厚いと予測された。予想通りT6・T7では、黒色の泥炭質土壌が厚く堆積している状況が窺われ、下部には未分解の泥炭層が確かめられた。T8では、地山までが浅く、ここでは多数の巨礫が検出された。遺構・遺物の検出はない。



第3図 植ノ山遺跡可能性地調査概要図

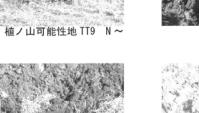






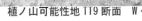
第4図 植ノ山遺跡可能性地調査平面図







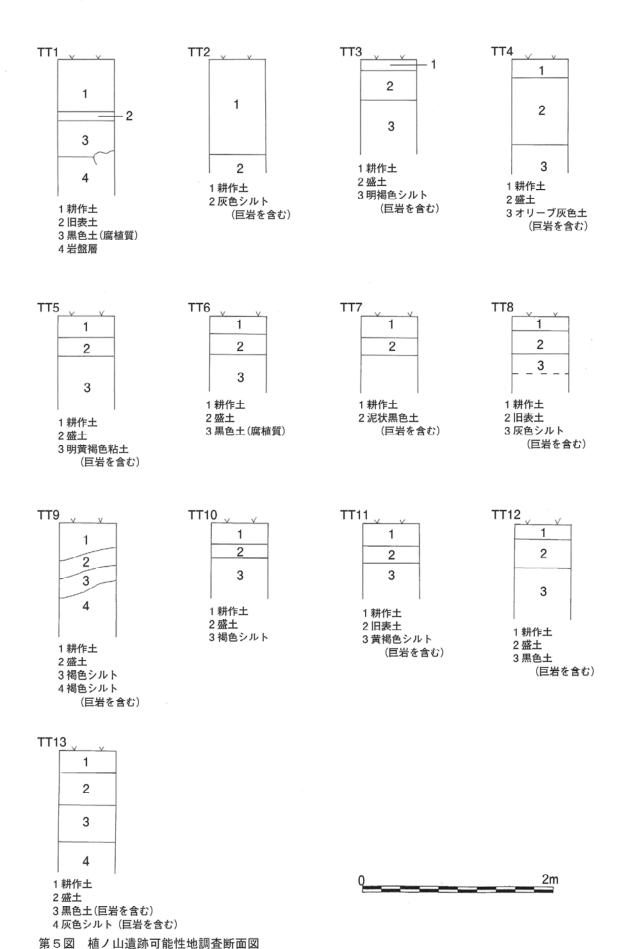




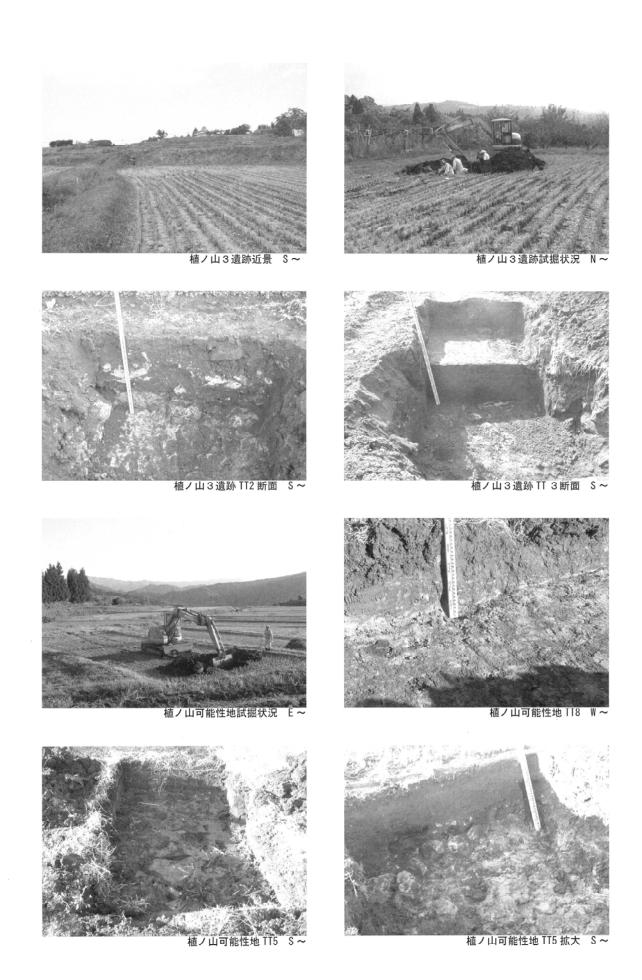


植ノ山可能性地 TT11 N~

図版1 植ノ山遺跡可能性地



为 5 区 他, 1 区 1 的 1 化 1 比 的 1 的 1 区 1



図版2 植ノ山3遺跡 植ノ山遺跡可能性地

(4) 下大曽根遺跡(平成19年度新規登録)

所 在 地 鮭川村大字石名坂字下大曽根

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調査期日 平成19年6月6日

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業(鮭川左岸地区)

遺跡環境 鮭川と内川による河間の微高地。鮭川による河岸段丘となっている。標高 58m。地目は水田・畑地となっている。西側に旧河道が明瞭に残る。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ14ヶ所を設定した。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

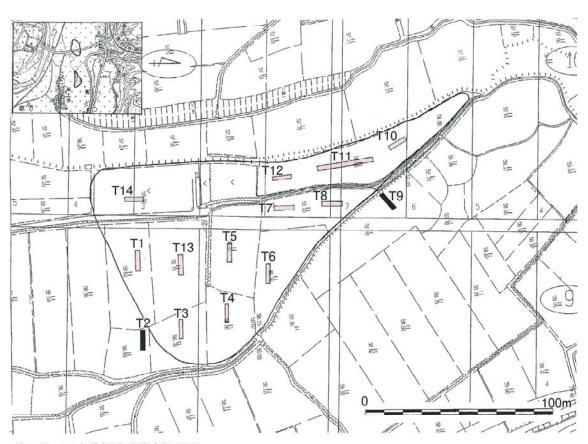
試掘面積 160 m²

検出遺構 T5~T14で柱穴・土壙を検出。

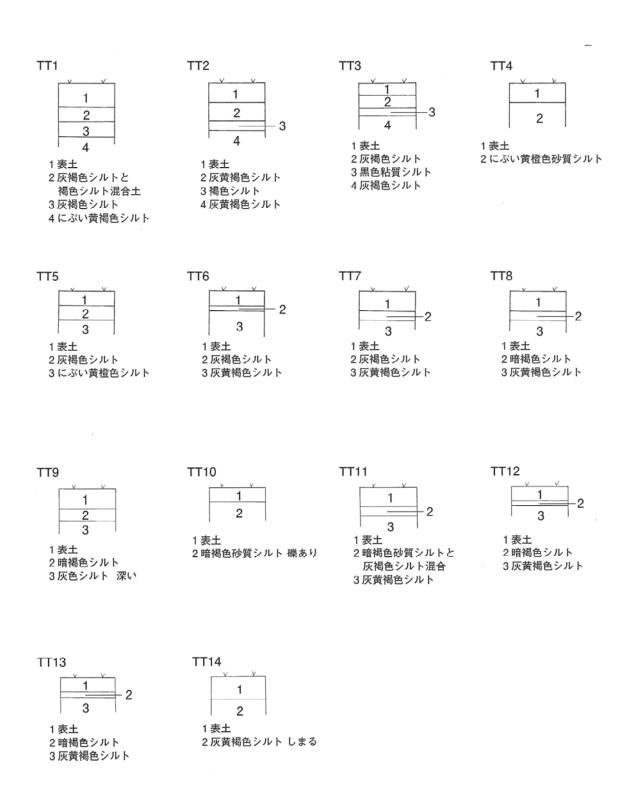
出土遺物 須恵器の甕・壷・坏の破片、赤焼土器坏片、内黒土師器の坏片

時 代 平安時代(10世紀)

所 見 調査トレンチの大半から遺構と遺物が検出された。過去の造成工事により 地山面の状況は均一でない。西側は段丘崖となる。遺跡は出土土器類から平安時代が主体 で、集落跡と想定される。規模は東西 100 m、南北 200 mほどの広がりが推定できる。



第6図 下大曽根遺跡調査概要図





第7図 下大曽根遺跡調査断面図



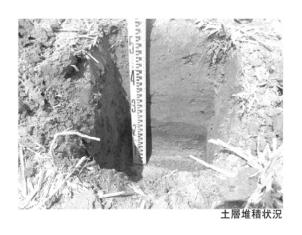


下大曽根遺跡近景 S~

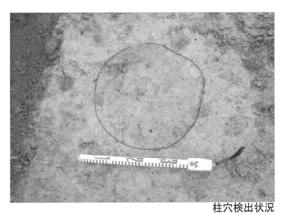
図版3 下大曽根遺跡

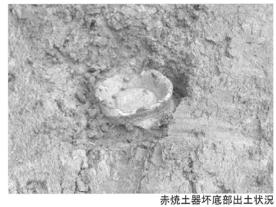


下大曽根遺跡試掘風景









図版 4 下大曽根遺跡

(5)鷺畑新田遺跡(平成19年度新規登録)

所 在 地 鶴岡市大字添川字鷺畑新田

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調 査 期 日 平成 19 年 10 月 12 日

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業 (鷺畑地区)

遺跡環境 遺跡は山麓の平地に位置し標高 16mを測る。西側に京田川が北に向かって流れ、西向きの緩やかに傾斜する平坦地に立地している。

・試 掘 区 事業予定地内に試掘ピット16ヶ所を設定。

試 掘 方 法 人力で試掘調査を行った。

試掘面積 16 m²

検出遺構 なし

出土遺物 須恵器片、土師器片、弥生土器。

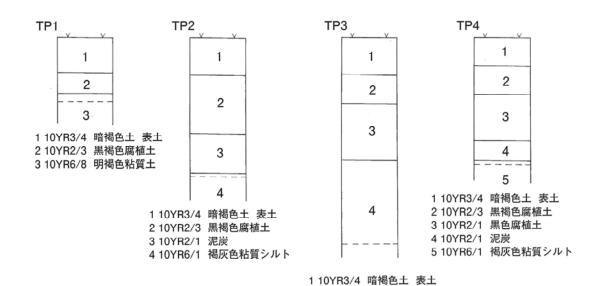
時 代 弥生時代、奈良・平安時代

所 見 調査地区一帯は以前の圃場整備により、切土・盛土が行われており、高い部分は地山の粘土層まで切られる状況が確認された。遺物は、北側の農道周辺から限定的に出土している。なお、南側は泥炭層が分布しており、湿地帯の状況を示していた。



図版 5 鷺畑新田遺跡

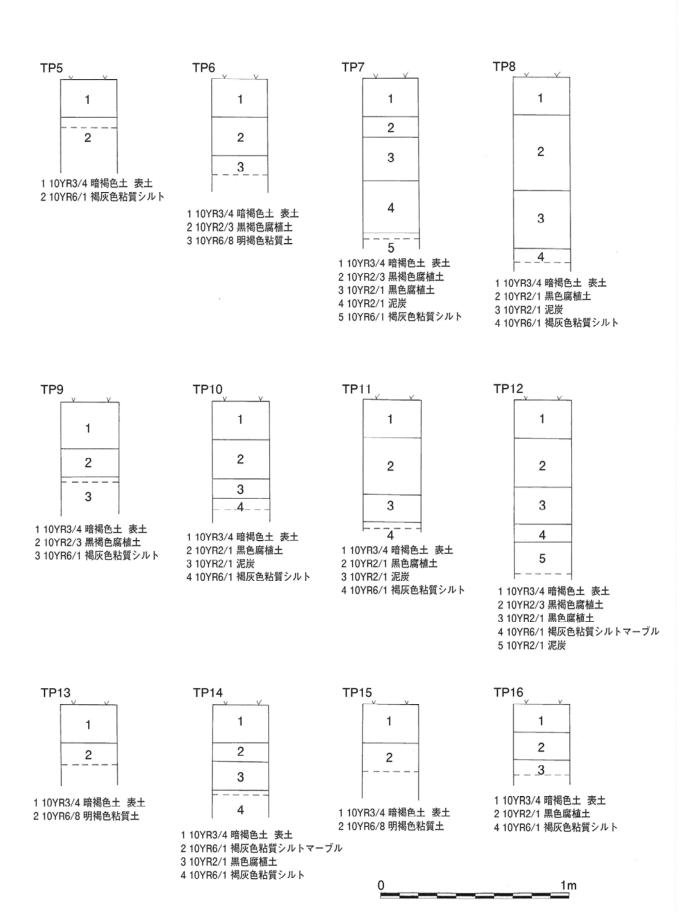




0 <u>1</u>m

2 10YR2/3 黒褐色腐植土 3 10YR2/1 黒色腐植土 4 10YR2/1 泥炭

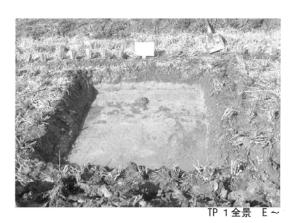
第8図 鷺畑新田遺跡調査概要図・断面図



第9図 鷺畑新田遺跡調査断面図





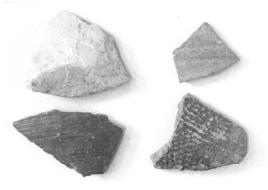








出土弥生土器(天王山式)





出土須恵器

出土須恵器蓋

図版 6 鷺畑新田遺跡

(6)新町遺跡(平成18年度新規登録)

所 在 地 長井市九野本

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調査期日 平成19年10月31日 11月1日

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業(下九野本地区)

遺跡環境 最上川左岸の平坦部に位置する。標高 212m。東向きに緩やかに傾斜する平 坦地で水田が広がる。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ3ヶ所を設定した。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

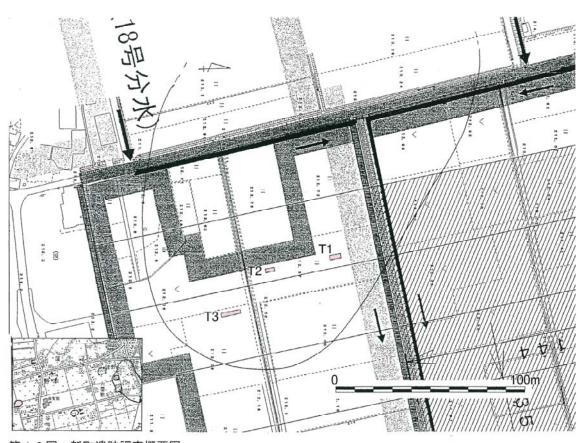
試掘面積 24 m²

検 出 遺 構 柱穴跡 (時期不明)

出土遺物 縄文土器片、石器片

時 代 縄文時代後期

所 見 T1・T2より縄文土器・石器片が出土した。また時期不明のピットも確認している。T3では小さいピットが検出された。土器は後期から晩期のものとみられるが、いずれも小片である。なお、新橋遺跡の西隣には周知の登の越遺跡がある。



第10図 新町遺跡調査概要図

(7) 南台遺跡(長井市遺跡台帳)

所 在 地 長井市九野本

調 查 員 石井浩幸 丸吉繁一

調査期日 平成19年11月1日

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業(長井市九野本地区)

遺跡環境 最上川左岸の平坦部に位置する。標高 212m。東向きに緩やかに傾斜する平 坦地で水田が広がる。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ1ヶ所を設定した。

試 掘 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。

試掘面積 12 m²

検出遺構 時期不明のピット1基

出土遺物 なし

時 代 不明

所 見 T11 から時期不明のピットが検出された。他のトレンチからは遺構・遺物の検出はない。東側 30mほど離れた市道改良工事に伴う市教委による調査では縄文時代と古代の住居跡が検出されている。



第11図 南台遺跡調査概要図

(8) 下九野本地区遺跡可能性地2

所 在 地 長井市下九野本

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調 査 期 日 平成 19 年 10 月 31 日

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業(長井市九野本地区)

遺跡環境 最上川左岸の平坦部に位置する。標高 212m。東向きに緩やかに傾斜する平 坦地で水田が広がる。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ3ヶ所を設定。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

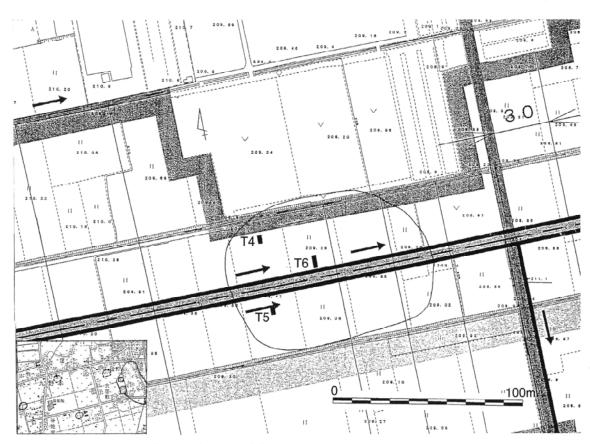
試掘面積 13.2 ㎡

検出遺構 なし

出土遺物なし

時 代 不明

所 見 遺跡可能性地範囲の中央で遺物 (陶磁器) を採集したことから、南側の事業予定地内に試掘トレンチを入れて遺構・遺物の確認を行った。いずれのトレンチも厚さ50cm 以上に及ぶ泥炭層が見られ、下層の粘質シルトからは著しい湧水があった。



第12図 下九野本地区遺跡可能性地2調査概要図

(9)下九野本地区遺跡可能性地3

所 在 地 長井市九野本

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調 査 期 日 平成 19 年 11 月 1 日

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業 (九野本地区)

遺跡環境 最上川左岸の平坦部に位置し、標高 212m である。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ4ヶ所を設定した。

試 掘 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。

試掘面積 36 m²

検出遺構 溝跡

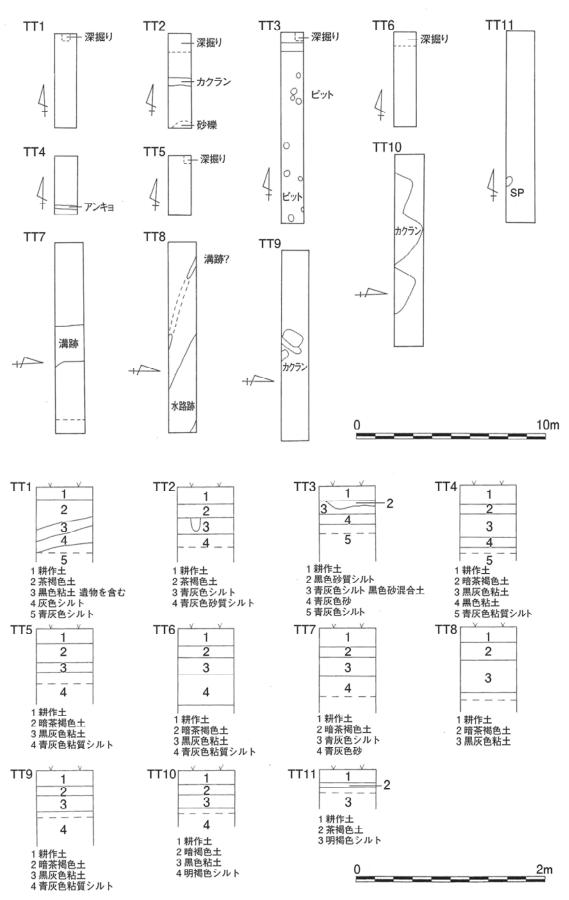
出土遺物なし

時 代 不明

所 見 中世の屋敷跡(館跡)の可能性があるため、水田の割に沿って4箇所のトレンチを入れたところT7から幅1.5mほどの溝跡を検出した。T8〜T10では遺構・遺物共に認めなかった。調査対象地は字名が「館野」であり、付近には北側に「館の内」、「東館野」などの「館」が付く地名が残る。現在の小関家の屋敷周りが館跡と考えられる。



図版7 下九野本地区遺跡可能性地3



第13図 下九野本地区遺跡可能性地3調査平面図·断面図





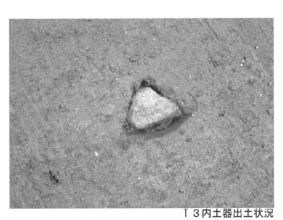


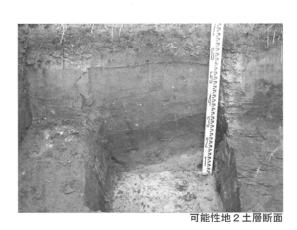
図版8 新町遺跡、南台遺跡



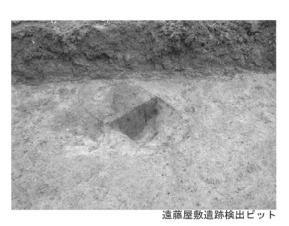














図版9 新橋遺跡、可能性地2遠藤屋敷遺跡



下九野本可能性地2近景 E~



下九野本可能性地 2 TT 2





下九野本可能性地3TT 7 溝跡検出状況



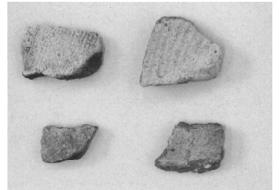
下九野本可能性地3TT 7溝跡断面



下九野本可能性地 3 TT 9 検出遺構 E ~



下九野本可能性地3TT9断面 E~



新町遺跡採集の縄文土器

図版10 下九野本可能性地2 下九野本可能性地3 新田遺跡

(10) 小平 4 遺跡 (平成 14 年度登録)

所 在 地 酒田市市条字小平

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調査期日 平成19年6月26日

起 因 事 業 広域農道整備事業 (飽海中央地区)

遺跡環境 遺跡は標高71mの山腹に位置し、台地状に張出した平坦地となっている。

試 掘 区 事業予定地内に試掘ピット14ヶ所を設定。

試掘方法 重機+人力で試掘調査を行った。

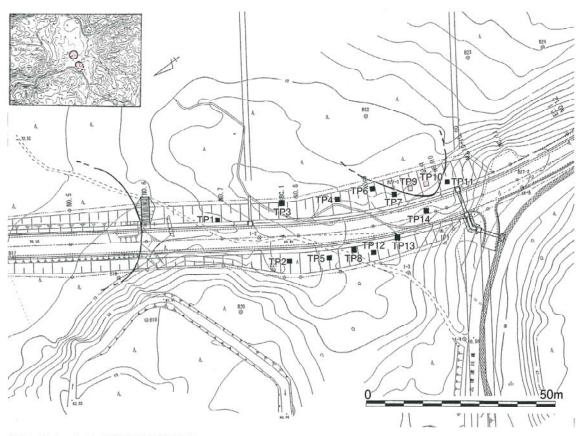
試掘面積 14 m²

検出遺構 なし

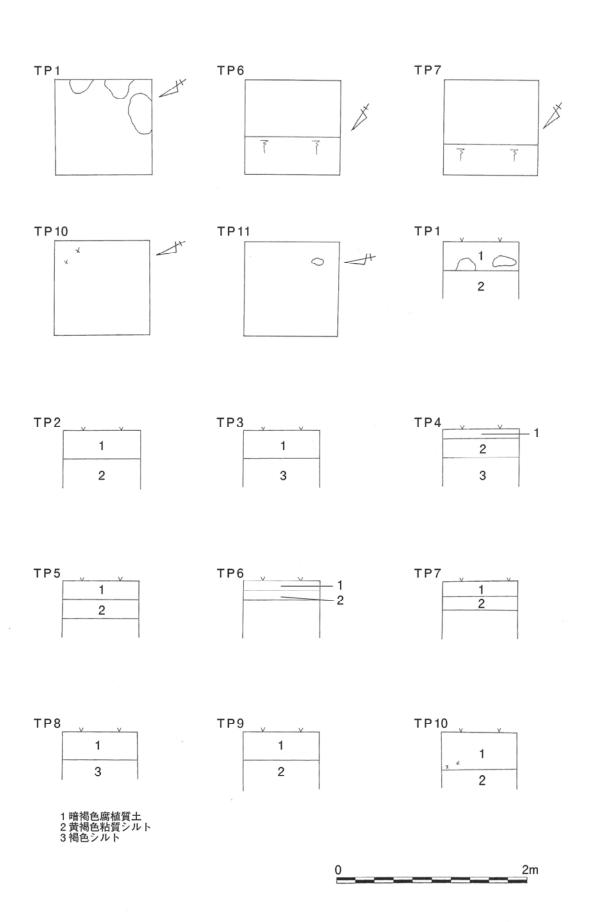
出土遺物 縄文土器

時 代 縄文時代(中期)

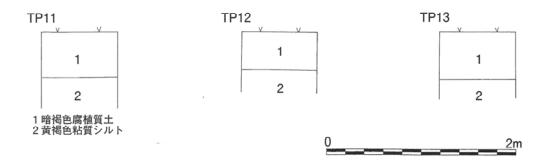
所 見 14ヶ所の試掘坑のうちTP9、TP10の2ヶ所から縄文時代の遺物が出土した。試掘の状況や地形的な広がりから小平4遺跡は南西の尾根方向には伸びていないことがわかった。また沢を挟んだ別地点から縄文時代の土器片が出土したことから新たな遺跡(丑ノ沢遺跡)が存在すると判明した。



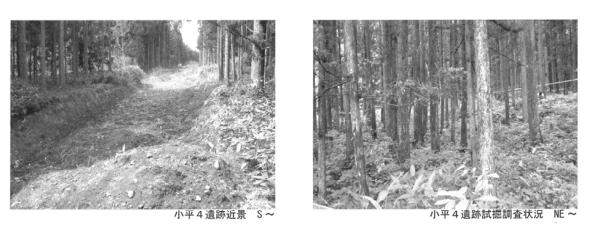
第14図 小平4遺跡調査概要図



第15図 小平遺跡調査平面図·断面図

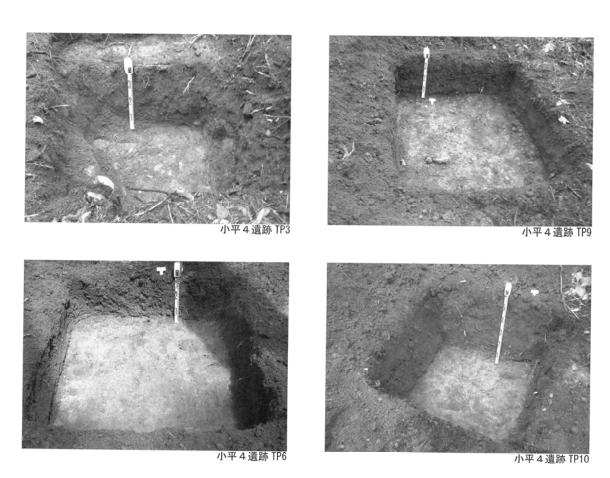


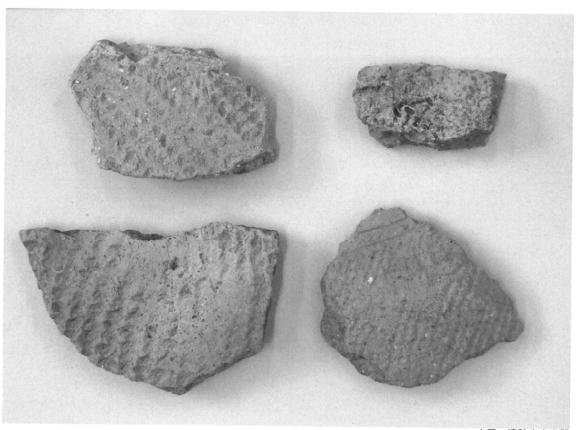
第16図 小平4遺跡調査断面図





図版11 小平4遺跡





小平4遺跡出土土器

図版12 小平4遺跡

(11) 天童市小関地区遺跡可能性地2

所 在 地 天童市小関

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調 査 期 日 平成 19 年 12 月 12 日

起因事業 主要地方道天童大江線拡幅工事

遺跡環境 天童の市街の西方近郊、標高 97mの平野部に立地する。緩やかに西北方向 に傾斜する。地目は水田になっている。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ3ヶ所を設定。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

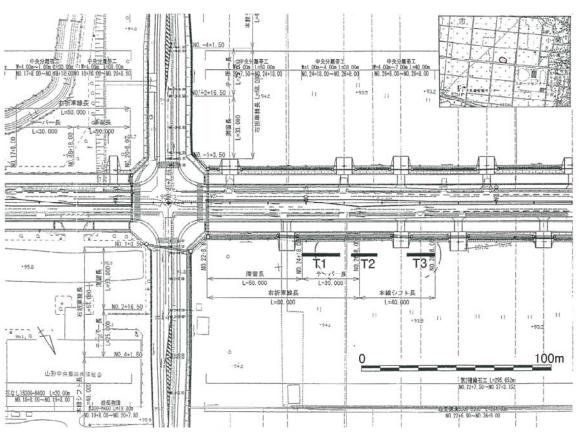
試掘面積 97.5 ㎡

検出遺構 小河川跡

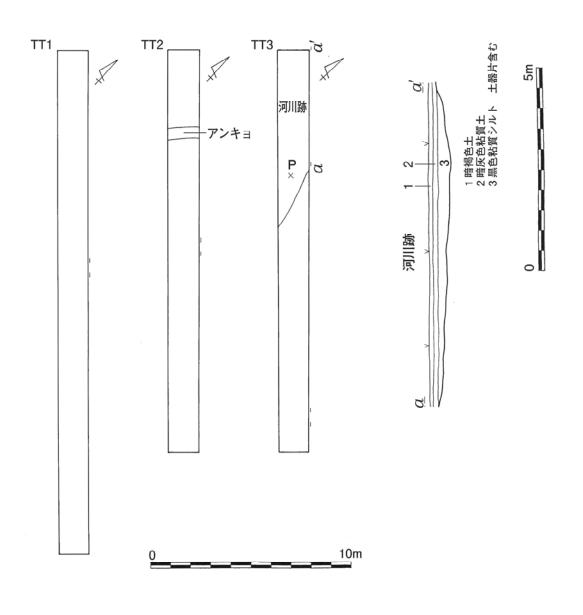
出土遺物 小河川跡から土器片が出土

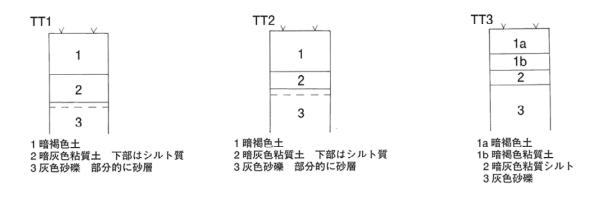
時 代 不明

所 見 3本のトレンチからは遺構は検出されなかった。旧河道から出土した土器 片は、流れ込みの可能性が高く、より南東側に遺跡が存在すると考えられる。堆積層に見 る表土下の厚い砂礫層からは生活に適した環境ではなかったことが窺える。



図版 1 7 天童市小関地区遺跡可能性地 2 調査概要図





0 1m

第18図 天童市小関地区遺跡可能性地2調査平面図·断面図



県道天童大江線小関地区可能性地2 N~



県道天童大江線小関地区可能性地 2 E ~

図版13 天童市小関地区遺跡可能性地2



県道天童大江線小関地区可能性地2試掘状況 E~

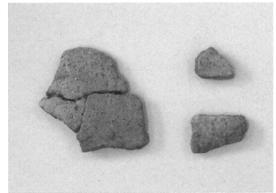




可能性地 2 TT2 礫群



可能性地2TT3S~



可能性地 2 TT3 出土土器

図版 1 4 天童市小関地区遺跡可能性地 2

(12) 山元遺跡隣接遺跡可能性地

所 在 地 天童市山元

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調 査 期 日 平成 19 年 12 月 20 日

起 因 事 業 一般県道荒谷原崎線臨時道路整備事業

遺跡環境 天童の市街地の東方、標高 117mの山麓傾斜地に立地する。緩やかに西北 方向に傾斜する。地目は畑地・宅地になっている。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ4ヶ所を設定。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

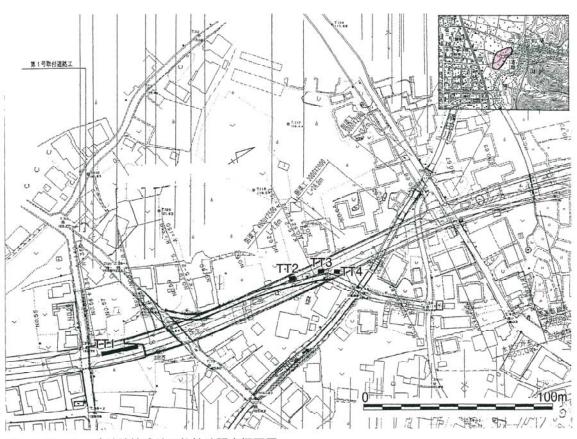
試掘面積 39 m²

検出遺構 なし

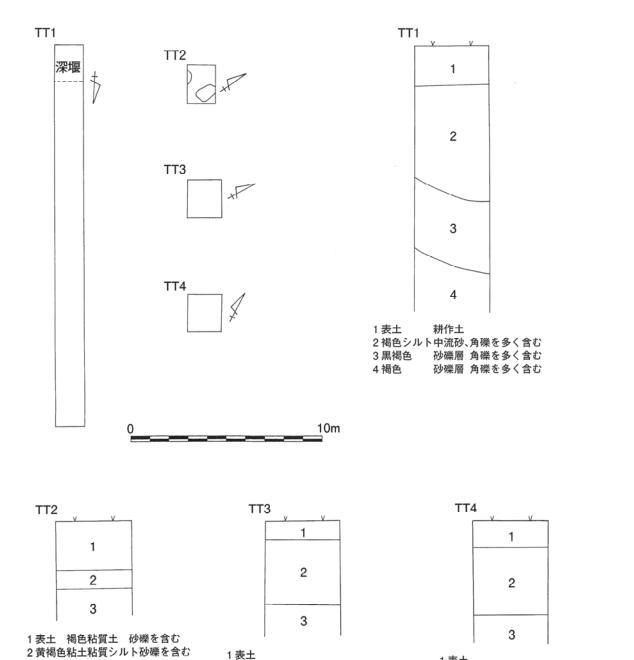
出土遺物 TT1・TT3から近代以降の陶磁器出土

時 代 不明

所 見 調査対象地に設定した4本のトレンチからは遺構は検出されなかった。表 土内から出土した陶磁器片は、近代以降の可能性が高い。なお、表土下の砂礫層を深掘り したが、厚く続いており、扇状地堆積によるものと考えられた。



第19図 山元遺跡隣接遺跡可能性地調査概要図





1 表土

2 褐色 粘質砂礫層 角礫を含む

3 褐色 砂層 小礫含む

第20図 山元遺跡隣接遺跡可能性地調査平面図・断面図

3 黒褐色 砂礫土

1 表土

2 褐色 粘質砂礫層 角礫を含む

3 褐色 砂層 小礫含む



山元遺跡隣接地 TT1 試掘状況 N~



山元遺跡隣接地 TT1 N~

図版 1 5 山元遺跡隣接遺跡可能性地



山元遺跡隣接地 TT 3 調査状況







山元遺跡隣接地 TT4 S~



山元遺跡隣接地 TT4

図版 1 6 山元遺跡隣接遺跡可能性地

(13) 酒田市飛鳥遺跡可能性地2

所 在 地 酒田市飛鳥字泉興野

調 查 員 阿部明彦 石井浩幸

調 査 期 日 平成 19 年 10 月 11 日

起 因 事 業 主要地方道酒田松山線飛鳥バイパス建設事業

遺跡環境 標高9mの最上川右岸段丘上の平坦面。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ7ヶ所を設定した。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

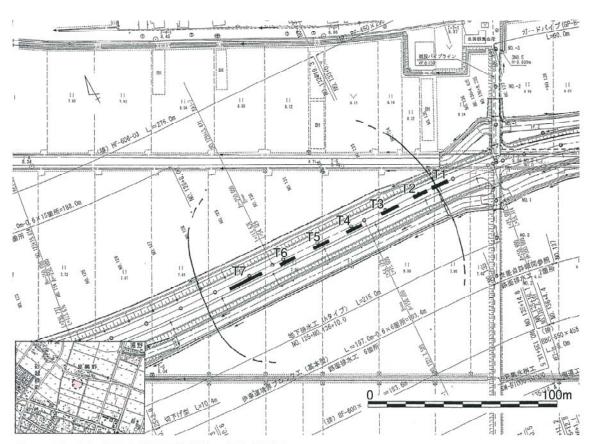
試掘面積 120 m²

検出遺構 なし

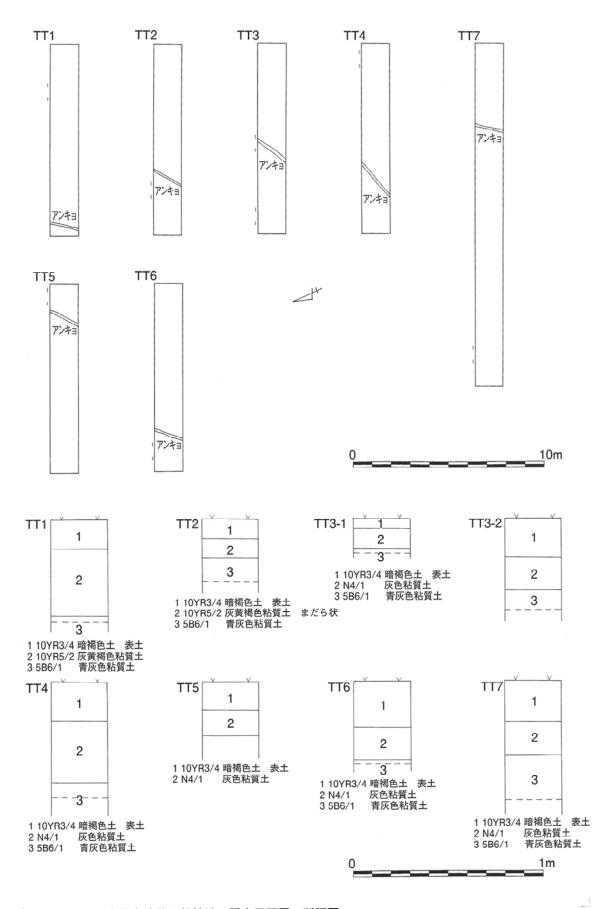
出土遺物 赤焼土器片7点

時 代 平安時代

所 見 調査地点周辺は、泉興野の集落に近接した所で若干高い地形面となっている。80年代の圃場整備により、高い部分は切り土されたと見られ、水田耕作土下は地山となる青灰色の泥質粘土層が厚く堆積する状況が窺えた。道路計画路線に沿って約 100mにわたり試掘を行ったが遺構は確認できなかった。



第21図 酒田市飛島遺跡可能性地2調査概要図



第22図 酒田市飛島遺跡可能性地2調査平面図·断面図



国道 345 号飛鳥バイパス関係遺跡可能性地2試掘状況 W~



図版 17 酒田市飛島遺跡可能性地 2

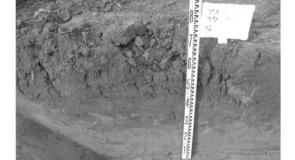


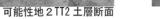
国道 345 号飛鳥バイパス関係遺跡可能性地 2 TT2 試掘状況 W~



可能性地 2 TT 3 試掘状況 E~







可能性地2TT7土層断面

図版 18 酒田市飛島遺跡可能性地 2

(14) 鶴岡市白山遺跡可能性地

所 在 地 鶴岡市白山

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調査期日 平成19年12月12日

起 因 事 業 特定道路整備事業 (一般県道湯田川大山線)

遺跡環境 鶴岡の市街地の西方、標高 15mの平野部に立地する。地目は水田・畑地になっている。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ4ヶ所を設定した。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

試掘面積 105 m²

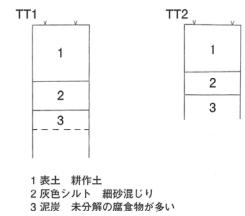
検出遺構 なし

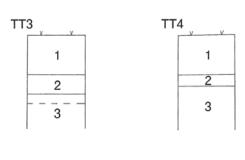
出土遺物 表土から近代以降の陶磁器が出土

所 見 4本のトレンチからは遺構・遺物は検出されなかった。いずれのトレンチも1層の耕作土、2層のシルト層、そして3層以下に厚い泥炭層が堆積する状況が確認された。従って、当該地は旧河道ないしは低湿地と考えられ、集落を営み得る環境ではなかったと判断される。



第23図 鶴岡市白山遺跡可能性地調査概要図



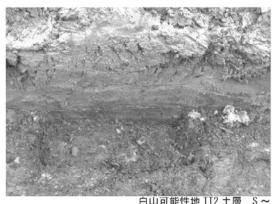


第24図 鶴岡市白山遺跡可能性地調査断面図









白山可能性地 TT2 土層 S~

図版19 鶴岡市白山遺跡可能性地

(15) 船止遺跡

所 在 地 酒田市漆曽根字船止

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調査期日 平成19年11月7日

起 因 事 業 水害対策河川整備事業 (新井田川基幹河川改修)

遺跡環境 新井田川の河岸、標高8mに立地する。地目は水田・荒地になっている。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ1ヶ所、試掘ピット4ヶ所を設定した。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

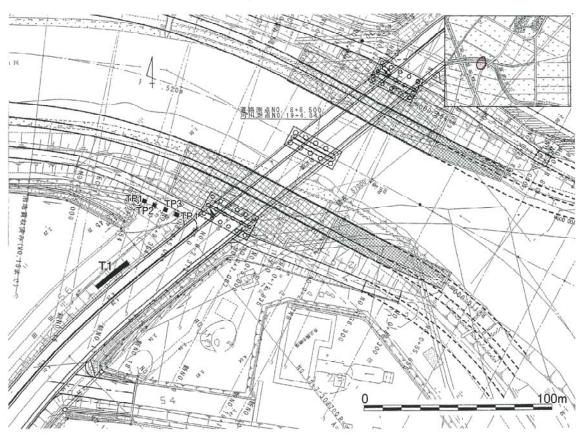
試掘面積 14.5 m²

検出遺構 なし

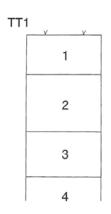
出土遺物 盛土から近代以降の陶磁器・ガラスくずが出土

時 代 平安時代・鎌倉時代

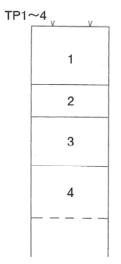
所 見 調査トレンチからは、遺構・遺物共に検出されていない。また、土層の状態は、以前の堤防工事等による掘削や盛土の所為か撹乱された様子が顕著であった。このようなことから、遺跡の広がりを道路北側部分には確認できなかった。当初における遺跡の範囲も道路部分を境界と推定しており、中心はより西側にあると考えられる。



第25図 船上遺跡調査概要図



- 1 10YR4/4 耕作土
- 2 10YR4/2 盛土
- 3 N4/1 泥質粘土
- 4 10YR5/4 シルトに N4/1 粘質土含む



- 1 10YR4/4 耕作土 2 10YR4/2 盛土 3 褐色も北に灰色粒シルトが混じる
- 4 灰色シルト



第26図 船上遺跡調査断面図



船止遺跡調査風景 N~

図版20 船上遺跡

(16) 山形城三ノ丸 (201-002)

所 在 地 山形市春日町

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調査期日 平成19年8月29日

起 **因 事 業** 都市計画道路事業(東原・村木沢線拡幅)

遺跡環境 市街地にあたり、宅地・商店・畑地になっている。三の丸土塁・堀跡部分に位置するが現況では確認できない。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ3ヶ所を設定した。

試 掘 方 法 計画区域について、重機による調査トレンチを入れた後、壁面と底面を精査し、堆積土層の状況確認と遺構・遺物の検出を行った。検出後、トレンチ位置や遺構について平面図を作成し、個々に付いても写真や平面図等の記録をとった。

試掘面積 31.5 ㎡

検出遺構 堀跡と思われる落ち込み等

出土遺物 盛土・表土から陶磁器片が出土

時 代 近世

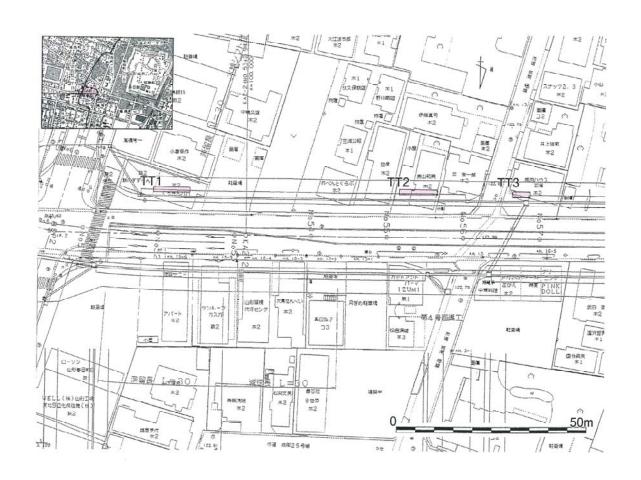
所 見 県道拡幅予定地に3本の試掘トレンチを設定した。以前の発掘調査では、 黒色粘土層の直下で遺構確認を行なっているため、まず堆積層の状態を把握すること とした。

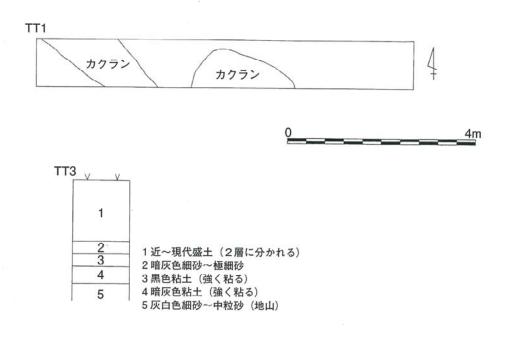
TT1からは住宅などの基礎による撹乱が見られたが、現表土下約70cmに黒色粘土層、その下に褐色の砂質シルト層からなる旧地山面が確認された。撹乱を受けているがこの地山面は良好に遺存していると見て取れた。黒色粘土層の上からは陶器片が出土している。

TT2は土塁・堀跡が位置すると思われた地点で、盛土以下7層までの自然な堆積層が見られた。8層が黒色粘土層で、TT1の6層に相当している。また、TT2の西側では大きな落ち込みが認められた。ボーリング調査の結果、黒泥状の堆積物が下に存在することが窺え、三の丸の堀跡本体の可能性が高いと判断された。遺物の出土はない。

TT3は、市道を挟んだ西側に位置し、三の丸堀跡の外側と考えられる地点にあたっている。試掘の結果、表土下80cmの所で3層とした黒色粘土層を確認した。3層下で精査したが遺構は発見されなかった。TT3では、1層の盛土内から陶磁器片が多く出土している。

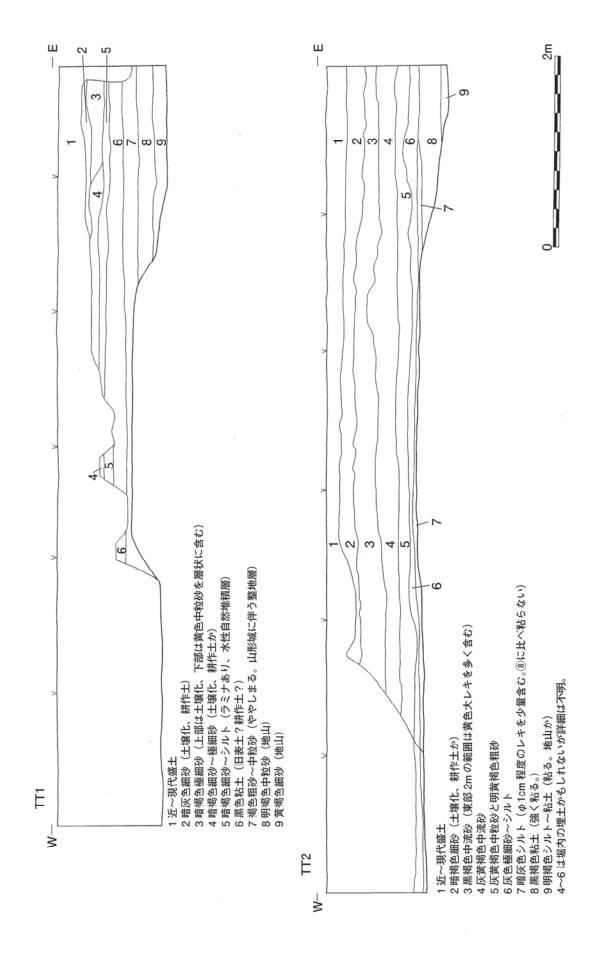
以上の結果、TT2は東側が土塁部分、西側が掘の入口部分と見られ、三の丸の掘はTT2の西側から市道部分にかけて存在すると考えられる。堀幅は約10mと推測できる。掘の深さは確認していない。TT1のある三の丸内部は、後世の撹乱によるところが多いものの、部分的に遺構が残されていると判断される。





0______2m

第27図 山形城三ノ丸調査概要図 平面・断面図



第28図 山形城三ノ丸調査断面図



山形城三の丸(春日町) TT1 W~



山形城三の丸(春日町)調査状況 TT1 E~





山形城三の丸(春日町)TT3土層断面 SW~





山形城三の丸 (春日町) 出土陶磁器 (1)





山形城三の丸 (春日町) 出土施釉瓦

図版21 山形城三ノ丸

(17) 三沢 b 遺跡

所 在 地 米沢市大字三沢字白旗

調 査 員 石井浩幸

調査期日 平成19年7月27日

起 因 事 業 米沢警察署関根駐在所新築工事

遺跡環境 遺跡は標高 295mの段丘上に位置し、南側に舌状に張り出した狭い平坦地 となっている。東に羽黒川が北に向かって流れている。

試 掘 区 事業予定地内に試掘ピット8ヶ所を設定した。

試掘方法 人力のみで試掘調査を行った。

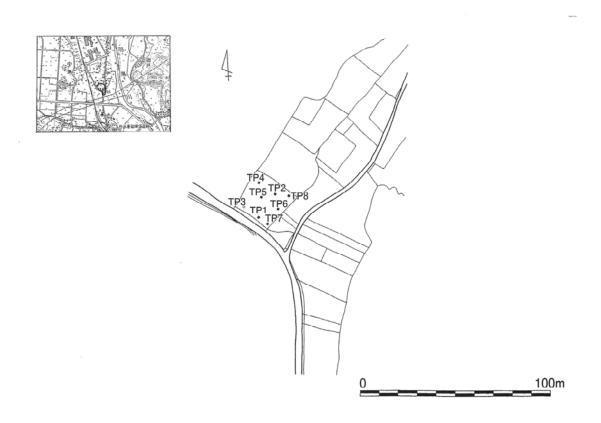
試掘面積 8㎡

検出遺構 なし

出土遺物 TP3から縄文土器片が1点出土

時 代 縄文時代

所 見 TP3より1点ながら縄文時代の土器片が出土した。しかし、他の試掘坑では遺構・遺物共に認めることができなかった。遺物の存在から、今回の調査地点周辺に遺跡の存在が考えられるが、その主体的部分は不詳である。



第29図 三沢b遺跡調査概要図

TP1	
	1
	2
	3

TP2	
	1
	2
	3

TP3	3
	1
	2
	3

TP4	
	1
	2
	3

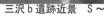
TP5	
	1
	2
	3

TP6	S , , , ,
	1
	2
	3

- 1 表土 黒褐色土(腐植質) 2 黒色土 (腐植質) 3 黒褐色シルト 粗砂混じり

第30図 三沢b遺跡調査断面図













三沢 b 遺跡 TP 4

図版22 三沢b遺跡

(18) 山形城三ノ丸 (201-002)

所 在 地 山形市旅篭町

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

伊藤邦弘(埋蔵文化財センター)高桑 登(埋蔵文化財センター)

調 査 期 日 平成 19 年 11 月 14 日

起因事業 一般国道 112 号 霞城改良(旅篭町改良工事)

遺跡環境 市街地にあたり、宅地・商店・畑地になっている。三の丸内部に位置するが現況では土塁や堀跡は確認できない。

試掘区 事業予定地内に試掘トレンチ3ヶ所を設定。

試 掘 方 法 計画区域について、重機によりトレンチを入れた後、壁面と底面を精査し、 堆積土層の状況と、遺構・遺物の存在を確認した。その後、トレンチ位置と検出遺構を平 面図に記載し、個々に付いての情報も併せて記録した。

試掘面積 25.5 m²

検 出 遺 構 溝跡、土壙、柱穴

出土遺物 土師器、須恵器、赤焼土器、近世陶磁器

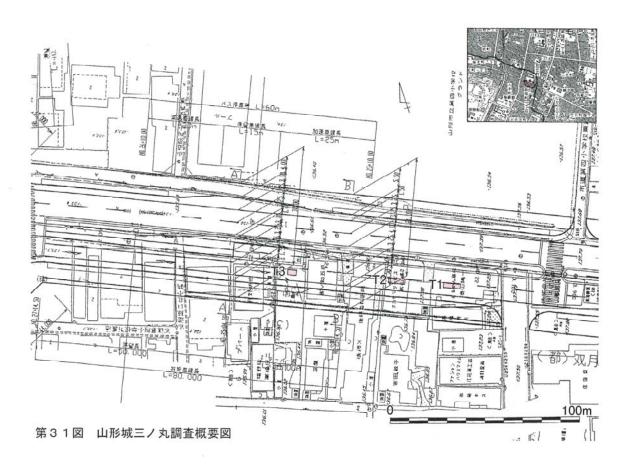
時 代 奈良・平安時代、中世・近世

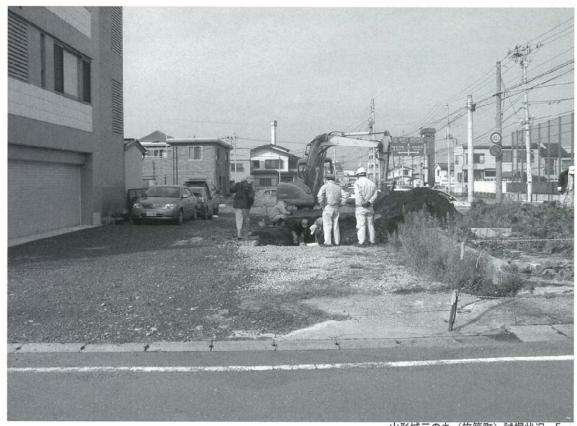
所 見 国道 112 号線拡幅工事予定地内を対象に 3 本の試掘トレンチを設定して調査を行った結果、 T 1 では住宅などの基礎やごみ捨て穴による撹乱が見られたが、現表土の約 80 cm下に黒褐色シルト層、その下に暗褐色砂質シルトの旧地山面が確認された。上部は撹乱を受けているが、地山面は良好に遺存している。また、 3 層上面では土壙やピットなどの遺構が検出できた。なお、 2 層の黒褐色シルト層下部からは土師器・須恵器・陶磁器片が確認される。

T2では盛土以下4層までは自然による堆積層と考えられた。2層が黒褐色シルト層で、 T1の2層に相当している。3層上面では大きな落ち込みや土壙・ピットが検出された。 また、2層中からは陶磁器類・須恵器片・土師器片が出土している。

T3は、調査予定地の西側に位置し、試掘の結果、表土下に層厚 70 cmほどの暗褐色砂質シルト層 (3層) が検出される。この層の中位で面的精査を行ったが遺構は発見されなかった。なお、2層中から多くの陶磁器片などの遺物がまとまって出土している。

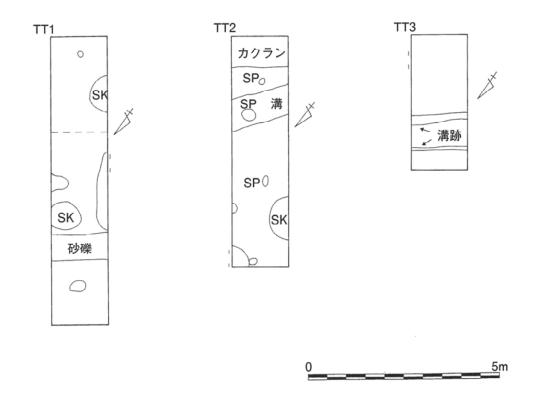
試掘の結果、T1・T2・T3では、3層上面で中世以前の遺構が検出できることが判明した。そこからは、古代・中世・近世以降の遺物が混在的に検出され、時期的に複合するエリアと想定できる。このように、試掘調査を実施した当該部分の三の丸域内は、後世の撹乱が多いものの、盛土や表土下には良好に遺構が残されている部分も多いと判断され、中世、あるいは古代においても集落などの立地していた地点と捉えられる。

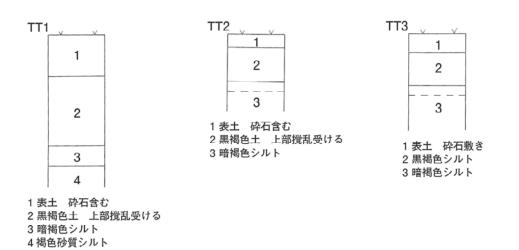




山形城三の丸(旅籠町)試掘状況 E~

図版23 山形城三ノ丸







第32図 山形城三ノ丸調査平面図・断面図



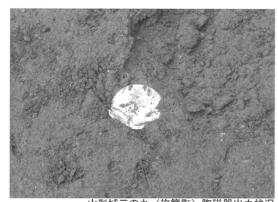
山形城三の丸(旅籠町)TT 1調査状況 E~



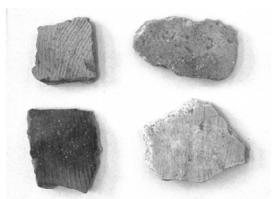
山形城三の丸(旅籠町)TT 2調査状況



山形城三の丸(旅籠町)TT 1 遺構検出状況 EN~



山形城三の丸(旅籠町)陶磁器出土状況

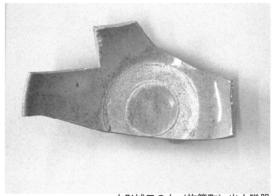


山形城三の丸(旅籠町)出土土師器





山形城三の丸(旅籠町)出土陶磁器



山形城三の丸 (旅籠町) 出土磁器

図版24 山形城三ノ丸

(19) 西原遺跡 (平成 11 年度登録)

所 在 地 尾花沢市大字尾花沢字西原

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調査期日 平成19年5月15日

起因事業 東北中央自動車道(東根尾花沢間)

遺跡環境 朧川右岸の段丘上に位置し、西1kmほどで最上川と合流する。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ11ヶ所を設定した。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

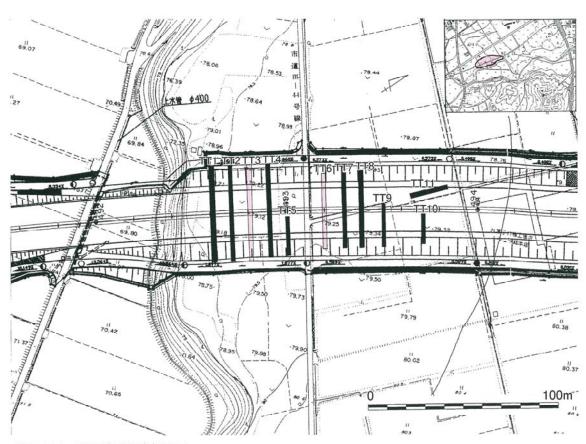
試掘面積 638 m²

検出遺構 時期不明の土壙

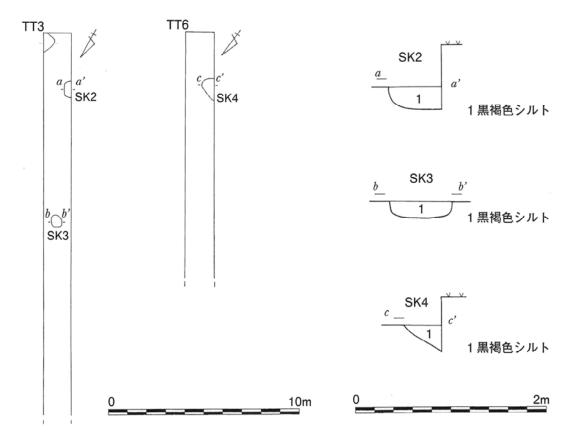
出土遺物 縄文土器片(採集品)

時 代 縄文時代

所 見 試掘調査の結果、設定した11本のトレンチの内TT3の東端とTT6の東端で時期不明の土壙を確認した。しかし、その他のトレンチでは遺構・遺物共に確認されなかった。遺跡の北側は以前の圃場整備により大きく改変されたと考えられる。なお、計画路線の東側から土器片1点を採集している。



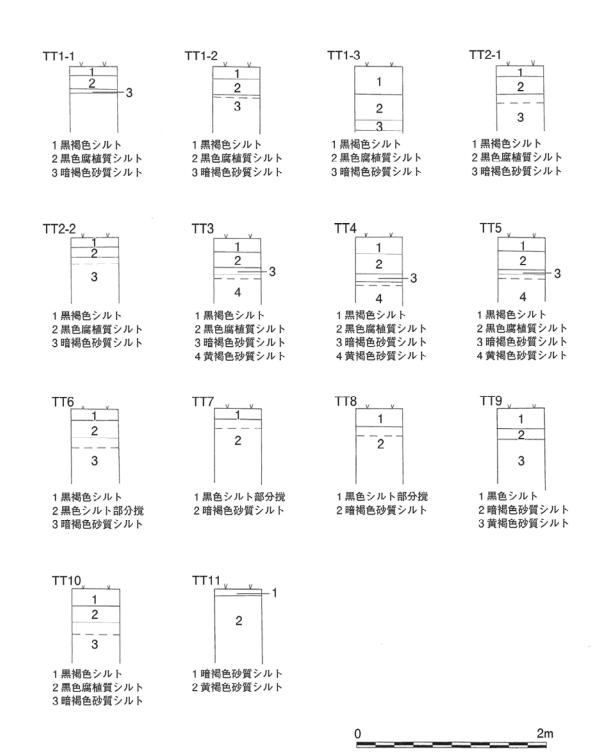
第33図 西原遺跡調査概要図



第34図 西原遺跡調査平面図・断面図



図版25 西原遺跡



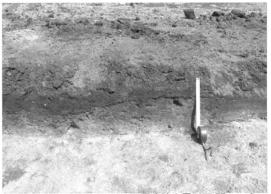
第35図 西原遺跡調査断面図











西原遺跡土層断面 II 8

図版26 西原遺跡

(20) 家の廻り遺跡 (平成11年度登録)

所 在 地 尾花沢市大字五十沢字家廻

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調査期日 平成19年5月17日 18日

起因事業 東北中央自動車道(東根尾花沢間)

遺跡環境 五十沢川右岸の段丘に立地し、最上川との合流点からは2kmほど上流に位置する。東に隣接して縄文後期を主体とする横内遺跡が所在する。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ9ヶ所、試掘ピット6ヶ所を設定した。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

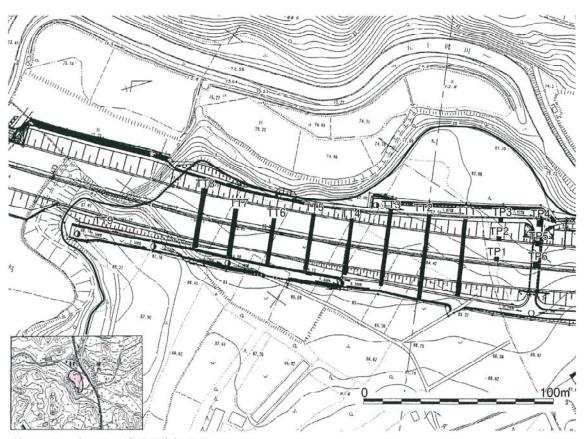
試掘面積 441 m²

検出遺構 落し穴1基

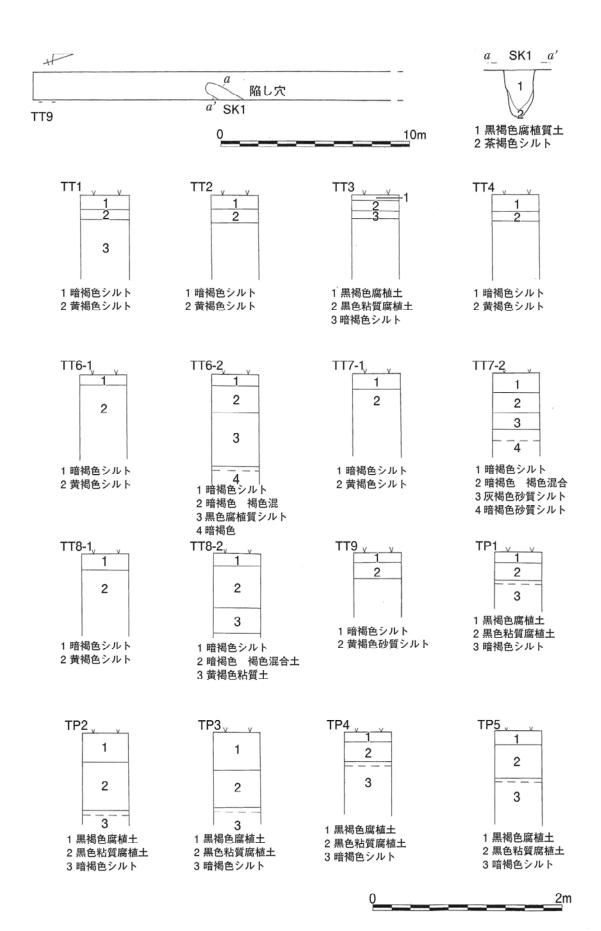
出 土 遺 物 縄文土器片 · 石器片

時 代 縄文時代

所 見 TT9から落とし穴1基を確認した。南東側の高台から石器3点、土器片2点を表採したが、試掘による遺物の出土はない。この高台は以前、重機により削平されたと見られ、表土下に地山の黄褐色粘土層がすぐ検出された。その他のTT1つTT8の8本のトレンチでも遺構・遺物は確認されなかった。



第36図 家の廻り遺跡調査概要図



第37図 家の廻り遺跡調査平面図・断面図

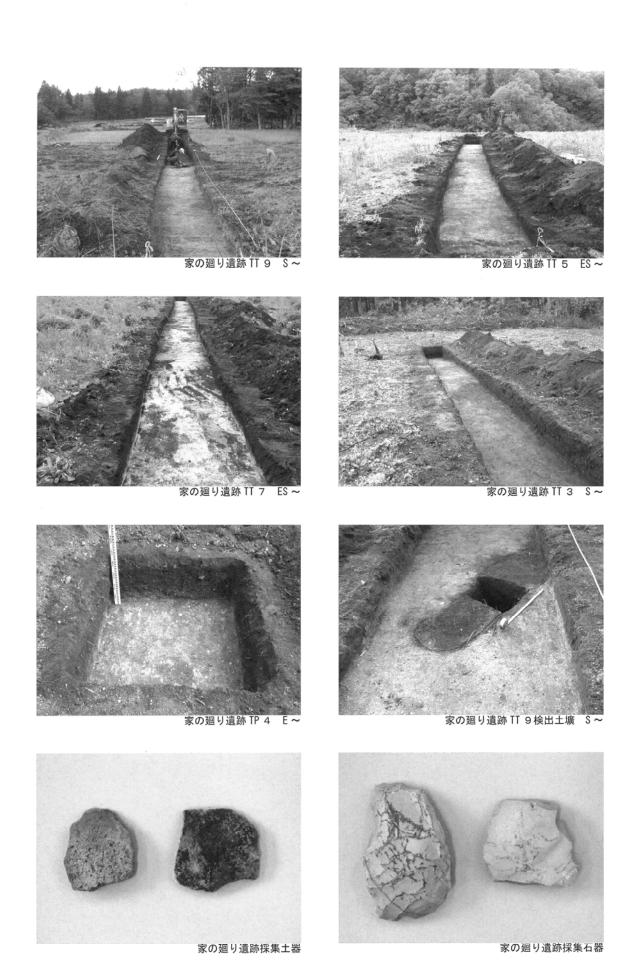


家の廻り遺跡近景 N~



家の廻り遺跡試掘状況 ES~

図版27 家の廻り遺跡



図版28 家の廻り遺跡

(21) 東北中央道(東根尾花沢間)遺跡可能性地 12

所 在 地 大石田町大字今宿

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

伊藤邦弘 (山形県埋蔵文化財センター) 氏家信行 (山形県埋蔵文化財センター)

調査期日 平成19年11月20日 21日

起因事業 東北中央自動車道(東根尾花沢間)

遺跡環境 朧川と五十沢川に挟まれた山麓平坦地。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ8ヶ所を設定。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

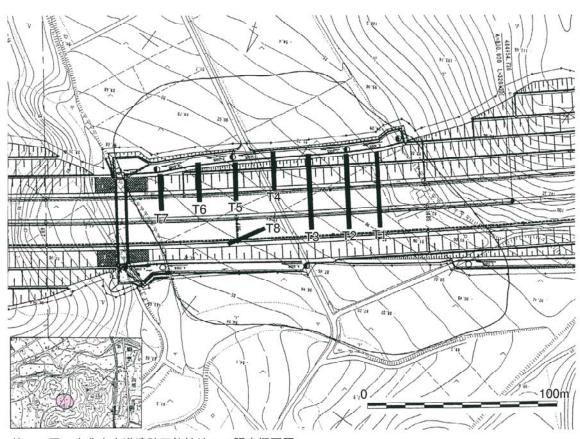
試掘面積 330 m²

検出遺構 風倒木痕

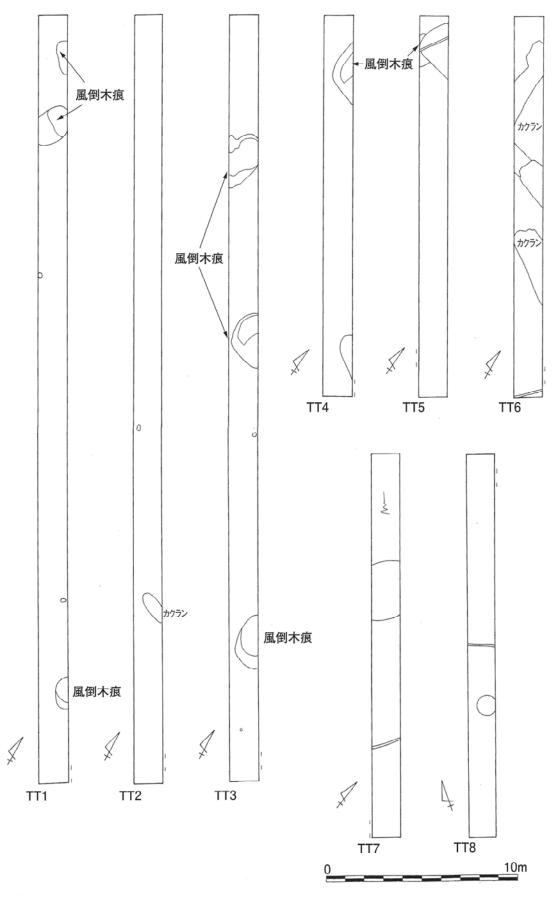
出土遺物 なし

時 代 不明

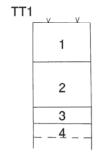
所 見 付近一帯は以前の畑地造成によって、重機により削平・整地されたとみられる。南側の丘陵下は表土が厚く、さらに厚い黒ボク土が堆積していた。試掘の結果、8ヶ所のトレンチからは明確な遺構の検出はなく、樹木の撹乱や後世の撹乱が目立った。



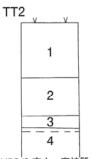
第38図 東北中央道遺跡可能性地12調査概要図



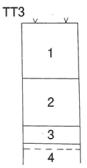
第39図 東北中央道遺跡可能性地12調査平面図



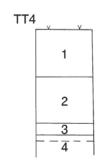
- 1 10YR3/2 表土 腐植質土
- 2 10YR2/1 腐植質土 __ 火山灰粒含む
- 3 10YR3/4 砂質シルト 火山灰粒含む
- 4 10YR4/4 砂質シルト 下部は砂多い



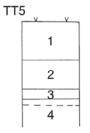
- 1 10YR3/2 表土 腐植質土
- 2 10YR2/1 腐植質土 火山灰粒含む
- 3 10YR3/4 砂質シルト 火山灰粒含む 4 10YR4/4 砂質シルト 下部は砂多い



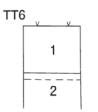
- 1 10YR3/2 表土 腐植質土
- 2 10YR2/1 腐植質土 火山灰粒含む
- 3 10YR3/4 砂質シルト 火山灰粒含む
- 4 10YR4/4 砂質シルト 下部は砂多い



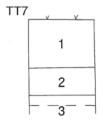
- 1 10YR3/2 表土 腐植質土
- 火山灰粒含む 2 10YR2/1 腐植質土
- 3 10YR3/4 砂質シルト 火山灰粒含む
- 4 10YR4/4 砂質シルト 下部は砂多い



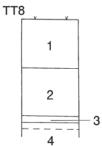
- 1 10YR3/2 表土 腐植質土
- 2 10YR2/1 腐植質土 火山灰粒含む
- 3 10YR3/4 砂質シルト 火山灰粒含む 4 10YR4/4 砂質シルト 下部は砂多い



- 1 10YR3/2 表土 腐植質土 2 10YR3/4 砂質シルト



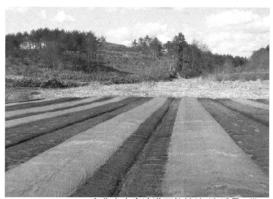
- 1 10YR3/2 表土 腐植質土
- 2 10YR2/1 腐植質土 火山灰粒含む 3 10YR4/4 砂質シルト 下部は砂多い



- 1 10YR3/2 表土 腐植質土 2 10YR2/1 腐植質土 火山灰粒含む
- 3 10YR3/4 砂質シルト
- 4 10YR4/4 砂質シルト 下部は砂多い



第40図 東北中央道遺跡可能性地12調査断面図



東北中央高速道可能性地 12 近景 W~



東北中央高速道可能性地 12 調査状況





東北中央高速道可能性地 12TT



東北中央高速道可能性地風倒木跡検出状況 (1)



東北中央高速道可能性地風倒木跡検出状況(2)



東北中央高速道可能性地 12TT 8 S~



東北中央高速道可能性地 IT 3 土層断面 S ~

図版29 東北中央道遺跡可能性地12

(22) 米沢南陽道路 I C予定地

所 在 地 高畠町深沼

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調査期日 平成20年1月18日

起 因 事 業 米沢南陽道路(南陽高畠 IC 予定地)盛土工事

遺跡環境 赤湯の市街地の南方約3kmに位置し、高速道路計画用地となっている。 付近は全体に盛土がなされている

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ3ヶ所を設定。

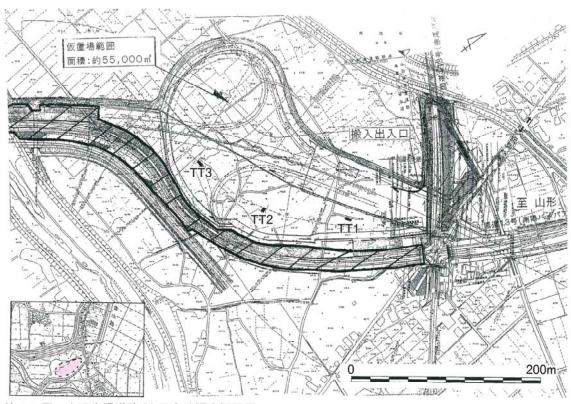
試掘方法 重機+人力で試掘調査を行った。

試掘面積 45 m²

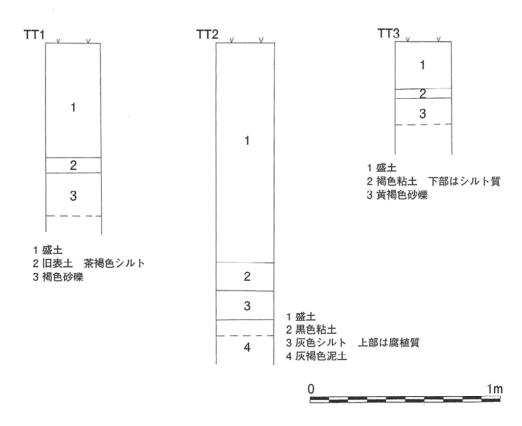
検出遺構 なし

出土遺物 なし

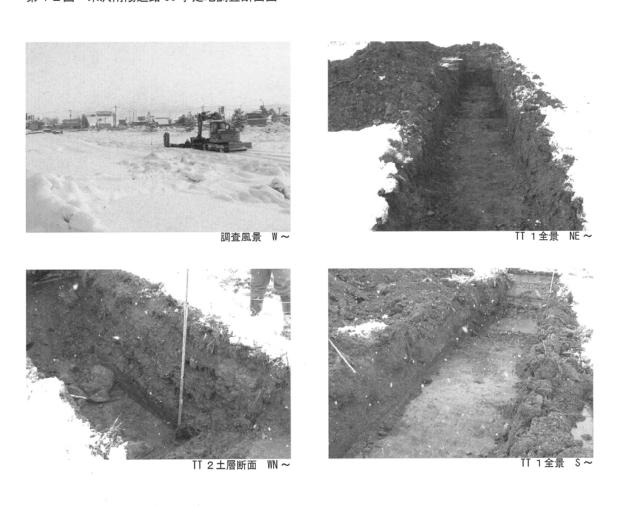
所 見 TT1 では約 120cm、TT2 では、約 2 m の盛土が見られた。TT3 からは盛土以下 3 層までは 80 cm ほどの堆積層で、地山は褐色の砂礫層であった。これら TT1 TT3 のいずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかったことから、遺跡の存在はないと判断された。



第41図 米沢南陽道路 IC 予定地調査概要図



第42図 米沢南陽道路 IC 予定地調査断面図



図版30 米沢南陽道路 IC 予定地

(23) 水窪遺跡

所 在 地 米沢市水窪

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

伊藤邦弘(山形県埋蔵文化財センター) 須賀井新人(山形県埋蔵文化財センター)

調 査 期 日 平成 19 年 9 月 13 日

起 因 事 業 用水供給事業(水窪ダム改修工事)

遺跡環境 鬼面川の上流域にあたり、標高390mのダム湖の縁辺に位置する。

試掘区 事業予定地内に試掘トレンチ6ヶ所設定した。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

試掘面積 121.5 ㎡

検 出 遺 構 性格不明の落ち込み、近代の畝跡

出 土 遺 物 縄文土器・石器片(採集品)

時 代 縄文時代

所 見 土取り予定地部分について6ヶ所のトレンチを設定した。その結果、明確 に縄文時代と判別できる遺構は確認できなかった。また、いずれのトレンチからも遺物は 出土してない。なお、湖岸の南西側縁辺からは縄文土器や石器が採集できる。

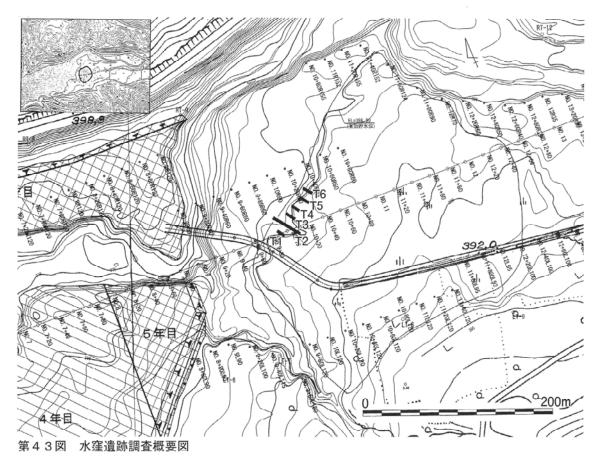








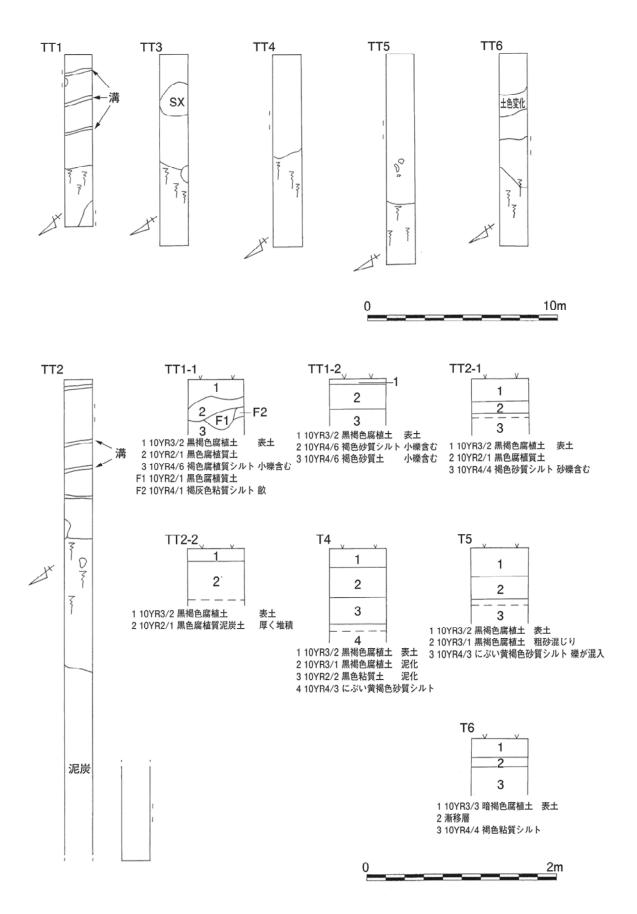
図版31 水窪遺跡





水窪遺跡全景 W~

図版32 水窪遺跡



第44図 水窪遺跡調査平面図・断面図

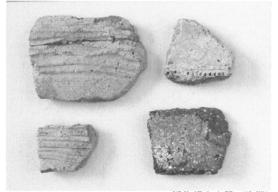


調査状況 TT 1

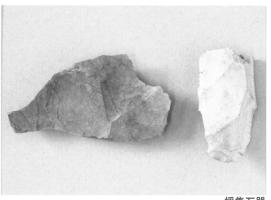








採集縄文土器 (晩期)



採集石器

図版33 水窪遺跡

Ⅲ 記録保存調査・立会調査の概要

(24) 下大曽根遺跡(平成19年度新規登録)

所 在 地 鮭川村大字石名坂字下大曽根

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調 査 期 日 平成19年7月30日~8月3日(延べ5日)

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業(鮭川左岸地区)

遺跡環境 鮭川左岸の河岸段丘、標高59mに立地する。地目は水田・畑地である。

試 掘 区 事業予定地内に調査区を設定。 7 m × 34m 1.8m×50 m。

試 掘 方 法 対象区域について、重機による調査区内の表土除去後、壁面と底面の精査を行って遺構と遺物を検出した。

調 査 面 積 998 ㎡

検 出 遺 構 掘立柱建物跡、土壙、溝跡、柱穴跡多数

出土遺物 赤焼土器坏・甕、黒色土器坏、須恵器台付坏・甕・壷、陶磁器

時 代 平安時代、近世

所 見 圃場整備が計画されたことから、県教委では平成13年に計画区域内の遺跡分布調査 (A調査)を実施した。その結果、事業区域内に5箇所の遺跡ないし可能性地が存在することが明らかになった。下大曽根遺跡は可能性地4として登録された。

平成19年4月、可能性地4が当年の事業範囲にかかることとなり、6月に試掘調査を実施した。その結果約15,000㎡に及ぶ平安時代の遺跡が存在することが明らかになった。試掘調査の結果を受けて、県教育委員会と最上総合支庁農村整備課との間で協議が行われ、遺跡東側は工法変更による保存に、西側は発掘調査による記録保存の対応を図ることとなった。今回の調査は、農道及び用水路建設に係る部分の調査で今年度の事業実施が不可避であったことから、県教育委員会が事前に発掘調査することとなったものである。

調査は農道が遺跡に係る部分と東側からの工事用道路工事部分を対象にして実施した。

層序

農道部分の堆積層序を観察するに、旧表土は確認されなかった。 3層の灰褐色シルト直下から遺構を確認検出することができ、 3層上半までは削平されている状況をみせている。 8層は赤色化した砂質シルトとなっている。遺跡北側では表土と 3層の直下で遺構を検出している。現地表面から約20cmの深度となる。遺跡東側は以前の水田造成のため、包含層や遺構の大部分が削平されているとみられる。

遺 構

調査では平安時代の掘立柱建物跡、土壙、柱穴群、近世以降の溝跡などが検出された。全体として遺跡の北側に集中する傾向が窺えた。



図版34 下大曽根遺跡

下大曽根遺跡遠景 ES~



第45図 下大曽根遺跡調査概要図

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は1棟を確認した。1間×3間の南北方向の建物跡で桁行2.4 m、梁行2.1 mを測る。径40cm程の掘り方に径20cm前後の柱痕が認められた。覆土中から土師器 甕片や坏等が出土している。規模が小さく、間尺が大きいことから倉庫跡等が考えられる。柱穴群

約50基からなるピット群がまとまって検出された。大小深さも様々である。方形に分布 配置していることから、なんらかの建物跡の可能性が考えられる。

遺物

遺物は平安時代の土器が大半を占め、土師器や須恵器が遺構や自然な落ち込みから出土した。総数は少ない。

須恵器は坏、台付坏、甕、壷などの破片資料。土師器は甕の体部破片。黒色土器は坏の 体部片や底部である。

陶磁器は、近世以降の碗・皿の破片資料が認められた。

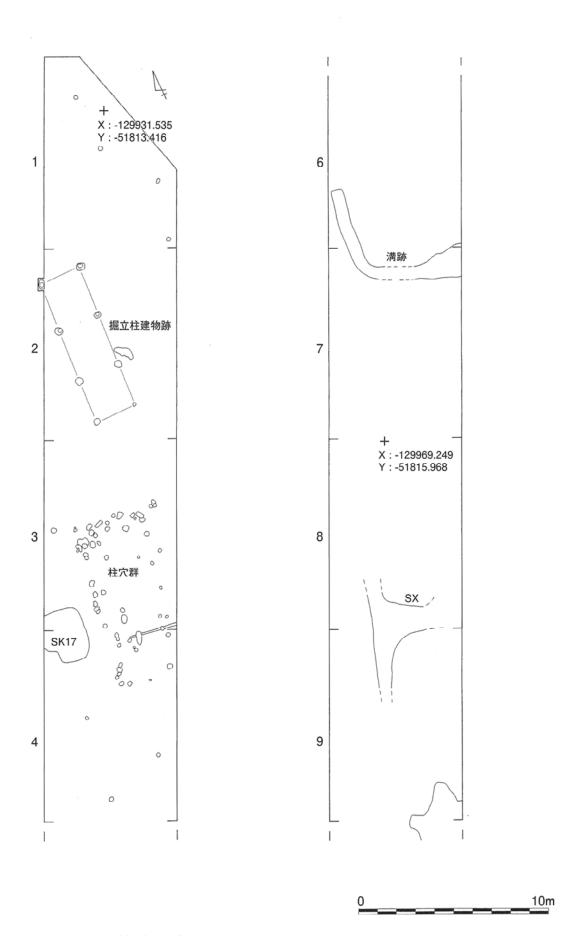
まとめ

遺跡は鮭川と内川に挟まれた自然堤防上に営まれた平安時代の集落跡である。周辺には 葎田 2 遺跡など古代から中世にかけての遺跡が発見されていることから、鮭川中流域の河 岸低地は古くから開拓開発が進められ、人々が生活を営んでいたことが明らかになった。 また、古代の遺跡がきわめて少ない最上地方においては貴重な発見といえる。

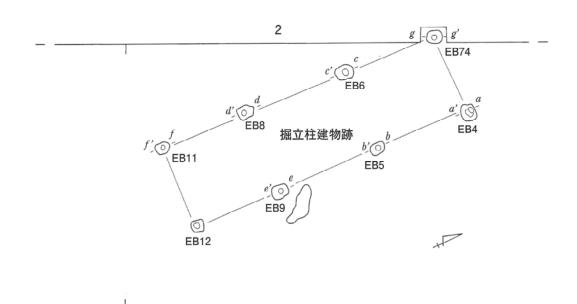


下大曽根遺跡検出掘立柱建物跡 S~

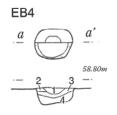
図版35 下大曽根遺跡



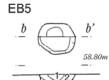
第46図 下大曽根遺跡調査平面図(1)





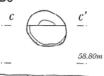


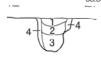
- 1 10YR5/1 褐灰色シルト 炭片含む
- 2 10YR4/1 褐灰色シルト
- 3 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト 赤色砂 3 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 赤砂含む
- 4 10YR5/1 褐灰色シルト



- 1 10YR5/1 褐灰色粘質シルト 炭片含む
- 2 10YR5/1 褐灰色シルト
- 4 10YR3/1 黒褐色粘質シルト

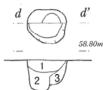
EB6



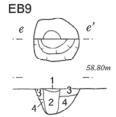


- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト 炭片含む 2 10YR4/1 灰褐色シルト 2 10YR5/1 褐灰色シルト 炭片含む
- 3 10YR3/1 粘質シルト 4 10YR5/1 褐灰色シルト

EB8

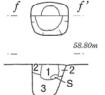


- 1 10YR5/1 褐灰色粘質シルト
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト



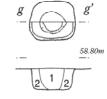
- 1 10YR4/1 粘質シルト 炭片含む
- 2 10YR4/1 シルト 黒色土粒含む
- 3 10YR3/1 粘質シルト 炭片含む 4 10YR4/1 シルト 黒色シルト粒 10%

EB11



- 1 10YR3/1 粘質シルト 炭片含む
- 2 10YR6/4 シルトに灰色シルトブロック混じり
- 3 10YR4/1 褐灰色粘質シルト

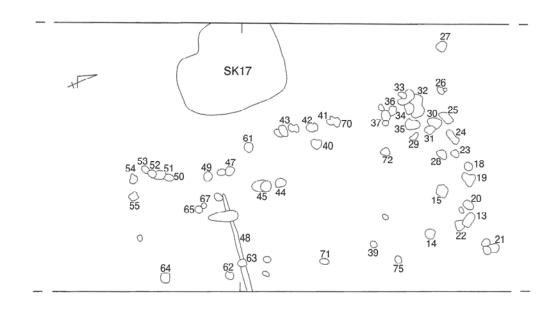
EB74



- 1 10YR5/1 褐灰色シルト
- 2 10YR6/3 灰黄褐色シルト
- 3 F1 と F2 の混合土



第47図 下大曽根遺跡調査平面図・断面図(1)



0 5m

第48図 下大曽根遺跡調査平面図 (2)



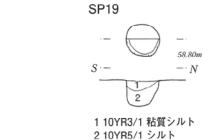
下大曽根遺跡柱穴群検出状況 S~

図版36 下大曽根遺跡





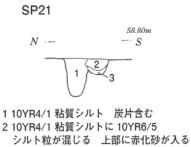
10YR6/4 粘質シルト混合土 固くしまる



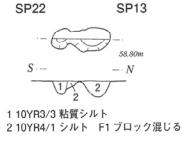


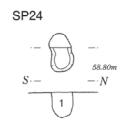
2 10YR3/1 粘質シルト

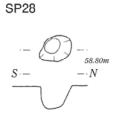
2 10YR4/1 シルト

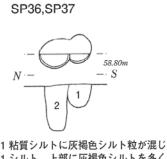


3 10YR5/1 粘質シルト







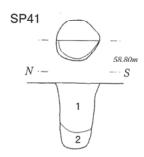


1 10YR3/1 粘質シルト 混合土 10YR6/6 粘質土 10YR5/1 シルト

1 10YR5/1 粘質シルトに灰褐色シルト粒が混じる 2 10YR5/1 シルト 上部に灰褐色シルトを多く含む

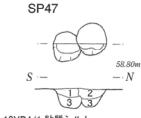
2m

第49図 下大曽根遺跡調査平面図・断面図(2)

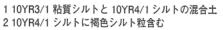


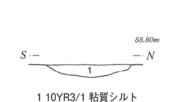
SP46 -- -- -- N 58.80m

1 10YR3/1 粘質シルト 2 10YR3/1 粘質シルト 赤砂を含む



1 10YR4/1 粘質シルト 2 F1 に少量 黄褐色砂質シルトが混じる 3 10YR3/3 砂質シルトに 10YR4/1 シルト粒 を含む

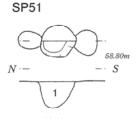




SP48

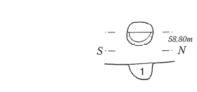


SP49

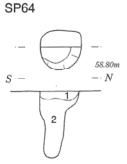


1 10YR3/1 粘質シルト 下部に 10YR4/1 シルト粒が混じる





SP63

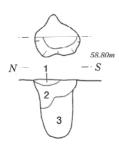


1 10YR4/1 粘質シルト 黒色土粒を含む

1 10YR3/1 粘質シルト 灰色シルト粒を含む 2 10YR4/1 シルト

SP70

SP62



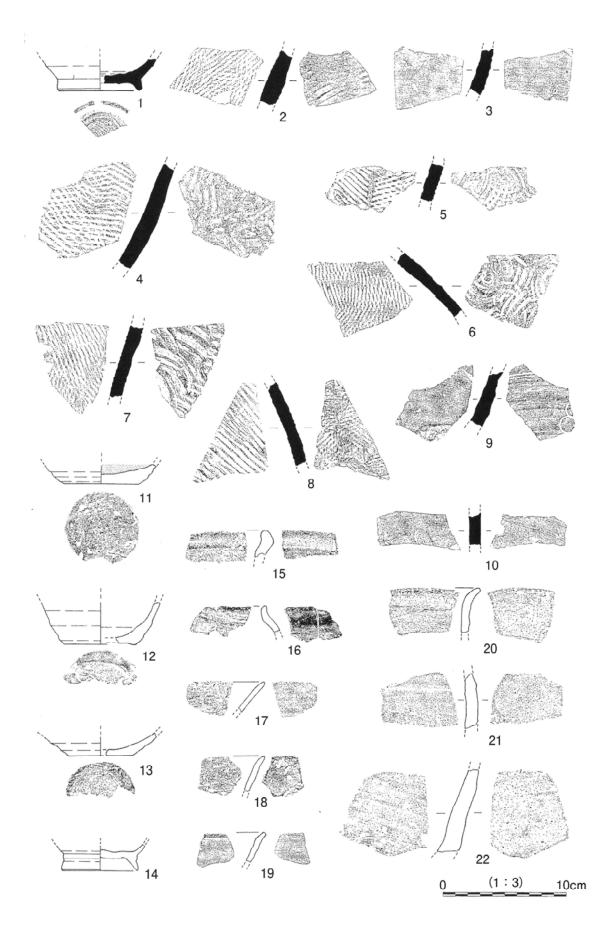
- 1 10YR3/1 粘質シルト 2 混合土 斑状
- 3 10YR4/1 シルト

0 2m

第50図 下大曽根遺跡調査平面図・断面図(3)

58.1111 N i Zm 0 m 5 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト 6 10YR7/6 明黄褐色シルト酸化鉄化 7 漸移層 8 10YR6/4 褐色砂質シルト ω 1表土敷き砂利2盛土褐色粘土質310YR5/1 褐灰色シルト410YR6/2 灰黄褐色粘質シルト 2 က 基本層序 G10 西壁 58.1m

第51図 下大曽根遺跡調査断面図(3)



第52図 下大曽根遺跡出土遺物実測図

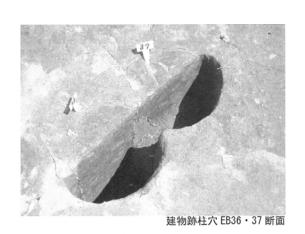


下大曽根遺跡調査状況 S~



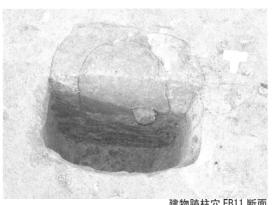
柱穴群検出状況近景



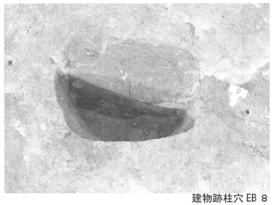




建物跡柱穴 EB7 断面



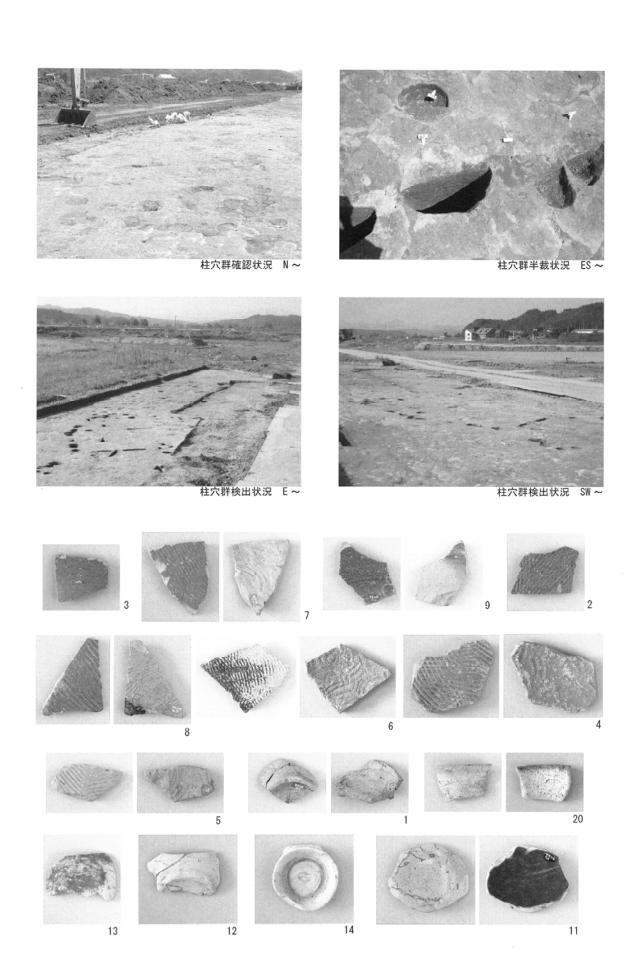
建物跡柱穴 EB11 断面





建物跡柱穴 EB 5

図版38 下大曽根遺跡



図版39 下大曽根遺跡

(25) 葎田 2 遺跡 (平成 18 年度新規登録)

所 在 地 鮭川村石名坂字葎田

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸 丸吉繁一

調 查 期 日 平成 19 年 5 月 23 日 7 月 24 日

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業 鮭川左岸地区

遺跡環境 鮭川左岸の低位自然堤防に立地する。

試 掘 区 事業予定地内に調査区 11 ヶ所を設定。

5月23日 T1-1 $(1.5m\times80m)$ T1-2 $(1.5m\times37m)$ T1-3 $(1.5m\times62m)$

 $T1-4 (1.5m \times 15m)$

7月24日 T2-1 $(1.8m\times36m)$ T2-2 $(1.8m\times37m)$ T2-3 $(1.8m\times25m)$

T2-4 (1. $8m \times 20m$) T2-5 (1. $8m \times 60m$) T2-6 (1. $8m \times 25m$)

 $T2-7 (1.8m \times 40m)$

試掘方法 重機によりトレンチを入れた後、トレンチ壁及び底面の精査を行った。

試掘面積 291 ㎡ +437 ㎡

検出遺構 (5月) 竪穴状遺構 2 基、溝跡 5 条、土壙 14 基、堀跡 2 条、柱穴群

(7月) 溝跡6条、土壙12基、河川跡1基、柱穴群

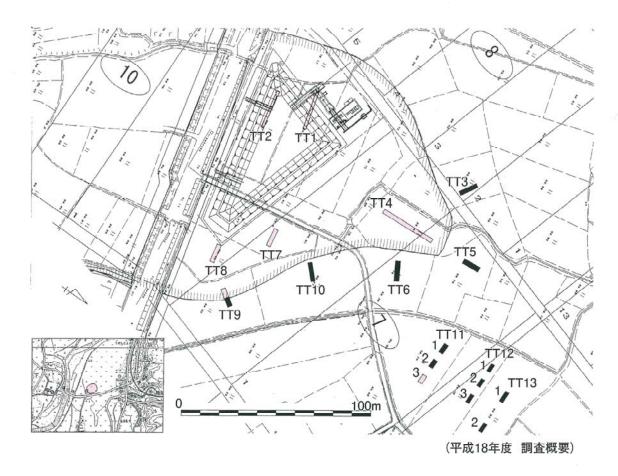
出 土 遺 物 赤焼土器、須恵器、珠洲系陶器(甕) 陶器、磁器、鉄鍋(底部)

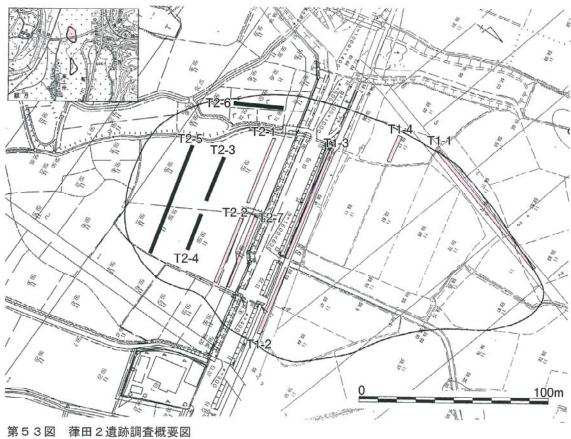
四百百、 和公百百、 四八四月 (左

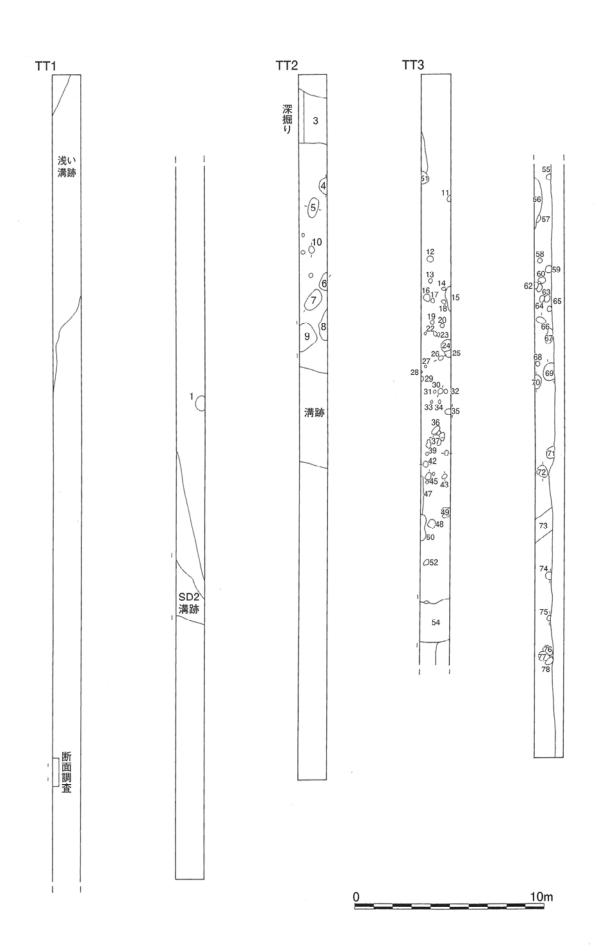
時 代 平安時代・中世

所 見 5月に用水路工事箇所について立会調査を実施した。平安時代の遺構遺物と中世の遺構遺物が検出された。以前の圃場整備のため、遺物包含層は削平される部分もあるが遺構は良好に保存されている。平安時代の遺構は、現地表面のやや高まっている部分を中心に南北に広がっていると考えられる。T1-3を中心に柱穴や土壙を確認、赤焼土器や須恵器の破片が出土した。中世の遺構は「館跡」と思われる堀跡の痕跡と伝承が残されており、調査でも時期不明の柱穴や溝跡が検出されている。想定できる堀跡のラインから館跡規模は、南北約80m、東西約80mのほぼ方形の館跡と推定される。遺物としては珠洲系陶器や青磁の破片が出土している。珠洲系陶器の年代から14~15世紀の館跡と考えられる。

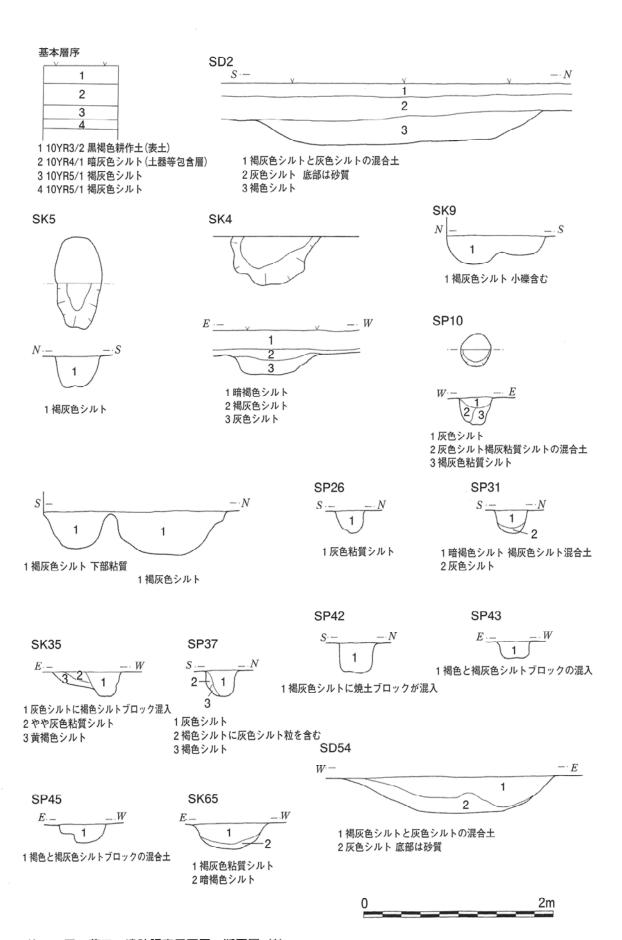
7月、道路を挟んだ南側部分について立会調査を実施した。平安時代の遺構・遺物と中世の館跡に関連する遺構・遺物が検出された。以前の水田整備のため、包含層は削平された部分も見られたが、遺構は概ね良好に保存されていた。中世の遺構は、現地形がやや高まる部分を中心に南北に広がっている。遺構では、T2-2を中心に柱穴や土坑・溝跡があり、南側のトレンチ T2-4、トレンチ T2-5では遺構・遺物共に少なかったことから、南側に限られた範囲に集中していると考えられた。平安時代の遺構は全体に少なかったが、道路側の中央部分で確認している。平安時代の遺物では赤焼土器坏や内黒坏、甕の破片などが出土し、中世の遺物では珠洲系陶器の甕や擂鉢等が認められた。



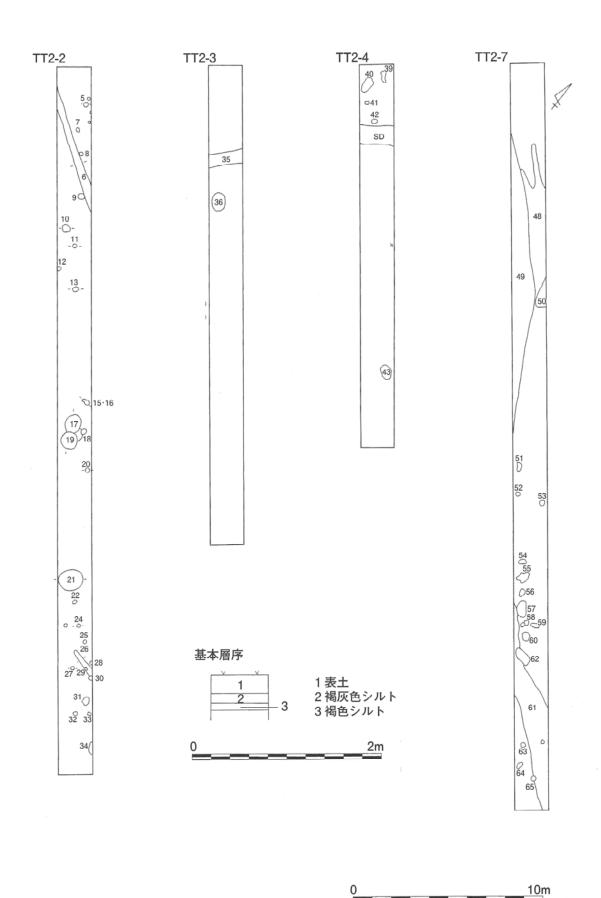




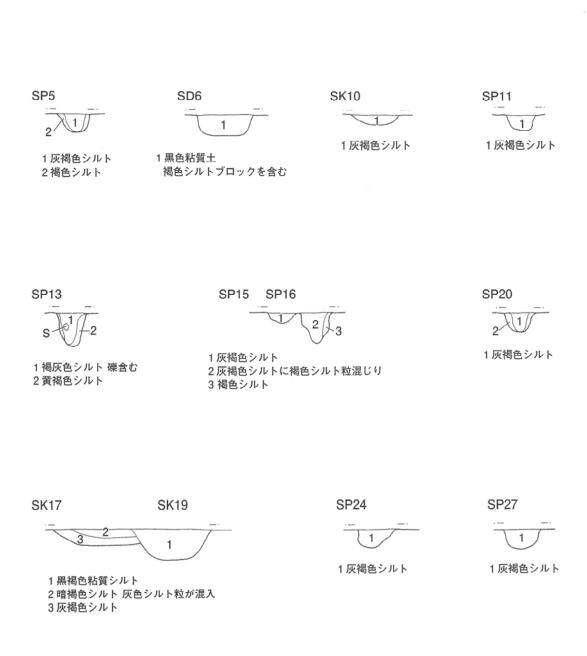
第54図 葎田2遺跡調査平面図

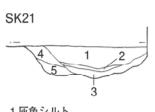


第55図 葎田2遺跡調査平面図・断面図(1)



第56図 葎田2遺跡調査平面図・断面図(2)

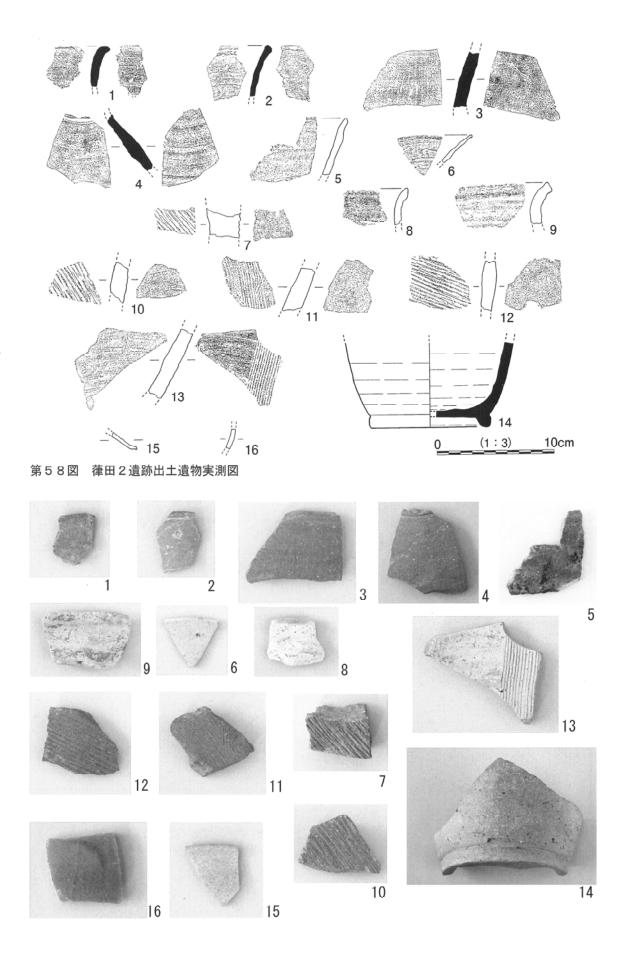




- 1 灰色シルト 2 黒色腐植質シルト
- 3灰色シルト
- 4 褐色シルトに灰色シルト混じり
- 5 F4 より灰色シルトが多い

0 2m

第57図 葎田2遺跡調査平面図・断面図(3)



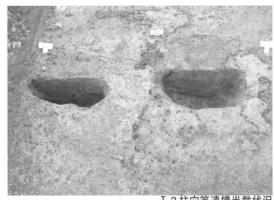
図版40 葎田2遺跡



葎田2遺跡近景(西側堀跡部分)

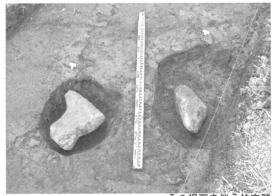


T 3 柱穴等遺構検出状況





T 3 柱穴等調査状況



T 3根石を伴う柱穴群

図版41 葎田2遺跡





葎田 2 遺跡 T2 溝跡検出状況



葎田 2 遺跡 SD73 溝跡断面



葎田 2 遺跡 SK69⋅70 土壙 S ~



図版42 葎田2遺跡

(26) 山形元屋敷遺跡 (平成12年度新規登録)

所 在 地 山形市谷柏

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調査期日 平成19年12月19日

起因事業 花川市道橋工事

遺跡環境 山形市街地の西方、標高 110mの平野部に立地する。花川の右岸にあたり、 地目は市道・水田・果樹園などとなっている。

試 掘 区 事業予定地に調査区2ヶ所を設定。

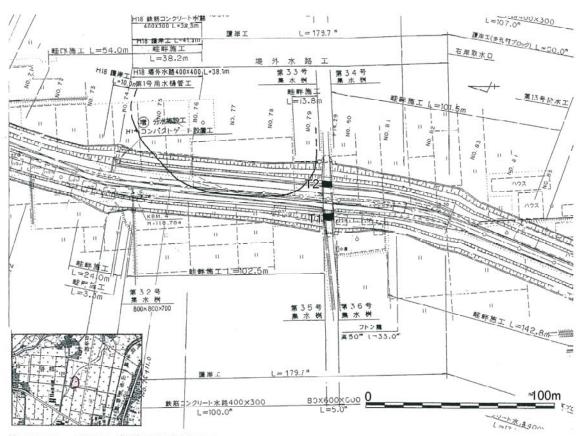
試 掘 方 法 計画区域について、重機による調査トレンチを入れた後、トレンチ壁面及び 底面の精査を行いながら記録を行った。

試掘面積 16 m²

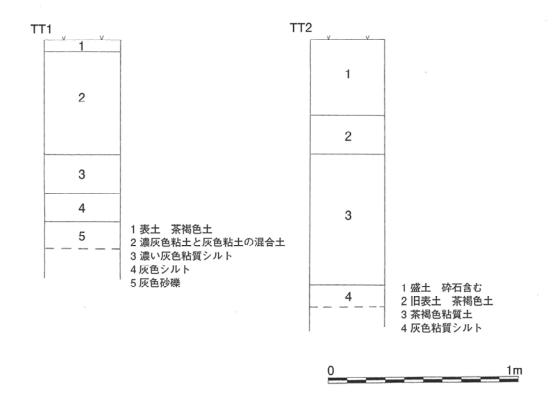
検出遺構なし

出土遺物 表土に近世以降の磁器。堆積層内より土師器小片。

所 見 橋脚下部工事予定地に設定した2本のトレンチからは遺構は検出されなかった。いずれのトレンチも盛土下に旧表土、粘質土層、そして5層以下に砂礫層が堆積していた。3層出土の土師器片は流れ込みの可能性が高い。



第59図 山形元屋敷遺跡調査概要図



第60図 山形元屋敷遺跡調査断面図









図版43 山形元屋敷遺跡

(27) 下反田 2 遺跡 (平成 13 年度登録)

所 在 地 山形市大字下反田

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調査期日 平成19年6月21日

起 因 事 業 須川下流部護岸復旧工事

遺跡環境 下反田地区東側、反田橋上流の須川左岸段丘に立地する。標高は102m。

試 掘 区 復旧工事の予定箇所に調査区を設定した。

試掘方法 工事区域について、重機により調査トレンチを入れた後、トレンチ壁面及 び底面の精査を行いながら、遺跡の確認を行い、検出した遺構遺物は記録保存をする。

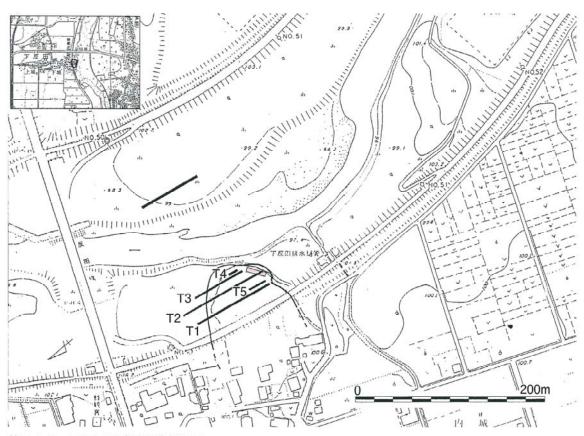
試掘面積 80 m²

検出遺構 竪穴住居1棟

出土遺物 土師器(高坏・碗・甕)

時 代 古墳時代

所 見 表土下 20 cmの浅いところで古墳時代の住居跡を確認した。内部からは土師器の高坏や碗などが出土している。住居プランの確認は、ほぼ床面のレベルであった。なお、調査区の一部は、平成13年度に行った試掘トレンチと重なっている。

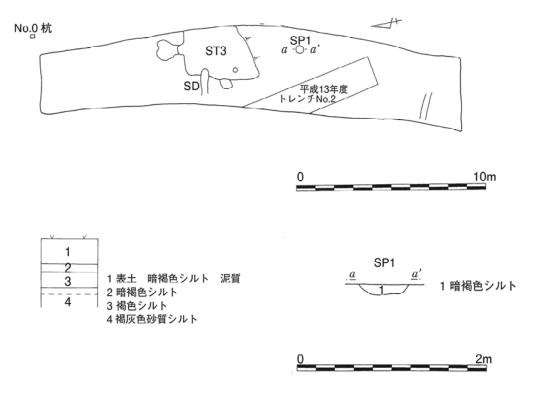


第61図 下反田2遺跡調査概要図



図版44 下反田2遺跡

下反田 2 遺跡調査区全景 SW ~



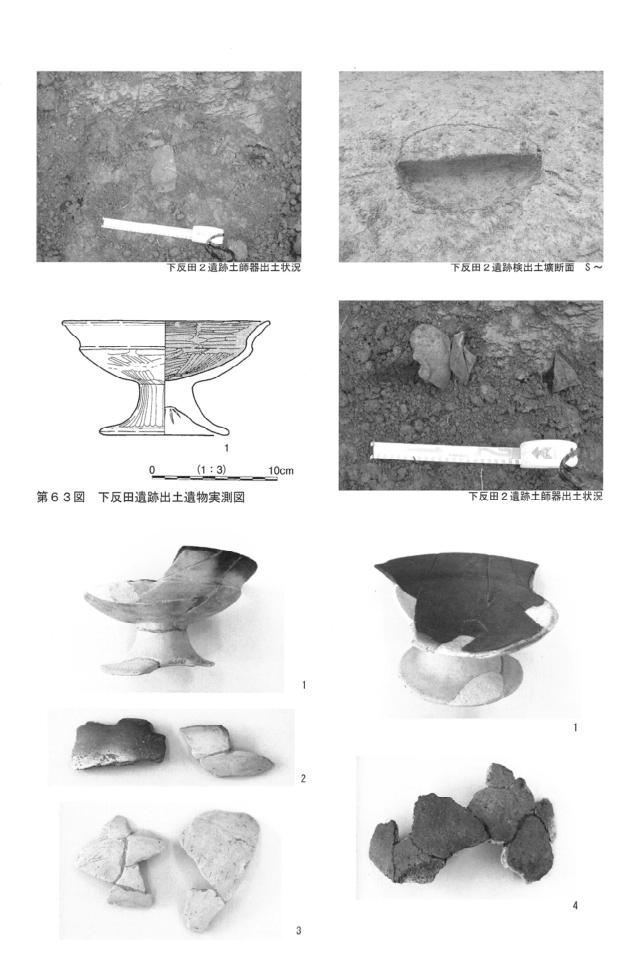
第62図 下反田2遺跡調査平面図·断面図



下反田2遺跡調査トレンチ全景 N~



図版45 下反田2遺跡



図版46 下反田2遺跡

(28) 下叶水遺跡 (遺跡番号 4126)

所 在 地 小国町大字叶水字下叶水

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸 丸吉繁一

調 查 期 日 平成 19 年 6 月 12 日 13 日

起因事業 横川ダム建設事業

遺跡環境 標高 270m前後。横川右岸の低位段丘縁辺に立地

調 査 区 事業予定地に調査区を設定。

試掘方法 対象区域について、重機によりトレンチを入れた。

試掘面積 120 m²

検出遺構 竪穴住居跡2基 土壙14基 柱穴5ヶ所 近世以降の桶跡等3基

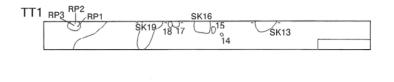
出土遺物 縄文土器・石器 (整理箱 2 箱)

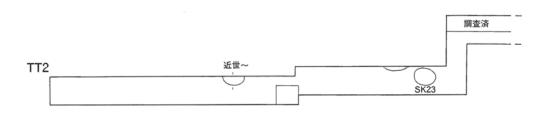
時 代 縄文時代(後期·晚期)

所 見 遺構の大半は縄文時代晩期のものである。部分的ながら検出できた縄文の住居跡 (ST10) は、出土遺物から大洞C2から大洞A式の時期とみられた。ST20 は、炉跡と配石遺構があり、配石の間に土器が3固体埋設されていた。土器文様の入り組み磨り消し文等から後期後半の時期と見られる。

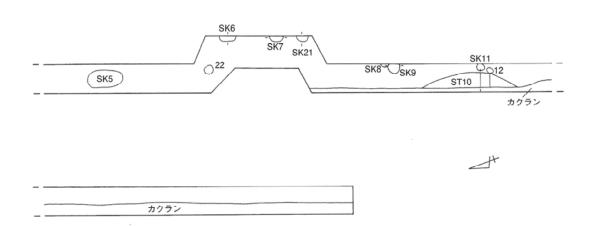


第64図 下叶水遺跡調査概要図



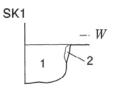








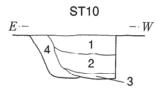
第65図 下叶水遺跡調査平面図



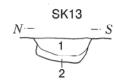
1黒褐色シルト 砂礫を含む 2 褐色粘質シルト 貼付け



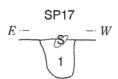




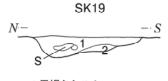
1暗褐色シルト 砂礫含む 2 F1 に褐色シルトブロック含む 3 暗褐色シルト 砂礫含む 4 暗褐色砂質シルト 下部は砂礫多



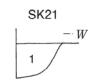
1 暗褐色シルト 2 F1i 褐色シルトのブロック混合



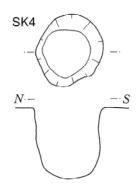
1 暗褐色砂質シルト



1 黒褐色シルト 2 灰褐色シルト



1黒褐色砂質シルト 礫含む



2m

第66図 下叶水遺跡調査平面図・断面図

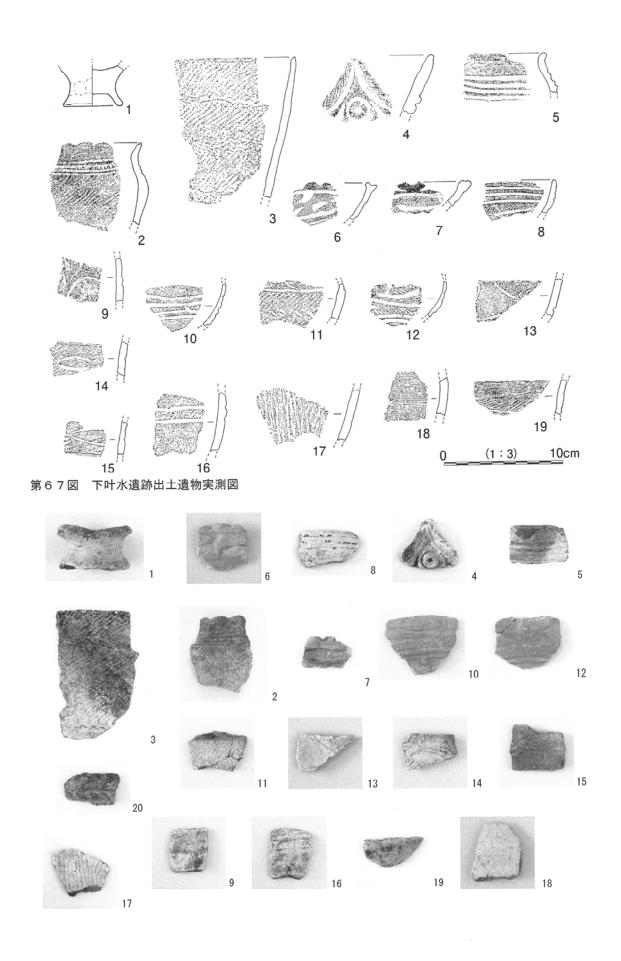


下叶水遺跡調査状況 N~



ピット検出状況 N~

図版 4 7 下叶水遺跡



図版48 下叶水遺跡





ST10 竪穴住居跡土層断面





集石と遺物の出土状況

図版49 下叶水遺跡

(29) 高瀬山遺跡

所 在 地 寒河江市高瀬山乙

起 因 事 業 最上川ふるさと総合公園整備事業

調査期日 調査打合せ:4月11日

立会調査 : ①4月16日・17日

②4月20日~23日

③5月8日~10日

④ 5月29日~6月1日

⑤7月3日~7日

⑥ 8 月 20 日 21 日

⑦9月19日~25日

⑧11月28日

92月4日

遺跡環境 遺跡は寒河江市街地の南西方向、東流する最上川に架かる高瀬大橋左岸から 北西約 150mの段丘面上に位置する。標高は 113mを測る。地目は畑地である。

高瀬山遺跡一帯の地形は東側に河間低地や旧河道を残す後背湿地が広がり、西側にも旧河 道を残す低位の段丘が広がっている。また 1997 年の東北横断自動車道建設では高瀬山を東 西に掘削した際に断層露頭が現れ、阿小島功(1999)らの調査から沖積世に活動している 活断層の存在が報告された。今回の調査区はこの活断層の位置する中位段丘にある。高瀬 山遺跡は90haという広大な範囲があり、周辺には約40ヶ所近い遺跡が分布している。

試掘方法 工事計画区域について、重機による調査トレンチを入れた後、部分的に手掘 りでトレンチ壁面及び底面の精査を行いながら、遺構の確認を行い、検出した遺構・遺物 は記録保存とした。

時 代 縄文時代~奈良·平安時代

調査の経緯 平成18年度に今後の公園整備計画と遺跡保護についての打合せを持ち、平成 19年度に工事に先行して工事箇所に絞って立会調査を実施することとなった。対象箇所は、 埋設管や給排水設備等に伴う線や点の部分が大半で、工事の計画に合わせて数回に渡る調 査が予定された。

果 4月の樹木(さくらんぼ)の移植や送水管設置箇所を始めとして、11月の公 園内トイレ設置部分、平成20年2月に最終の園路工事に係わる立会調査まで計9次に及ぶ 調査が必要であった。なお、各調査の内容は検出遺構・遺物共に纏った量となったことか ら、本報告書中での収録が不能となったため、来年度の分布調査報告(36)の中で報告す る予定でいる。





送水管予定地のトレンチ

図版50 高瀬山遺跡



第68図 高瀬山遺跡調査概要図

表-3 掲載遺跡位置図使用図幅一覧 (2万5千分の1)

No.	遺跡名	図幅名	No.	遺跡名	図幅名	
1	後沢	新庄	31	亀ヶ崎城	酒田南部	
2	昭和地区	羽前金山	32	豊龍館	宮宿	
3	杉ノ木山	天童	33	みはらしの丘N o 1 9	山形南部	
4	葎田2 下大曽根	羽根沢	34	三沢 b	米沢東部	
5	梨郷南館	羽前小松	35	山形城三の丸 旅篭町	山形北部	
6	鷺畑新田	羽黒山	36	山形城三の丸 春日町	山形北部	
7	小平4 丑ヶ沢	羽後観音寺	37	米沢南陽道路 I C	米沢北部	
8	山岸	寒河江	38	西原	尾花沢	
9	本合海上野1	古口	39	家の廻り	延沢	
10	自姓寺	古口	40	小岩川地区	温海	
11	本合海上野2	古口	41	下叶水	小国東部	
12	小関可能性地1 2	寒河江	42	間沢館	海味	
13	蔵増宮田	寒河江	43	渡北館	米沢北部	
14	五十沢公園	延沢	44	水窪	米沢東部	
15	山元遺跡	天童	45	早房A	富並	
16	窪田 可能性地1	米沢北	46	植ノ山2遺跡	上山	
17	井上館	羽前小松	47	植ノ山3遺跡	上山	
18	潜清水 b	米沢北	48	新町遺跡	長井	
19	上新田 b	糠野目	49	南台遺跡	長井	
20	中川原	糠野目	50	山形元屋敷遺跡	山形南部	
21	飛鳥 可能性地2	余目	51	下反田2遺跡	山形北部	
22	飛鳥神内遺跡	余目	52	高瀬山遺跡	寒河江	
23	白山 可能性地	鶴岡	53	蔵増宮田遺跡	寒河江	
24	鮎貝城	荒砥				
25	天童古城	天童				
26	間木の内	銀山				
27	楯畑楯	天童		,		
28	堅苔沢館	三瀬				
29	由良館	三瀬				
30	船止	羽後観音寺				

IV まとめ

平成 19 年度の遺跡詳細分布調査は、平成 20 年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲等を明らかにし、開発との調整を図ることを目的として実施したものである。また、記録保存のための小規模な発掘調査と立会調査も行った。

1 調査遺跡数

(潰跡名)

調査遺跡数 86 遺跡 (表面踏査・試掘調査・発掘調査・立会調査等を実施した遺跡)、その他に調査遺跡数に含めないが、開発との調整で現地確認調査を実施したもの (調査の結果、遺跡には影響が及ばなかったもの) や表面踏査により各種開発事業予定地で抽出した遺跡可能性地 (今後の試掘調査等で遺跡となるかを判断するもの) などについても調査対象とした。

2 新規発見遺跡、範囲の訂正、遺跡登録抹消

今年度の新規発見遺跡数6遺跡 範囲の訂正、名称の変更等の措置が講じられた遺跡数5遺跡 以下にその一覧を掲げて調査のまとめとする。

(1) 県教育委員会が発見し登録した遺跡

	(遺跡名)	(所在地)	(種別)	(時期)	
1	下大曽根遺跡	鮭川村大字庭月字下大曽根	集落跡	平安時代	
2	丑ヶ沢遺跡	酒田市大字市条字小平	集落跡	縄文時代	平安時代
3	後沢遺跡	金山町大字漆野字春木	散布地	縄文時代	
4	鷺畑新田遺跡	鶴岡市大字添川字鷺畑新田	包蔵地	弥生時代	平安時代
5	蔵増宮田遺跡	天童市大字蔵増字宮田	散布地	古墳時代	
6	本合海上野2遺跡	新庄市本合海字上野	散布地	縄文時代	

(2) 範囲等の修正を必要とする遺跡、登録を抹消した遺跡

(変更内容)

1	梨郷南館	範囲の修正 平成 15 年 3 月『山形県遺跡地図CDROM』
2	葎田2遺跡	範囲の修正
3	葎田遺跡	抹消
4	島遺跡	範囲の修正(山形市大字島: 範囲確認調査の実施による修正)
5	千手院	節囲の修正一部削除(山形市大字山手・山形具遺跡地図悉号 186)

(変更を必要とする文献名)

報告書抄録

下反田2 集落跡 古墳時代 竪穴住居跡 1 土師器杯 た主体とする集落跡、護岸工事に伴って掘削される川岸間際の立会調査を行った所、竪穴住所、竪穴住所、竪穴住居跡・土師器高郷・大田部器高郷・大田部とは、近田県地に営・株技な係わりの中で営まれていたことが推察された。 出土箱数 1) 下叶水 集落跡・縄文時代 空穴住居跡・2 縄文土器・大田・海・大田・海・大田・海・大田・海・大田・海・大田・海・大田・海・大田・			1					1 12 24						
一	ふりがな	Ĉ.	ぶんぷちょ	うさほうこくし	ン よ									
一	書名 分布調査報告書 (35)													
	副書名													
一型	卷次													
編集機関	シリーズ名 山形県埋蔵文化財調査報告書													
一方 一方 一方 一方 一方 一方 一方 一方	シリース	《番号	第210集											
所在地 〒990-8570 山形県山形市松波丁目8番1号 TEL 023-630-2880 発行年月日 西暦2009年3月25日 東行年月日 西暦2009年3月25日 東京作生地で地域であった。 中水地で下水管化 所在地で地ではあった。 工作可付達路等号 北線 東経 調査期間 調査期間 調査所図 調査所図 調査所図 調査所図 (ml) したおおきたり下大管根 おおよちたは デモ大管根 かないたが、あたいたはなからからいしなからからいたが、他川村 石名坂 おおいたい しなからかけん かないたが、他川村 石名坂 おおいたいたが、他川村 石名坂 かないたいたが、他川村 石名坂 かないたいたが、他川村 石名坂 かないたいたが、他川村 石名坂 かないたいたが、他川村 石名坂 かないたいたが、他川村 石名坂 かないたいたが、他川村 石名坂 かないたいたが、地域が 大学下民田 15分 16分 16分 16分 16分 16分 16分 16分 16分 16分 16	編著者名	í	阿部明彦	石井浩雪	と 小嶋	康広	内	占繁一						
下大曽根	編集機関	1	山形県教育委員会											
大学時代 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中央 中	所在地		〒990−8	570 山形	県山形市松	\波二丁	「目	8番1号	ΤЕ	L	023-630-	2880		
下大曽根 市町村 連跡番号 北線 頂経 調査期間 (nf) 調査原因 (nf) 調査原因 (nf) 調査原因 (nf) 調査原因 (nf) (nf) 調査原因 (nf) (nf	発行年月	日	西暦2009	年3月25日										
Lもおおそれ 下大曽根 最上部 最多 五名坂 金がかわら いれとさか 最上部 是一部 最上部 最上部 是一部 最上部 是一部 最上部 是一部 最上部 是一部 是一部							L D.	北緯 東経		調査期間			調査原因	
中央			やまがたけん 山形県 さけかわむら 蛙川村 あざしもおお	もがみぐん 最上郡 いしなざか 石名坂 そね		36 平成19		49分	14分		~			
下反田 2			山形県 さけかわむら 鮭川村 あざむぐらだ	最上郡 いしなざか 石名坂	06366	1 //	' '	49分	14分		~	728		
計形県			山形県 おおあざしもそ	山形市 りだ	06201			16分	16分	20	070621	80		
下大曽根 集落跡 平安時代 江戸時代 掘立柱建物跡 1 赤焼土器 無色土器 須恵器 鮭川流域では敷少ない平安時代の集落跡、降 灰した火山灰(十和田a)と遺構の係わりから、年代が特定でき、この地域の集落や遺物を窺う上で貴重な資料となる。 (出土箱数1) 本田2 集落跡 平安時代 鎌倉時代 室町時代 整穴状遺構 2 赤焼土器 赤焼土器 黒色土器 須恵器 下大曽根遺跡に北綾する平安時代・中世に及 条集落跡、中間前期以降に構築されたと考えられる一理時間のの規模の方形館が注目される。 「大曽根遺跡に北核する平安時代・中世に及 条集落跡・中間前期以降に構築されたと考えられる一理時の られた一回の規模の方形館が注目される。 「大曽根遺跡に北核する平安時代・中世に及 るれる一辺80~1000規模の方形館が注目される。 「大曽根遺跡に北核する平安時代・中世に及 られる一辺80~1000規模の方形館が注目される。 (出土箱数1) 「出土箱数1) 下反田2 集落跡 土壌 古墳時代 室穴住居跡 土壌 土師器本 土師器高环 土地部器高邦 土 土師器高郷 山形市西部の須川左岸に位置する古墳時代を明 を主体とする集落跡。護岸工事に位置する古墳時代を明 るを主体とする集落跡。 ・原子工をはなどが検出され、当時の集落が利れた ・記ではいたいたことが推察された。 (出土箱数1) 下叶水 集落跡 縄文時代 江戸時代 土壌 2 縄文土器 石器 横川上流部に位置する本遺跡は、山間奥地に営 まれた縄文時代後別から晩期にかけての集落遺 から外れた河川原の旧直治かで、の第のかなが ら整穴住居や土壌などの遺構分布の広がりが確 設できた。			山形県 おおあざかのみず	小国町	06401	4126		0分	48分		~	120		
下大曽根 集落跡 平安時代 江戸時代 掘立柱建物跡 1 赤焼土器 無色土器 須恵器 鮭川流域では敷少ない平安時代の集落跡、降 灰した火山灰(十和田a)と遺構の係わりから、年代が特定でき、この地域の集落や遺物を窺う上で貴重な資料となる。 (出土箱数1) 本田2 集落跡 平安時代 鎌倉時代 室町時代 整穴状遺構 2 赤焼土器 赤焼土器 黒色土器 須恵器 下大曽根遺跡に北綾する平安時代・中世に及 条集落跡、中間前期以降に構築されたと考えられる一理時間のの規模の方形館が注目される。 「大曽根遺跡に北核する平安時代・中世に及 条集落跡・中間前期以降に構築されたと考えられる一理時の られた一回の規模の方形館が注目される。 「大曽根遺跡に北核する平安時代・中世に及 るれる一辺80~1000規模の方形館が注目される。 「大曽根遺跡に北核する平安時代・中世に及 られる一辺80~1000規模の方形館が注目される。 (出土箱数1) 「出土箱数1) 下反田2 集落跡 土壌 古墳時代 室穴住居跡 土壌 土師器本 土師器高环 土地部器高邦 土 土師器高郷 山形市西部の須川左岸に位置する古墳時代を明 を主体とする集落跡。護岸工事に位置する古墳時代を明 るを主体とする集落跡。 ・原子工をはなどが検出され、当時の集落が利れた ・記ではいたいたことが推察された。 (出土箱数1) 下叶水 集落跡 縄文時代 江戸時代 土壌 2 縄文土器 石器 横川上流部に位置する本遺跡は、山間奥地に営 まれた縄文時代後別から晩期にかけての集落遺 から外れた河川原の旧直治かで、の第のかなが ら整穴住居や土壌などの遺構分布の広がりが確 設できた。	遺跡名	種別	主な時代	主	な遺構	:	主な遺物				特記事項			
「			が 平安時代	掘立柱建物 土壙 溝跡	跡 1 1 2			赤焼土器 黒色土器 須恵器	3		灰した火山灰 (十和田a)と遺構の係わら、年代が特定でき、この地域の集落 を窺う上で貴重な資料となる。			
下反田 2 集落跡 古墳時代 監穴住居跡 1 土師器坏 点の開発財産の企業の産産行った所、竪穴住所、砂木の所、砂木の原の金剛産を行った所、竪穴た所、竪穴を所、砂木ので、所、砂木ので、所、砂木ので、所、砂木ので、所、砂木ので、所、砂木ので、所、砂木ので、所、砂木ので、所、砂木ので、所、砂木ので、所、砂木ので、所、砂木ので、が、油ので、は、当時の集落が河川と密接な係わりの中で含まれていたことが推察された。 (出土箱数 1) 下叶水 集落跡 縄文時代 との企業の選挙を持入する。全国調査対象とした地点は、発掘調算がである。全国調査対象とした地点は、発掘調算がである。全国調査対象とした地点は、発掘調算がである。全国調査対象とした地点は、発掘調算がである。今回調査対象とした地点は、発掘調査がら外れた河川原の旧直沿がで、部分的ながら整穴住居や土壌などの遺構分布の広がりが確認できた。	70.18.7		- 鎌倉時代	溝跡 土壙 堀跡	11 26 1			無色土器 須恵器 青磁		ぶ集落跡。中世前期以降に構築されたと考えられる一辺80~100m規模の方形館が注目される。漆跡は伝世したと考えられる畦畔等の区画から、上幅が5~10mほどと推測される。				
下叶水 集落跡 縄文時代 竪穴住居跡 2 縄文土器 横川上流部に位置する本遺跡は、山間奥地に営まれた縄文時代後期から晩期にかけての集落遺跡である。今回調査対象とした地点は、発掘調査から外れた河川際の旧道沿いで、部分的ながら竪穴住居や土壌などの遺構分布の広がりが確認できた。	下反田2 集落陽		亦 古墳時代	竪穴住居跡 溝跡	1			土師器坏 土師器高坏			山形市西部の須川左岸に位置する古墳時代後期 を主体とする集落跡。護岸工事に伴って掘削さ れる川岸間際の立会調査を行った所、竪穴住居 跡や土壙などが検出され、当時の集落が河川と 密接な係わりの中で営まれていたことが推察さ れた。			
(出土箱数2)	下叶水 集落區			土壙 柱穴	14 5	4 5				まれた縄文時代後期から晩期にかけての集落遺跡である。今回題査対象とした地点は、発掘調査から外れた河川際の旧道沿いで、部分的ながら竪穴住居や土壌などの遺構分布の広がりが確認できた。				

山形県埋蔵文化財調査報告書第210集

分布調査報告書 (35)

平成 19 年度以降農林土木事業他関係遺跡国土 交通省事業関係遺跡農林水産省関係遺跡東北中央自動車道関係遺跡

平成 21 年 3 月 23 日 印 刷 平成 21 年 3 月 25 日 発 行 発 行 山形県教育委員会 印 刷 株式会社ケムシー